

五十五年度総会風景

五十五年五月十一日



田 萩                      橋                      中      小山  
 洲 原                      本                      井      会長

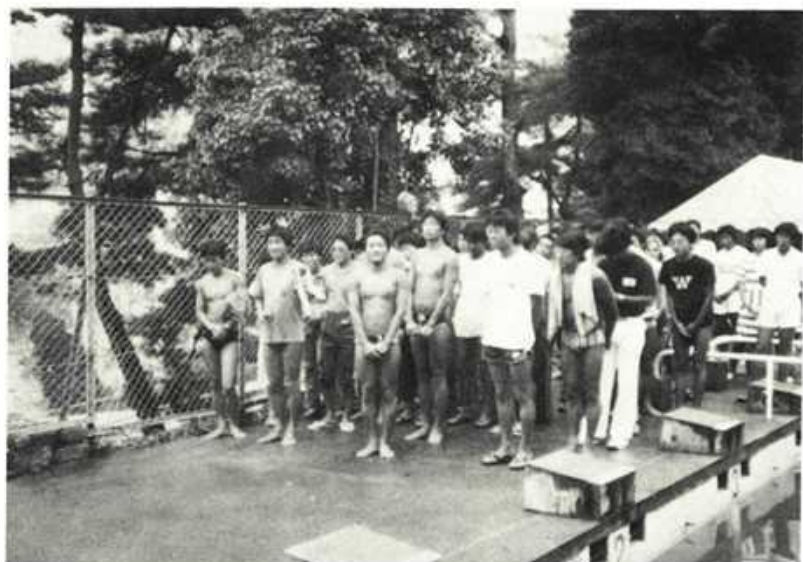


平    中    萩    後    平    慈                      田                      橋    岡  
 野    井    原    藤    石    幸                      洲                      本    田



旧三商大戦 第48回大会 S55. 7. 26 於 六甲台プール

(写真は200m個メ、スタートシーン)



神  
戸

大  
阪

一  
橋

開会式にて

S 55. 7. 26



石 以 吉 萩 米  
井 西 野 原 田

月見の宴にて

S55. 9. 15

乾杯する新旧OB

於 六甲台プール



後 油 中 村 慈 館  
藤 谷 尾 田 幸 谷



S 55. 6. 27

強化合宿終了後      プールサイドにて



S 56. 1. 11

初 泳 ぎ      (かるもプールにて)

# 目次

(表紙題字 藤井正太郎先生)

兵庫インカレ初優勝にちなんで					
観戦記	2 回生	野村 俊彰	3	現役員寄稿	
菊の栄光	兵庫県水泳連盟会長	吹田 大輔	3	月見の宴案内状返信より	34
書簡	〃		5	クラブに対する一つの視点	主将 冨岡 洋三
書簡	〃		5	アメリカ ザ ビック	副将 後藤 芳光
兵庫インカレの思い出	会長 昭7学	小山賢之助	5	第十六回全国身体障害者スポーツ大会	
三十年昔の兵庫インカレ	〃		6	に参加して	二回生 具竹 正人
兵庫インカレ	昭27学	石井 義章	7	現役員紹介	
兵庫インカレといえ	昭46 P	大橋 進	10	昭和五十五年活動報告	
神戸商業大学水泳部の思い出	昭53 P	平石 康	10	現役員自己最高記録一覧	
追憶	昭16学	森 芳夫	11	歴代十傑表	
「凌泳」復刊の頃	昭16学	山口 宗樹	13	昭和五十五年度凌泳会総会報告	
初 泳 ぎ	昭23学	武内信一郎	14	昭和五十六年度予算	
凌泳会東京支部新年会	昭30 B	田淵 五郎	16	昭和五十五年度決算報告	
身 辺 雑 感	昭47 J	井上与志男	19	昭和五十五年度行事報告	
凌雪会に参加しよう	昭41 B	樋口 周平	20	凌泳会会則	
萩原幹事御苦勞様でした	昭37 B	竹元 忠彬	22	凌泳会役員名簿	
会員からのお便り	昭53 P	平石 康	22	凌泳会会員名簿	
総会案内状返信より	昭27学	石井 義章	24	「商神」	
			25	「応援歌」	
				「水泳部部歌」	
				楽譜・歌詩	
				編集後記	

兵庫インカレ初優勝にちなんで

# 神大51年目で初優勝

## 旧制神大時代含めて 女子は武庫川V4

### 県学生選手権水泳

五十年度兵庫県学生選手権水泳競技大会は6日、神戸西代市民プールで男子競、女子競が参加して行われた。女子では佐藤真紀代(武庫川女大)が百メートル自由形で5分29秒0、四百メートル自由形で19分16秒1、男子では長知昇(神西大)が百メートル自由形で1分29秒8の大会新を出したのが光った。

大会新は男子で、女子でも五種目でマークされた。学校対抗の男子は神大が前身の旧制神戸商大時代も含めて五十一年目で初優勝を遂げ、女子は武庫川女大が四連勝した。

1位記録は次の通り。

【男子】百メートル自由形 金一俊(神大) 1分1秒5  
二百メートル自由形 斎藤勝彦(神大) 2分18秒

300メートル自由形 南啓世(甲南)	5分44秒8	八百メートル自由形 久保田啓己(神大) 10分0秒8	1500メートル自由形 坂本五郎(神西大) 1分16秒6	2000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 2分49秒8	3000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 4分19秒8	4000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 5分59秒8	5000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 7分39秒8	10000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 14分59秒8	15000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 21分19秒8	20000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 27分39秒8	30000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 40分59秒8	40000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 54分19秒8	50000メートル自由形 坂本五郎(神西大) 67分39秒8
100メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	5分29秒0	200メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	11分49秒0	400メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	23分09秒0	800メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	46分29秒0	1600メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	1分16秒1	3200メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	2分32秒2	6400メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	5分16秒4
500メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	12分49秒0	1000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	25分09秒0	2000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	50分19秒0	4000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	1分00秒4	8000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	2分00秒8	16000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	4分00秒2	32000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	8分00秒6
3000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	15分09秒0	6000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	30分19秒0	12000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	1分00秒2	24000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	2分00秒6	48000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	4分00秒0	96000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	8分00秒4	192000メートル自由形 佐藤真紀代(武庫川女大)	16分00秒8

【対校得点】男子 ①神大100 ②関学64 ③甲南大57 ④神西大55 ⑤神船大26 女子 武庫川女大134 ②神大53

感慨無量の関係者  
○：神大の初優勝は予想されてはいたが、さて決まってみると部員も大会関係者も感慨無量。表彰状を渡す吹田大会会長が「本当におめでとう。あなた方の努力の結果が、この栄冠をかち取ったんです。五十一年目です。先達も新聞を見ればきつと喜んでくれる」と感謝をたたえたと、水泳部長の方が「そうですか。知りませんでした」とびっくりする始末。

「この大会は昭和五年に当時の関学、姫路高校、神戸商大、神戸高工、神戸高商、神戸商船の五校が神戸学生水泳競技連盟を作って始まった。初めは高甲子園プールを会場とし、七年にはこの西代のプールができたのでここで熱戦を展開した。だから五十年記念大会でもあった。そこで、いままでも勝っていない神大が優勝、こんなに意義深いことはない」と長い大会史を振り返り思い出す。吹田大会会長(関学OB)だった。

昭和5年に、兵庫学生選手権が始まって以来、51年目にして初めて我が神戸大学は、兵庫学生選手権優勝を果たしました。この快挙を記念し、本年号は、兵庫学生選手権初優勝を特集として取り上げました。

## 兵庫インカレ観戦記

二回生 野村俊彰

ついにやりました。兵庫インカレ五一回大会にして、念願の初優勝を。今期の目標のひとつに兵庫インカレ一〇連破を狙う甲南大学をおさえて優勝することがあった。それに競泳の部でメインとなる三大対外試合の先頭をきっての優勝だっただけに、うれしさもひとしお。これも神大水泳部員がひとつとなつて、きつかった強化練習第一次合宿をのりきった賜物にちがいない。

七月六日(日)兵庫インカレは西代プールにてむし暑いなか行われた。OBのかたがたもみえられ、とにかく目標達成のため皆気合いがはいつていた。競技が開始され、まずは予選の部。別に大きな計算違いもなく、予定通りにすすんだ。そしていよいよ決勝。予想外の得点が入ったかと思うと、これまた予想外の失格がでたり。一位をとった種目が少ないということもあって、ハラハラのしっぱなしであった。そのため応援にも熱が入った。応援というよりギャーギャーと声をだしたと言った方が正しいかもしれないが。

たしかに一位の数こそ少なかったが、決勝進出者は全員得点をとる(約一名の失格者は除いての話)全種目においてわが水泳部はコンスタントに点を重ね、他の大学との差をどんどんとあけていった。九連破を成しとげてきた甲南大学はというと、なぜか今年はまだ

り元気なく、迫力不足で、結局三位に終わってしまった。また「怪物良知」率いる神商は四位。神大水泳部は、二位関学と三六点もの大差をつけてジャスト一〇〇点で初優勝。

「優勝、神戸大学一〇〇点」と正式に発表された時は本当にうれしかった。ただ記録的には伸び悩みだったことは問題であるが。

女子の部はというと、開会式の前からカンロクと迫力と人数で圧倒的に武庫川女子の勝ちでした。なんとも残念。

最後に「兵庫インカレ五〇周年」を記念し、OB戦も行なわれた。我が、神大からも、杉山、慈幸、平石OBが、往年の姿を披露、力泳された。

## 菊の栄光

兵庫県水泳連盟会長 吹田大輔

神戸大学水泳部の現役諸君、優勝お芽出とう。小山、橋本両先輩から兵庫インターカレッジについて何か書けとのことなのですが、当時の事情は小山さんとの手紙のやりとりでよく御存知のように、昨年七月七日、神戸新聞朝刊運動欄のトップ記事は「五一回目の快挙」という大見出しで飾られました。言うまでもなく神大の兵庫学生選手権水泳競技での優勝を告げるものです。

大正の初期、白山源三郎氏の大活躍によって知られていた凌泳会

も、爾來、昭和初期の山田常雄、野村弘、戦後の浜川広海等の各氏の個々の散発的活躍はあったが、相当長期の沈滞が続いた様でした。数年前、須磨のプールで兵庫選手権水球に神大チームが準決勝まで残り、テクニカルには兎も角、よく泳ぎ込んでまともにもよく、これはレイスの方にも強くなるのではと激励しておいたところ、案に違わず一昨五四年の兵庫学生競泳の部で優勝校甲南大に一点差に迫ってきました。若し、もう一点取っておれば創立以来のことなのだが、と二位校の賞状を渡すとき、一般にもわかるように披露したのですが、そのときの神大現役の諸君は馬耳東風と受け流していた様でした。そして昨年七月、今度こそはと、兵庫学生はじまって以来、又神大水泳部創部以来の快挙であるこの優勝を、特に説明つきの祝辞とともに、高らかにアナウンスしたのですが、その場では実感もなく、遠い他国の物語としか受けとめて貰えませんでした。

昔話になって恐縮ですが、県水連はもとと学生連盟を中核として出発し、貴方がたの先輩達がつくりあげて来たものですが、その源動力となった神戸インターカレッジ（後に兵庫学生）が創設せられた当初の加盟校は旧姫路高校、県立神戸高商、神戸高等工業、神戸商船、関西学院、神戸商業大学の六校でした。この中で県立高商（現神戸商大）は昭和七年から競技に参加していますので、チャーターメンバーとも言うべき当初の競技会参加校のうち現存校は商船大、関学、神大の三校で、後に甲南大と神戸外大が入ったので現在の六校となっているわけです。

この中で神大は戦後の吸収合併により、従来相当な競技会と普及力を保って来た姫路師範を含む御影、明石女子等の師範学校と、学連加盟校でもあった旧姫高、神戸高工を傘下に入れ、農学校、医学校も加わって現在の大学になったのですから、若し部員の選択と組織、練成の方法をうまくやれば、他校のように選手の補強等に悩むこともなく、そんなに無理をしなくても優位にたてる基盤をもってのわけで、特に教育（体育）学部は水泳が必須の科目に入ると思いますので、部員諸兄の自覚と練磨次第では今後とも大いに期待が持てるのです。

しかし、凌泳会のオリジンは何と言っても神戸高商、神戸商業大学以外の何ものでもなく、その先輩諸兄は往年、菊水くずしの校章をつけていました。神戸高工も菊水で、いずれも楠公ゆかりの紋章でもあるわけです。菊は根強く生き抜いて開花してゆく精力を持ち続ける花です。神大水泳部五一回目の快挙は実にこの菊の芯の強さ即ち凌泳会の積重ねられた根強い伝統の力によるもの以外の何ものでもないのです。このことは理解して頂けると思いますが、この伝統の力の上にこそ、ジャムボイスされた数の力による加速度があれば鬼に金棒、完璧が期待できると思います。長い間、関西学院の独断場であった兵庫学生選手権も近年風向きは完全に変わりました。弦月は満月をすぎて暗闇がつづき、礎は船脚が重くて暫らくはゆっくりです。兵庫学生のチャーターメンバーとしては菊の栄光だけがホープです。

現役の皆さん、歴史を知って下さい。愛校心もフアイトもこれにより自ら湧いてくるでしょう。これこそ神大水泳部の活力の源泉です。五十二回目は朝刊を見るまでもなく自信を持って盃をあげるように勝利に邁進して下さい。

折御健斗

雑言多謝

— 書 簡 —

昭和五十五年七月七日

東京 小山 賢之助 兄

神戸 吹 田 大 輔

神大現役員よりリポートされたかも知れませぬが、クリップイング(註)の通りの成績を挙げました。現在は地方のレベルの低い大会となっておりますが、何としても長い栄光の歴史と伝統ある競技会に於て、現部員の近年の努力(大部分が教育学部と聞いていますが)は讃えるべきだと思います。

幾多先輩諸兄が、半世紀に亘って築いてきた伝統の上に五十年にして華をさかせることになったといえましょう。神戸インターカレッジ創業期に参加せられた大兄には特に喜んで頂けると思います。

(註) 別掲の神戸新聞の切抜がクリップされてあった。

— 書 簡 —

吹田大輔様

小山 賢之助 拜

拜復 七日付貴状と神戸新聞のコピー有難く入手しました。折角五年振りには優勝しながら、神戸の先輩が不在だったようで残念ですが、それはそれとして、御忙しい中を御通知下さって感謝感激です。現役の連中も知らなかった様で、会長から御説明下さって、誠に礼の申し様もありません。

私も、神戸高商―神戸商大水泳部の歴史を書いて同窓会誌にも、又水泳部のOB会の本にも書いたのですが、兵庫インターカレッジといえ、創立の当時は御承知の様に関学の校内大会みたいなもので、関学の三人の選手の中に割り込むことは至難で平泳で神商大が喰い込むのがやっとなという状態でしたから余り記事にしていなかった訳で、現役の人はよく知らないのも尤もです。

五〇年経って強かった関学が、神大、神商大、甲南大等と肩を並べる様になったお蔭で？好レースが展開される様になった事は、喜んでいいのか、悲しんでいいのかわかりませんが、好レースを展開するとなれば一応存在価値があるのではないのでしょうか。五〇年の長い間、この会を育てて下さった会長に厚く御礼を申し上げます。

早速神戸のOB会の世話役に電話しましたが、神大優勝の事を知りませんでした。

一着の記録を見ると、神大、神商大、関学、甲南入り乱れで一着

をとって居り、五〇年前の関学一色とは違っているのに時代の流れを感じます。

つまらぬことを書き並べましたが、女子の武庫川女大は可成りの強チームの様ですから、今後とも御指導の上、兵庫インカレが益々盛大になる様お祈り致します。

不取敢貴状御請旁々御礼迄

勿々

昭和五五年七月一日

## 兵庫インカレの想い出

昭7学 小山 賢之助

凌泳編集者から与えられた課題は「兵庫」インカレの想い出、であるが、私の想い出は「兵庫」インカレでなくて、「神戸」インカレである。神戸インカレは昭和五年に始まっているが、その時の主催者は「神戸学生水上競技連盟」で会名は神戸学生水上競技大会であった。私は昭和五、六兩年即ち第一、二回に出場した。

連盟結成の話は昭和三年頃から出ていた。しかし当時神戸にはまだ大学はなく、所謂高専ばかりであった。その中で関西学院水泳部は最強を誇って居り、関西インカレでも優勝し、関東の全国インカレに出場しても早明に続いて第三位の実力があると考えられていた。

従って神戸インカレを開いたとしても、せいぜい関学水泳部の記録会に終るであろうとのことであった。

しかし、京都では大正十四年から京都インカレが行われて居り、大阪でも連盟が結成されたというので、神戸でもやらねばならぬこととなり、三年秋打ち合せ会が行われた。イニシアティブをとったのは当時の神戸高商であった。しかし結局昭和四年には日程のさし繰りがつかず、第一回の大会は昭和五年六月二十九日に行われた。

この結成当時の想い出として、甲南高校（旧制、現甲南大学）からK君という人が、最初の会議に出席されたが、昭和四年四月K君は甲南を卒業して、昇格したばかりの神戸商業大学に入学された。

私はK君に水泳部入部をすすめたが、断わられた。もっとも彼が入部してもあまり水泳部の力の足しにはならなかった。という事実があった。

第一回大会は浜甲子園で行われたが、その結果は予想通り関学の圧勝に終りその順位は次の通りであった。

1位関学、114点、2位商大、46点、3位神戸高等商船、42点、4位姫路高校、17点

リレーを除いた個人種目の得点は関学大90点、他の3校得点合計57点、全く関学の記録会であった。各校各種目三名宛出場するのであったが、関学の三人の中に割り込んだのは、200米平泳1位、吉田（商船）2位、健本（商大）3位、小山（商大）50米フリー2位、三吉（商大）100米フリー3位、山田（商大）の五名で三位迄を得点

するとすればその点数は僅か9点であった。これに対し関学の得点は33点

第二回昭和六年は、六月二十一日に同じく浜甲子園で行われたが、結果は次の様であった。

1位 関学、120点、2位 商大、37点、3位 姫高 28点、4位 商船 25点、5位 高等工業 16点

これを前年同様関学のトリオに割り込んだ者をあげると次の通りである。

200米、平泳 1位 小山(商大)、50フリー、3位、山田(商大) 100フリーに姫高と高工がそれぞれ三位を獲得したに止った。個人種目の得点を三位までで計算すると、関学36点、他の諸校6点であった。第一回よりも第二回の方が関学の得点は多くなった。

私事にわたって恐縮であるが、第一回に私が三位に落ちたのは、極東大会の予選と本大会の二回の東京遠征の疲労から脱却し切れなかったためであった。

本稿をここまで書いてきて、ふと昨年の兵庫インカレの神戸新聞の記事を見ると、その女子の部は、1位、武庫川女子大 134点、2位、神大、33点、武庫川女大、V4、とある。

必然か、偶然か、当時の関学と神商大の差は昨年の女子における武庫川と神大の差によく似ている。200バタで神大辻さんが一位をとって武庫川の完勝を阻止しているが、これは第二回大会で商大が平泳を取って居り、関学はこの年関西インカレV4であった。かすか

ずの類似点がある。

願わくば、女子の部で神大が武庫川に勝つのに50年もかからずにやって貰い度いと思うのである。

### 三十年昔の兵庫インカレ

昭27学 石井義章

七月七日の夜だったと思う。仕事より帰宅すると女房が、小山会長より電話がありましたよと云う。何事ならんと早速電話した所、昨日の兵庫インカレで神戸が優勝したそうだな、お目出とうとの事。これはしたり、優勝は勿論、昨日そんな試合があった事もすっかり忘れていた。

何でも吹田大輔兵庫水泳連盟会長より直々電話があり、神戸初優勝を伝えられたとの事である。その上、神戸のOBが、一人も声援に行つてなかつたそうぢやないかと、お叱りを被った。尤、これは後になって確かめると、平石君始め四、五人のOBが居た様である。何れにしてもこの日私は、兵庫の事務所に出ていたが、西代の市民プールは車なら五・六分の所、格別の用もなかつたので、この世紀の一戦を見そこなつたのは返す返すも残念である。

翌日会社で、昨日の新聞をめくって見ると、出てる出てる、三段抜きの大きな見出しで「神大51年目で初優勝」をデカデカと出てい

る。そしてその解説文に、昭和五年の第一回大会以来、旧商大時代を含めても初めての優勝である旨の吹田大会々長の談話が添えられている。この事は、現役員も知らなかったそうだが無理もない。私自身昭和初期の商大全盛時代には一度や二度優勝しているのだから位に思っていたのだから。

さて、前置が長くなったが、初優勝を記念して「凌泳」に思い出しの記事を書く様にと依頼を受けた。しかし、何分三十年も昔の事サッパリ思い出せない。何か手がかりでもあればと、古いスクラップブックをひっくりかえして、やっと昭和二十五年と二十六年のプログラムを見つけ出した。私が学部に入ったのは昭和二十四年だが、この年の分はどうしても見つからなかった。

黄色く変色し、今にもバラバラになりそうなプログラムを繙くと、頭の下に沈澱していた、古い記憶が少しづつ浮び上って来た。

昭和二十五年の大会は、六月二十五日、王子公園プールで、神戸市民選手権大会と一緒に開催されている。

この王子公園プールは神戸市内に於て、戦後に作られた競泳用公認五十米プールの第一号である。まだ戦災の傷も癒えやらぬ焼跡、鬧市の街中に忽然と出現したこのプールに、目を見張ると共に、復興の光明を見出した様な感激を覚えたものである。

所が、このプールの開場記念式典は七月二日の第一回五大都市体育大会の水泳競技大会の折に併せて行われている。どうやら、こけら落しの前に兵庫インカレが使ってしまった様だ。

さて、肝心の競技の内容であるが、どうも朦朧として思い出せない。幸いプログラムに記録が書き込んであったので、各種目の優勝タイムその他を書き抜いてみた。(別表参照)

三十年もたつと、当時の競技の水準或は諸先輩の活躍の様子も偲ばれ、それなりに興味があるう。とにかく、関学が無闇に強くて、浜川が、五十米自由型に食い込んで、関学の全種目優勝を阻むのがやっとと云う所であった。

昭和二十六年、吾々の現役最後の年である。この年は、背泳の田淵、平泳の榊原その他有望な新人が大挙して入部して来た。新制三回の諸君である。

競技は六月二十四日関西学院プールで開催された。六甲の山麓、甲山にほど近い、関学キャンパスの一角、草原か畑の様の中にプールはあった。そのそばに、ボブラカ何か大きな樹があった。その根本に荷物を置いて陣を張った事だけが、古い写真でも見る様に、臙げながら脳裡に浮んで来る。

戦績は別表の通り、新人の諸君が大いに頑張ってくれたが、やはり関学の堅壁は抜く事が出来ず、この年も浜川が五十と百の自由型に優勝、一人気を吐いたが、他は全部関学に一位を奪われた。

尚、この年は、神外大、海技専は選手を送らず、関学、神大、神商大の三校のみによる試合であった。

今、このタイムを五十四年度の現役部員のベストタイムと比較してみると、百背を除いて、すべて上回っている。又、今回の兵庫イ

昭和25年 兵庫県学生選手権水上競技大会

昭和25年6月25日 於、王子公園プール(公認50m)

- 200m 継 ① 関学 2' 05" 0 ② 神戸大(岡沢, 今枝, 奥田, 浜川)
- 200m 平 ① 右手(関学) 3' 02" 2 ④ 石井 ⑤ 煎塚
- 400m 自 ① 樋口(関学) 5' 32" 4 ④ 小原 ⑤ 今枝 ⑦ 小平
- 100m 背 ① 山本(関学) 1' 14" 0 ③ 天野 ⑤ 菅 ⑦ 中井
- 100m 自 ① 樋口(関学) 1' 03" 4 ② 浜川 ⑤ 奥田 ⑥ 岡沢
- 100m 平 ① 右手(関学) 1' 21" 2 ③ 今枝 ⑤ 煎塚 ⑧ 石井
- 50m 背 ① 山本(関学) 33" 6 ④ 天野 ⑤ 菅 ⑧ 中井
- 50m 自 ① 浜川(神戸大) 28" 0 ③ 岡沢 ④ 奥田
- 300m 混 ① 関学 3' 42" 6 ② 神戸大(菅, 今枝, 浜川)
- 順位(得点) ①関学(102), ②神戸大(61), ③神商大(22),  
④神外大(4), ⑤海技専門(0)

昭和26年 兵庫県学生選手権水上競技大会

昭和26年6月24日 於、関西学院プール(25m)

- 200m 継 ① 関学 1' 55" 4 ② 神戸大(田淵, 今枝, 岡沢, 浜川)
- 800m 自 ① 西岡(関学) 11' 10" 2 ④ 小原 ⑧ 橋本
- 100m 自 ① 浜川(神大) 1' 01" 8 ⑦ 岡沢
- 200m 平 ① 川瀬(関学) 2' 56" 0 ③ 榊原 ⑥ 増井
- 50m 背 ① 山本(関学) 33" 2 ③ 田淵 ⑥ 天野
- 200m 自 ① 樋口(関学) 2' 22" 6 ⑤ 溝口 ⑧ 佐藤
- 100m 平 ① 川瀬(関学) 1' 18" 2 ③ 榊原 ⑤ 増井 ⑦ 煎塚
- 50m 自 ① 浜川(神大) 27" 2 ⑤ 今枝 ⑦ 岡沢
- 400m 自 ① 永見(関学) 5' 19" 2 ④ 小原 ⑤ 溝口 ⑧ 橋本
- 100m 背 ① 山本(関学) 1' 11" 6 ③ 田淵 ⑥ 天野
- 300m 混 ① 関学 3' 34" 6 ② 神戸大(田淵, 榊原, 浜川)
- 順位(得点) ①関学(141), ②神戸大(58), ③神商大(31)

ンカレの各種目一位のタイムと比べてみると、やはり百背以外は全部書替えられる事になる。この三十年間のレベルアップを痛感する

と同時に、当時の関学の山本速水選手のタイムが一際光芒を放っているのに気づくのである。

## 兵庫インカレ

昭46 P 大橋 進

同期の岩切君からTEL。

「兵庫インカレのこと書いて欲しいと、マネージャーの酒井君からたのまれた。大橋書いてくれないか。」

「ちょっと待って、俺、あんまり憶えてないで兵庫インカレは。」

「実は僕も……………」

「集中豪雨。市大戦のあと。電車が止ったの。あれから四二年やろ。みんなでビールのんだのは良かったんやけど、腰まで水につかって帰った。」

「そうそう、あのあと、ブルの水がかえられなくて、パンツのひもが緑色になった。」

「他にも、封鎖中高倉台であった全学集会の次の日の京阪神三大学。すりむいて泳ぐと痛いというもの……………」

「それに、八〇〇米リレーで、となりのコース泳いだこと……。兵庫インカレのことはないなあ……………」

「大学に入って一番はじめの試合。あれ兵庫インカレやろ。六月のはじめの……………」

「そうそう、甲南大のブルでやった。」

「浅いブルで頭を打ちそうだった。」

「みんな、水泳、大学になって始めたから（一九期生はシロウトが多かった。）甲南大の野村と関学大の諸戸を見てびっくりしたなあ。」

「そうや、モーターボートみたいに、背中に水がなかった。うちには、あんなのいかなかったからなあ。」

「しばらくの間、泳ぐというのは、あんななんかいつも話をしていたなあ。」

「ところで、いつ帰ってくる。同窓会せなあかんから。」

「仕事の都合で、近いうちに行けそうだ。」

「連絡してや。」

「ああ、じゃあ、たのむ」

## 兵庫インカレといえは

昭53 P 平石 康

とにかく、念願の優勝おめでとう。それも五〇周年記念大会に、百点満点きっちりだなんて、ちょっと話がすぎさげだ。

普通は、関西国公立戦に焦点を合わせるの、あまり兵庫インカレを重要視しない。やっきになって、優勝しようとは思わなかったし、過去の間に関大・関学・甲南の三校で、カップがまわっているものとばかり思っていたので、初優勝と聞いて、全く以外であった。この時期（七月上旬）は、合宿の前後で、まあ一番、シーズン当初

でもあるし、気力が充実している時でもあるので、ベストが出やすい大会であった様に思う。

この大会は、ずっと商船大プールであったのであるが、一番、印象深いのは、第四七回大会、甲南高校プールで行なわれた大会だ。二年から入部した杉山が、輝やかしい記録（大会新・神大新）で、百自、百背、二種目征覇という、華々しいデビューを飾った大会であった。初めて百背で、一分一〇秒を切ったことと、四〇〇混雑のアンカーで、未公認ではあるが、一分の壁を切ったことが、すぐ目に浮かぶ。中でも四〇〇混雑は今でも胸が熱くなる。アンカーに渡った時、一位の関学とはすでに、七・八米の差があった。「ああ、これだけの差では。」しかし、その差は半分泳いだ所で、三・四米、全員、こぶしを握りしめて「行けク杉山」「行ってまえク」関学のアンカーも必死であったが、両者の水しぶきが接近してくる。「あつ、とらえた。」「やったク」その瞬間、両者同時にタッチ、神大席は、興奮のるつぼであった。全員両手を上げて「万才ク」関学席はシューンとしている。全員が、勝利に酔いしれている時、場内アナウンスの声「只今の結果、第一位、関西学院大学、時間……」場内全体から「えい。」「うそ。」「おかしいちゃうか。」批判の声が、ブーブー上がる。すかさず審判席に抗議したが、着順判定員の多数決で、判定員の決定は崩しがたかった。関学席も一位ながら、以外な表情であった。同時タッチは、追い込みの勝ちというルールは、誰しもが認める所だ。今でも、あの判定には、不信の念が

つる。

話は、かわって、最後に言い忘れていたことがある。この大会で、神大新が、三つでた。一つは、百背泳、もう一つは、四百混雑、あともう一つは、~~二百平泳~~なのだ。

記録は、破るためにあるもの、みなさんの健闘を祈ります。

## 神戸商業大学水泳部の思い出

昭16学 森 芳 夫

神戸商業大学水泳部三年間の思い出としては、夫々の年に次の三つの出来事がある。

(1) 昭和十三年四月神戸商大に入学したその年の七月に神戸の大木害にあったことである。

当時水泳部は大内義仁さん（八回生）がキャプテンであったが、三商大戦に備えて篠原本町に二階家を借りて合宿していた。私は当日独乙語の試験があったので、その前夜に下宿の大土平町の高麗荘というアパートに帰って勉強していたが、一夜明けた朝一階の食堂に行つたところ、前の溝が普段は底を水がちよちよる流れているのが当日は泥水がごうごうと音を立て、流れており、隣りのドイツ人の家の端で地下の暗渠に入っているのが、水嵩が多いので見えなくなっていた。

食堂に集った全員が食事をするのも忘れて之を見ていたが、その内に水嵩はどんどん増し、材木のようなものも流れて来て、之が溝の壁に当たると大きな音を立て、アバートがゆれ、水は暗渠の上の地面に溢れそうになって来た。

面白半分に見ていた食堂の全員も事の重大さに気付き、之は大変なことになって来たと緊張して言葉も出なくなってしまった。

その内に水は溝に一杯になり、ドイツ人の家の端で地上に溢れ出し、物凄い勢いで傾斜のある土地に沿って流れ出した。此の鉄砲水がどんどんと三つ位い家に当たるとその家はマッチ箱のようにつぶれ、濁流に巻き込まれ、あとかたもなく流れてしまい、見ていた我々の度胆を抜いた。

その内にアバートのゆれも激しくなり、隣りのドイツ人の家があつという間に押し流され、アバートもいつ流されるかわからなくなつて来たので全員退避を決め、各人の室に帰えり、重要なもののみを持って裏側の百姓家に避難した。百姓家の向う側には矢張り小さな溝があつて、それを渡らなければ向う側に逃げる事が出来ないで、止むなく、百姓家で様子を見ることにした。

その内に裏山の方でゴウーという音がするので振り返って見ると所謂山津浪で裏山が浪のように崩れて来るではないか。びびくり仰天、あわてゝ百姓家を飛び出し前庭に避難したが幸い土砂は百姓家の裏庭で止まり、事なきを得た。

此処に居れば又山津浪に襲われるかも知れないので、小さな溝

を越えて逃げなければと向う側に大声で助けを呼びかけた。暫くして消防団の方が来られ、板と綱を渡して呉れたので之を渡つてやつと脱出することが出来た。

渡つてしまえば、そこは何でもなく、暗渠が元の川に復元してしまつた場所のみが被害を受け、その他の所は全然被害がなく、まるで今までのことがうそのようであつた。

助かつたらとたんに空腹に気付き下のエクランに行き、食事をするともにはだしになつてしまつたので、近所に住んでいた友人にズック靴をもらつてはいた。エクランで休息をとり、様子を見ていたが、ようやく状況が落ち着いて来たようなので合宿が心配になり、篠原本町の方へ行つて見たら合宿は一階がすっかり埋つてしまつて二階から出入りをしていた。大内さんが足に怪我をしてはいたが、それ以外には被害がなかつたことは不幸中の幸いであつた。

上記のような事情で当日合宿にいなかったため、合宿の一階が埋つてしまつた経緯については残念ながら知らない。之では三商大もお流れになるかも知れないので、何かあれば電報で知らせるとの事で郷里の静岡へ帰えつた。帰えつてしばらくすると三商大を予定通り明治神宮で開催することになつたので、これこれの急行に乗れという指示があつたので、それに静岡から乗り、東京へ行き試合を行ったが優勝は出来ず、第二位であつたと思う。

夏休みが終り神戸に戻り、高麗荘に行つてみたら一階は埋つて

しまっていたが、幸い私の室は二階だったので荷物は助かった。芦屋川には大きな石がごろごろしており、水の力の恐ろしさをまざまざと見せつけていた。

(2) 昭和十四年の三商大は大阪の甲子園プールで行われたがこの時は中村市治さん(九回生)がキャプテンで競泳、ボロともに圧倒的な強さで優勝して、甲子園プールで万才をした。

表彰式が終わったら大谷先輩が今から大阪へ行って祝勝会をやるということで自動車を連ねて阪神国道を大阪に向った。小路で自動車が進まなかったので車を下りたら、学生は帽子と上着を脱げといふので、その通りに学生全員が脱いでしばらく歩いて行くと大きな料理屋に着いた。これが有名な南の大和家であった。

玄関の式台に芸者が大勢手をつけて、いらっしやいませ、と出迎えられたのはびびくりした。

当夜は大谷先輩の顔で無礼講で飲みや歌えの大騒ぎであった。北村五良先生(水泳部長)が若い芸者をひざに乗せて御機嫌であったのを憶えている。

その夜はそこで雑魚寝して、翌朝合宿へ帰えったが、暫らくその話でもち切りであった。

此の夜が縁で南の芸者さんと仲よくなり、そのあとの試合の度にプールに三人の芸者さんが応援に来るようになったが、残念乍ら私は関係なかった。

(3) 昭和十五年の三商大は東京の神宮プールで行われたが、此の時

のキャプテンは海軍の主計士官で戦死した部坂克夫君であった。最後の八〇〇米リレーまで神戸が一位で、大阪二位、東京三位であったが、此のリレーで神戸は二位になれば優勝、神戸が三位でも大阪が二位ならば神戸が優勝、神戸が三位で大阪が一位の場合に大阪が優勝ということであった。

結果は最悪の大阪、東京、神戸の順となり優勝を逸してしまつたが、最後まで息づまるような戦いであった。

三年間の三商大戦で競泳で優勝したのは二年の時丈けであったが、夫々の年に思い出があり、今の学生では味えないことも経験し、本当に楽しい水泳生活であった。

昭和十六年三月に卒業したが、大学生活を満三年やったのは我々が最後で、次の回より戦争の為に繰り上げ卒業となった。

昭16学 山口宗樹

#### 追記

昭和十三年の大水害とは、七月五日の早朝から始まり神戸市内の山津波をはじめ阪神地方に大きな被害を与えたもので、七月三日から五日にかけて六〇〇ミリの越える豪雨が降り、そのため河川の氾濫・堤防の決壊が相次いで、死者二〇〇名、行方不明四〇〇名の犠

死者が出た。

小説「細雪」に谷崎潤一郎はこの大水害について約四〇頁を割いて筆を運んでいる。ほんの一部を拾って見ると

「幸子は夫が出て行ったあと、自分も何かじっとしていられなくなつて、いくらか雨が小降りになつたのを幸いに門の前まで出て見ると、そこへ芦屋川駅前のガレージの運転手が通りかかつて挨拶をしたので小学校の様子を先ず尋ねた。

多分大丈夫でしょうと云う答えであつた。併し芦屋川もひどいけれども、住吉川の氾濫の方が遙かにひどいと云う噂が専らである。

電車は阪急も省線も国道も皆不通なのはつきりした事は分らないが、西の方から歩いて来る人達に聞いてみると、此処から省線の本山駅あたりまでは、出水もそれ程ではなく、線路の上を伝わって行けば水に漬からずに行けるけれども、あれから先は、西へ行くほど一面に茫々たる濁流の海で、山の方から大きな波が逆捲きつつ折り重なつて寄せて来ているいろいろな物を下流へ押し流している。

人が畳の上に乗つたり、木の枝に纏つたりして助けを呼びながら、流れに行くけれどもどうすることも出来ない有様だと云うこととすと記している。

之は小説ですが、誇張ではなく、確かに我々も六甲のケーブルカーが線路もロープも全部流れたのを知っていますし、三宮の国電のガードの近く迄土砂が埋つたのも見えています。

果して現在の六甲山系の住宅地開拓が安全なのか不安を憶えます。

昭和十三年の三商大戦はこの惨事とショックで好成績を挙げられなかったのは残念でした。

## 追憶

昭23学 武内 信一郎

昭和十七年四月と云えば今を遡ること四〇年弱、遙か彼方の様でもあり昨日の様に思える。この年私は胸をふくらませて予科に入學したが入寮の当日は各運動部からの勧誘合戦の中で私としては小学校以来続けて来た水泳部に何のためらいもなく申込んだ。全寮制度であつたが一年生時代は運動部単位でなく、各部屋三〇名位で各組入りまじつた形で生活をし二年生以降は各運動部単位で部屋割しであつたと思う。

入部した時の陣容としては水泳部長が竹之下教授で部員は一回生で山之内、井川二回生で山崎、三宅、石井の各先輩方三回生では岩永、小川、岡、山越、吉村の諸君であつた。

その頃は既に個人競技は殆んど許されない時代であり自ら海に於ける遠泳競技に集中せざるを得なかつた。海中での練習を厳禁されていた小中学生時代とはガラッと環境が變つて来た。専門プールが無かつた事もあつてあちらこちらのプールを転々とし乍らの練習も続いた。当時の水泳適令期は十五、十八才位と思われ丁度その絶頂

期であったようで一日四〇五〇〇米の練習は苦しいながらも後味のよい疲労と爽快さを伴ったものだった。

翌十八年二年生になると三回生も水泳部の部屋にまとも生活するようになったがこの頃は既に食糧事情も大分窮屈になって来た。練習後の空腹に耐りかねて所謂食堂アタックを試み始めたのもこの頃だった。

十時すぎまではおとなしく蠟勉していた河童達も皆が寝静つてくるとソツと食堂の厨房室にしのび寄り寮のすぐ傍を通る夜汽車の到来を待ち受けその騒音を利用して入口の戸を開けお櫃の中味を頂戴するのである。成功した時は部員全員集って戦果を分ち合い味ったスリルの自慢話に打興するのであった。他合もないが若干の罪の意識はあったと思う。一度だけ失敗しバツと電灯をつけられ素顔を照らし出された時のバツの悪さは今でも思い出す。

記憶に残る競泳大会としては三津浜沼津間の競泳で午前十時頃出発し途中泳ぎ乍ら握り飯を食べ激しい潮流と戦い午後二時すぎやとと辿りついた。この時の参加グループの半数近くが潮流に抗し切れず静浦湾内に流されたと思う。この後故郷へ帰る各停列車の中で疲労の為連続十六時間眠り続けた記憶が残っている。

もう一つは競泳ではないが京都・奈良(?)間の行軍競争が想い出される。全国高校各十名一チームを編成し八kgの重量物を入れたリュックサックを背負い皮靴ゲートル巻きに小説と教練姿で駈足競争をするものだった。

当子科では各運動部よりマラソンに強い者を選出して特訓をしたが水泳部では山越君と私の二人だったと思う。小雨の降る悪条件の中で失心寸前の同僚の頭を銃床でコツキながら完走した苦しさは今でも忘れない。

三年生になる頃は戦争は更に拡大し勉強や運動よりも勤労働員が増えて来た。

一つは島根県の水害復旧作業である。場所は江川の上流川本町附近で河川氾濫により埋った田畑の土砂排除が作業の内容であった。水泳部も全員附近の農家に宿泊し一ヶ月ばかり毎日朝から晩までよく頑張る地元の人達から感謝されたものだった。

二つ目は尼崎製鋼(現在住友金属)への勤労働員である。一日二交替十二時間労働で押出鋼管製造の補助部門(私の場合には加熱炉の龍吹き)の応援だった。丁度真夏の時期であった上に工場内の熱作業で汗をポトポト落しながら塩分不足を補う為塩を管め働いた。宿舍では昼勤の時の夜はともかく夜勤の時蒸風呂の様な部屋の中での昼寝は仲々容易でなく大豆粕の入った食事の劣悪さと共に皆の体は病魔に犯されはじめ子科生の中から体を悪くして休む者が増え工場から一人二人と減って行った。

徴兵適令期の一年繰下げもこの年に実施され私も勤労働員から退き山越君と一緒に海軍予備学生に入隊したのはその年の秋十月であった。

想えば子科の水泳部時代は戦後のそれとは異り吾々の静かで澄み

切ったプールの水の中での活躍を許さず世界の荒波に翻弄された時期であった。

## 「凌泳」復刊の頃

昭30 B 田 湖 五 郎

昭和二十五年 聖徳太子の千円札が登場。魚・衣料の統制廃止、タバコ配給廃止。「チャタレー夫人の恋人」が発禁に。

昭和二十六年 日本初のカラー映画「カルメン故郷に帰る」封切。

「羅生門」ベニス映画祭でグランプリ。講和・日米安保条約調印。

昭和二十七年 NHKラジオドラマ「君の名は」放送開始。洋画

「風と共に去りぬ」公開。ヘルシンキオリンピック。

昭和二十八年 「凌泳」復刊第1号。テレビ放送開始。伊東絹子ミ

スユニバース第三位。「シエーン」「終着駅」など。

昭和二十九年 プロレス全盛へ。テレビやっと二万台。防衛庁・自

衛隊発足。吉田内閣総辞職。「ローマの休日」。洞爺丸沈没。

昭和三十年 洗濯機・冷蔵庫などの電化ブームとナイロン製品の

普及。神武景気。「太陽の季節」。「エデンの東」。

昭和三十一年 日本住宅公団などの「団地」誕生。「週刊新潮」が

加わり週刊誌ブームに。TV三〇万台突破。「もはや戦後ではない」。

X X X

以上のような世相の中で「凌泳」は復刊された。今から約三十年前、高商水泳部の創部後約三十年後という訳でほぼ真中に当る。

石井幹事長からその頃の苦勞話でも書け、とのことでした。が何しろ約三十年の間に資料は散逸し記憶は薄れるし、とても小山会長の様な正確な歴史は書けません。同世代の皆様の一部御援助を得て断片的な思い出を綴りますが、やはりこれは今年の総会の時にでも多勢御参集の機会に記録を持ち寄り、語り合って修正して行くべきではないでしょうか。

X X X

五十四年度「凌泳」に石井幹事長が復刊第一号について触れられている通り、昭和二十八年四月発行で本文十頁のみの簡素な内容である。発行者は三宅先輩（昭22学）と当時のマネージャー佐藤君（昭30 J在米）となって居り、佐藤君が印刷・校正・発送など苦勞したが、三宅先輩の方が当時の幹事役として諸先輩に呼びかけられ、復刊の原動力となって頂いた筈である。

巻頭に故藤井正太郎先生が大正十年に遡る凌泳会との交流の思い出を記された上に、題字の揮毫も頂戴している。

故古林先生は復刊と同時にプールの返還を祝福され、その前年に北海道出張の折にも水泳着を忘れなかったとの凌泳魂を披露して居られる。

それから故村上秀造先輩（昭13学）の復刊の御挨拶があるが、特

に昭和二十年代の混乱期には同氏を初め川崎系の諸先輩が凌泳及び現役を良く世話して下さった貢献は大きい。

「凌泳」復刊の産みの親である御三方の御冥福を改めてお祈り申し上げます。

小山先輩・草野先輩も御投稿頂きましたが、丁度御多忙の大阪府在勤時代に我々一同御世話になりました。それから伊藤先輩（昭13学）も御投稿あり、試合のあと現役一同で元町の天ぶら屋で御馳走になった記憶があります。思えば我々昭和一ヶタ族も当時の諸先輩以上の年令に達しているのに、その当時の現役が受けた以上の恩恵を施し得ないではないかと反省致して居ります。

高島先輩（昭9学） 荻野先輩（昭18学）がその前年完成の凌泳会員名簿のことに触れて居られます。実はこの名簿の整備が大変な作業で、凌泳会活動のかなりの部分を占めるのではないのでしょうか。我々入学時は西岡先輩（昭27学）が名マネジャーとして活躍して居られました。プールを借り歩きの苦しい時代に、その前代から引継いだ貴重な資料を整備して置いて頂いたお蔭で、名簿の発行、「凌泳」の復刊に漕ぎつけられたのだと思います。復刊は二十八年で我々新制の時代ではありましたが、そうした開花の土壌は旧制の時代に整えられて来た訳です。

同期の桜曰く「俺達は頭だけ新制で、腰から下は旧制のまゝやか

ら……」

前述のプール借り歩きの件。二十七年六甲台プール返還までの間は神戸高、松蔭女学院、灘高、魚崎小、西代市民プールその他の放浪で特に諸先輩は苦勞された。小原先輩と確め合った記憶では二十七年の春休みに、やっと返還された六甲台プールに山の水を引くための土木工事を我々部員でやった筈。運動場の脇を延々と掘り進んで土管を埋設する作業は辛いもので、同期の中では抜群の力持ち村田君の偉力は絶大であった。

新制の世代の姫路分校のプールも凌泳史に大きなページを当てられるべきであるが、これについては小原先輩以下逸材が多勢居られるので是非別の機会に寄稿して頂きたい。

合宿の件。最近の現役は春季は温泉プールなど楽しそうなのも含めて年二〜三回合宿している様だが、昔は貧乏でもあり少かった。

二十五年 阿波鴨島 二十六年 高知、姫路

二十七年 今治（中村先輩御世話になりました）

二十八年 津山（美しい町でした）

二十九年 六甲台（買ひ物と炊事が大変）

三十年 岡山

などが数人から確めた合宿先であるが、記憶違いもあるかも知れない。当時は写真も珍しい頃で私は残っていない。DDTを持参し

たこともあった。誰か想い出を又書いて見て下さい。

× × ×

戦績の件。この拙文が掲載される号には兵庫インカレ優勝（五十五年度）を祝して特集が組かれるとか……。初優勝おめでとう。

我々の頃の兵庫インカレは関学の全盛時代で歯が立たず、甲南大や商船大は参加せず、神大二位、神商大三位はほとんど不動であった。ただ私としては二十七年の同大会で、関学のオリンピック候補選手山本速水を抑えて五十背泳三十二秒〇、一〇〇背泳一分十一秒八と二種目優勝できたことが印象深い。

在学中三商大戦は三勝一敗、市大戦は全勝（多分）。関西インカレは一部で五位あたりという団体成績であった。榊原君と話したことが二十九年に第一回全国国公立大会において彼と私の優勝と福岡・松田君等の奮闘で団体二位（優勝は多分阪大）を確保できたことも成果であった。

但し水泳は大いに努力はした積りだが残念乍ら勝ち試合の記憶が殆んどない。

× × ×

フンドシなどの件。我々は水泳は六尺フンドシを縮めてやるものと決めていた。現在はさすがに常用しないが、フンドシなしで海パンを着けると何か頼りない。「サリチル酸」の感触と共に懐しく思い出すフンドシの締め心地……。序で乍ら昭和二十年代の通学スタイルは圧倒的に学生服に角帽着用が多く、実に堅実なものであった。

特に夏は下駄履きが軽快で水泳には便利であった。

拙文の冒頭の世相を再読願いたい。現役諸君にとっては親爺どもの繰り言と取られるかも知れないが、当時は丁度「戦後」と「成長期」の谷間である。

疎開とか空襲とか動員を経験し、強烈な飢えの記憶と同じ頃に水泳を覚え、青春時代を水泳で確かめ直す様な気分であった。「戦後」が終りかけて世の中が落着いて来た頃であった。

旧制の伝統を受け継いで神大も総合大学への道を歩んで行った。旧制の象徴の一つが愛すべきフンドシであった。

× × ×

「タコ足大学」と紳名された母校、……その頃の姫路分校から、理・工学部から試合や練習にお集り頂いた皆さん……本当に御苦労様でした。しかし皆様のお蔭で古林先生の目指された総合大学への第一歩が固められ、今日に結実しているのです。

あの頃の先輩・同輩・後輩の一人一人のお名前を挙げて、御礼やらエピソードなど語りたい所ですが、出来れば五月の総会に集りたいものです。

最後になりましたが真摯で愛すべき兄貴、故中島功先輩と、サブマネと学友会で大活躍された同僚故今井彰君の御霊に合掌。

## 昭和五十六年 初泳ぎ

昭47丁 井上 与志男

社会人となつてから、確か二度目の初泳ぎ参加になると思います。神戸近辺に住んでいながら、この不真面目さでは、神戸から遠く離れて暮らして居られる諸先輩から、ずい分とお叱りを受けそうです。

この前の初泳ぎは、もう数年も前の事……今は亡き古林先生が御健在で、場所も阪神電鉄新在家駅近くの、神戸製鋼の温水プールで、久しぶりの先輩や後輩に会い、なつかしく、又楽しく泳いだ事を思い出します。

泳ぐ事は好きで、毎年真夏にはよく泳ぐのですが、生来、気候には敏感な方で、寒い季節には暖かい部屋で、室内ゲームや白玉の露の方が余程性に合っているのか、あまり外へは出たくないので。しかし小生も三十才を過ぎる事〇年、そろそろ腹まわりに余分な脂肪がつきはじめ、実行に移せないまでも、健康について、いろいろと考えているのです。

さて、今年の初泳ぎですが、一月十一日午後一時、兵庫の「かるもプール」で行われ、現役部員二十六名の元氣あふれる顔の間に、吉野先輩（学9）、石井先輩（学22）、北村先輩（新7）、長谷川君（新22）、そして新26回の平石、塩浜、平野の三氏が集まり、二つのコースを借りての初泳ぎは暖かい室内でもあり、現役諸君には

熱氣があふれ、又、我々は最初の一〇〇米こそは現役諸君と一緒に泳いだものの、後はのんびりと思いのままに、泳いで休み、休んでは又一腹と、正しく正月気分のまだ抜け切らぬ中で、ゆっくりと初泳ぎを楽しんだのです。

プールから上った後は、カレライスパーティーとなり、いつもの様に、先輩そして現役部員の自己紹介。その中で印象に残ったのは、現役諸君の現代の若者らしい屈託のなさ、いつの世も変らぬ若人特有の明るさ（こんな書き方をすると小生がずい分と老けているようですが、とんでもない、小生だって、まだまだ若いのです。ただほんの少しだけ年令分だけ落ち着きが増しているにすぎないのです。）そしてほんのチョッピリ、我々の現役時代より「軽さ」が感じられた事でしようか。そしていつもながら感服させられますのが、石井先輩他の諸先輩の後輩に対する思いやりと浸泳会に対する真面目な奉仕の精神です。小生も現役時代、マネージャーを務め、石井先輩を始めとする諸先輩にどれだけ、お世話になったかわかりません。浸泳会がそして神大水泳部がこれまで存続して来れた理由の最大のもので、これら諸先輩の影の努力であるといっても、決して過言ではないと思います。小生も固く胆に銘じたいと思います。

カレライスの後は、プールの玄関の所に集合して記念撮影。寒風の吹きすさぶ中、マネージャーの酒井君が、苦勞しながら、撮ってくれました（うまく撮れたかな？）

寒い夕陽が、薄い光を投げかける中、来年も又是非、来ようと思

いながら「かるもプール」を後にしました。

## 凌泳会東京支部新年会

昭41B 樋口 周平

東京支部の新年会は一月二十六日新宿「たぬき」に於て開催されました。当日の会場はサントリー㈱の関連会社が経営する店で冨岡道雄氏（B四回）のお世話によるものです。

東京支部では昨年は集会の機会がなく、久しぶりの会合として今回の新年会を開いた次第です。参加者は十四名と若干少かったものの近況報告、こわかった先輩の思い出話、エピソードの披露等々、にぎやかに、まさに話しに花が咲くといった様子で、定刻を大巾に超過して散会となりました。

当日参加者の寄せ書きを以下に御紹介します。

参加者名（敬称略）

小山賢之助（会長）

草野 嘉一（学1） 福永 拓三（学8） 山口 宗樹（学10）

冨中 暁（学13） 山内 利男（学15）

田淵 五郎（新3） 冨岡 道雄（新4） 細田 忠雄（新6）

山田 貴彦（新10） 丸山 卓也（新11） 滝沢 章三（新12）

樋口 周平（新14） 土井 祐二（新28）

東京凌泳会総会盛会であったことを喜んでいきます。

小山 賢之助

水泳部員諸君の今昔の話しはつきない。この会に出席出来た諸君の幸せを思い、出席出来なかつた諸君の幸せを思ふや切である。

昭7、学1 草野 嘉一

久方ぶりに凌泳会新年会に出席、先輩後輩の諸兄と歓談し、学生時代のたのしかった時にかえった一ときを過すことが出来ましたことを感謝致します。

昭14、学8 福永 拓造

大変楽しく自慢話、失敗談全員大笑いの中、時間の経つのも忘れていきます。

凌泳の縦、横のキツナ大切にしましょう。

旧10 山口 宗樹

凌泳会、学生集会所で始めての「月見の宴」は忘れません。

偶々12回山口八郎先輩の令兄、山口宗樹先輩と久し振りにお目にかかり、「散華の世代」の犠牲となられた山口八郎先輩を思い出しています。お世話になりました。

13回 冨中 暁

中野学校から中国大陸へ、その後廿五年間の印度駐在から数年前帰国しました。浦島太郎こと

学15 (子科一回生) 山内利男

約四分の一世紀、時は経っても凌泳は変わらず、昭和ヒトケタシン  
ドイ時期ですが頑張りました。本年五月には是非集まりました。

B3、昭30 田 淵 五 郎

私の愚息が本年度の主将の大役を務めることになっているようですが、力不足で十分やれるかどうか心配しております。  
よろしく願ひいたします。

昭31、新4 富岡道雄

昭和三十三年卒自由型ロングでした。

新入部員の頃一番こわかった田淵せんばい、富岡せんばいと同席して居ります。

村田、佐藤、そうとうひどかった松田、山口、島居(現岡田)せんばいお元気ですか。岡村、北村、栄川諸氏はどうでしょう。今年のポトビアをチャンスに全国凌泳会 神戸で開かれるようですが、私も是非参加したいと思っています。神戸に居られる諸先輩宜しく。

細田 忠 雄

毎年諸先輩、同輩後輩と親しくお会いできることは大変な喜びです。

苦しい練習が今、楽しい思い出となり、緊張したレースがなつかしいものです。皆様には大変お世話になりました。

新11 丸山 卓也

昭和五十五年九月関東地方をおそった地震覚えていますか。翌朝の新聞は全て間違い、震源地、千葉市土気町、気象庁震度階Vが正しいデータです。もう少し大きければひっくり返った家がたかかも？ ギリギリでしたよ。そのスジではキモをひやした地震でした。借金コンクリートのマンション住いは要注意、一階の人は外にとび出せ、二階以上の人は机の下にもぐり込まれたし、水泳とは関係ない話になってしまいました。凌泳会に連なっている幸せを感謝しつつ。

T12 滝 沢 章 三

「学校出てから十余年：接待接待のあけくれに飲んだビールが十  
万本……」昔はやった歌そのままの様な生活になりつつあり、反省  
しております。新年を契機にこの様な生活に別離をつけるべく努力  
したいと思いますが、凌泳会の新年会で最早やこの思いも無残に破  
れたかもしれませぬ。又明日から頑張ろう。：

B14 樋 口 周 平

東京のOBの方とお会いするのもひょっとして最後かもしれませんが、大変楽しい日を過ごさしていただきました。今年のポルトビアを見るついで……に凌泳總會に出て、又皆様とお会いしたいと思っております。

昭55 土井祐二

## 凌雪会に参加しよう

昭53 P 平石康

今年もやってきました。大学の時スキーの魅力にとりつかれてから、毎年、二月の第四日曜日が待ち遠しいです。現役の四年の時以来、今年で三回目になります。就職してからあまりスキーにいく機会もとれませんので、今年のように雪が豊富な年は、何かうずうずしてきます。寒波が訪れれば、新聞の積雪情報を見ながら、大学の時の信州の雪を想い出します。「こんなおもしろいスポーツがあつたかなあ。」ころげ落ちて雪だるまになりながらも、楽しくてしかたありません。あの白銀の世界を、滑りおろるすがすがしさは、他のスポーツでは味わえないものです。森の中へ突っ込んで、身動きできなくなったり、こぶで飛ばされて、エッチで額を切ったこともありましたけれども、

ところで、なぜ私がこんなことを書くことになったかと言いますと、私が酔いがまわり夢うつつのうちに、なにかそういう話が進んでいて、実をいうと多数決の暴力によって、無理やり押しつけられてしまったのです。一言ずつ書いて回されていた紙も、宿にそのままにして帰ってきたので、誤りがあるかもしれませんが、覚えていることだけを作文として書くことにします。

二十一日(土)の五時ごろ現地についた私は、もう薄暗くなり始

## 身辺雑感

昭37 B 竹元忠彬

六甲台のプールで水しぶきをあげていた頃から早や二十年が過ぎようとしている。社会に出て、自分は何をやったのか。何をやりたかったのか。何をやりたいのか。——大都會の通勤電車から吐き出されて来るサラリーマン群の姿には、若かりし頃、人生を語り合つた面影もない。或る者は、氣力を喪失し或る者は、自分自身を茶化して迄生きて居るのだ。このまゝ晩年を迎えたいのか。男は、氣色を鮮明にしなければならぬ。

昨春秋、長年勤めた会社を辞し、新しい仕事を選んだ。石油資源開発、小生が、この仕事を選んだのは、世間の雑事に、そして社内内の雑事に耳を貸すためでは毫もない。正に自分自身の理想を高く掲げ、情熱を注ぐに相応しい仕事であると思つたからだ。不惑の年を越し、自分が全精力を傾ける場を得た思いである。

めたのですが、明日の日曜の混雑を思い、第三リフトまで上がって一気に滑りおろそうと思っていました。ゲレンデに入ってまず驚いたのは、山がけずれとられ、ダブルリフトが新設されていたことです。ふもとがとても広くなり初心者にとっては、最適のコースができていました。頂上までいくつもりだったのに、第二ゲレンデまで上がったところで、あと一つというのに、ストップされてしまいました。こぶに足をとられながらみっともないかっこうでおり、駐車場までやってくると、平岡さん(新11)一家に出会いました。

四時ごろに来られて、頂上から滑り下りられたそうです。「もう少し、早く来ていたらすべれたのに。」毎年、奥さんとかわいい娘さんといっしょに、何ともほほえましい限りです。またそこで、米田さん(新10)といっしょになって、同じ教師として、先輩として、いろいろ話をうかがいながら、宿につくと、もうたくさんの方が、朝からやって来ておられました。今年も、娘さん二人に学校をさぼらせてやってこられた小西さん(学18)、小西さんの市大の友人である木村さん、それから実質上、この会の会長である石井さん(学22)、石井さんの前の会社の友人お二人(名前はわすれました)、それに、この方がおられないとはじまらない山口さん(新5)、みなさん、今日一日、思い切り滑られたようです。

夜になって、恒例のウイカニ(ウイスキーとかにすぎ)が始まりました。かにもさることながら、あとのおじやが格別で四・五杯おかわりしたことを覚えていきます。それに、日頃口にすることのない

高級なブランデー、石井さんご持参のものなをつまみに、口あたりがよいので、かなり飲みすぎでしまいました。みなさん、ビール、日本酒、ウイスキーと女性が四人もいたせいか、よく飲んでおられました。その後、特急で橋本さん(新3)が来られて、一挙におきでてるよもやま話に、花が咲いていたようです。ここまでぐらひは、なんとか覚えていのですが、その後のことは酔っぱらって夢の中でしたから、あまり記憶がありません。持っていたルービックキューブは、だれのしわざか、いつのまにか朝になると六面そろってしまいました。

そして、翌朝はれぼったいまぶたで、まだ頭の中にふらついていましたが、今日こそはと思って、スキーをかついで、真っ先に宿を出ました。きのうの分までと思い、昼飯もそこそこに、モトをとるために必死で、第三ゲレンデを滑りました。山口さんや石井さん、橋本さんは、第一ゲレンデの方で、のんびりと楽しんでおられたようです。石井さんたちは、明日の名色カーニバルにも残られるそうで、月曜日も休みだったらなあ、うらやましい限りでした。

最後になりましたが、みなさん、いろいろお世話になり、有難うございました。とにかく、毎年二月の第四土・日曜日には、神鍋・名色高原・やましろ屋へどうぞ。

## 萩原幹事御苦勞様でした

昭27学 石 井 義 章

三月五日の夜おそく、萩原君から電話がかかりました。「先日の  
凌雪会には参加出来ず残念でした。高校二年の時から毎年滑って来  
たのに、今年は遂に一度も雪の上に立つ事が出来ませんでした」と  
云うので、「今年は雪も多く、まだまだチャンスはあるよ」と申し  
ますと、「それが転動なのです。三月一日付の辞令で八幡へ行く事  
になりました。この十月に赴任です」との事。

一瞬、私は言葉を失いました。と同時に、二ヶ月後に迫った、凌  
泳会全国大会の事、更に今後全般的な凌泳会運営の事、萩原君が居  
なくてどうなるのだろうかと思いが頭の中を駆け巡りました。

サラリーマンである以上転動は当然の事なのですが、何故か萩原  
君に限っていつまでも神戸の近くに居て、凌泳会の世話をしてくれ  
る様な気がしていたのです。何故と云ってそれ程長く彼は凌泳会の  
幹事をやってくれていたのです。今、改めて、会の年表を繙いてみ  
ますと、昭和四十三年に、私と岡田正光君より、幹事のバトンを経  
原君と岡田重義君の二人で引継いでより今日迄、実に十三年間、そ  
の間相棒の岡田君は転動で鈴木正弥君に、更に玉置明君に変わしまし  
たが、彼は終始変わる事なく、その職にあり、しかも、その間、任地  
は尼崎より姫路に変わりましたが、その地理的ハンディキャップも意

に介せず、実に誠実に、黙々と凌泳会の世話をしてくれました。  
学生からは信頼出来る兄貴として事ある毎に相談を受け、常に適切  
な指示を与えてくれました。

私など神戸に居ながら、つい忘れたり、サボッタリして出席しな  
かった、総会・月見の宴・初泳ぎ等々凌泳会の諸行事、又、三商大  
市大戦始め各種の競技会にも、欠さず顔を出して行っていました。

そんな彼を見て申し訳なく思い、神戸に居るのだから出来る事な  
らお手伝いしましょうと、何時の頃からか、彼の相談にのっている  
内、昭和五十年村上秀造先輩に監事就任をお願いに行った折、その  
承諾と引替えに「お前幹事をやれ」との命令を受け、昭和四十八  
年、岡本忠男幹事長御退任後空席になっていたその席に就く事にな  
った次第です。

話が脇道にそれましたが、その後も幹事長の私をよく助け、信頼  
出来る男として、彼を頼りに会の運営をして来たと言っても過言で  
はありません。

今、彼を失う事は、殊にこの大行事を目前にして本当につらい事  
です。尤、彼の事ですから、引続き幹事として残ってくれと頼めば  
残ってくれるでしょう。しかし残った以上、事ある毎に飛行機に乗  
ってでも駆け付けてくれるでしょう。彼はそんな男です。

それでは、あまりに彼に気毒ですので、残念ですが、この際幹事  
を交代して頂くしかないと思います。

赴任後は、彼の地の岡本先輩或は印藤先輩らと力を合せて、凌泳

会九州支部の発展に力を尽くしてくれる事と思います。

又、凌泳会本部も新しい幹事を得て、更に発展を期したいと思ひます。会員皆様の御協力をお願い致します。

ここに萩原幹事永年の御尽力に対し、皆様に代ってお礼の言葉を贈りたいと思ひます。

「萩原幹事御苦勞様でした。」

### 会員からのお便り

### 総会案内状返信より

。山田 幸男（特）

五月十一日は比較法学会出席のため金沢におりますので欠席させていただきます。皆様によりしくお願いいたします。

。白山源三郎（大10高）

お蔭で達者ではあるが、齢には争えませぬ。各人の健勝を祈ります。

。川北 正喜（大13高）

幸い健康で趣味の余生を過ごしております。

。三井栄三郎（大14高）

いつも御案内状感謝致します。まだ泳げる程の元気はあります。之れも水泳部に入っていたお蔭でしょう。

御盛会と御発展を祈ります。

敬 具

。尾上長三郎（昭4高）

拜啓 いつも乍ら種々と御世話をかけています。不肖老境乍ら至極健康です。

白内障手術後は好きな水泳よりも遠ざかっています。各位の御多幸と凌泳の発展をお祈りします。

。香山 孝一（昭6高）

一昨年からリウマチにかかり往生しております。諸兄各位に宜敷く。

。植木 実就（昭6高）

御案内有難うございました。乍残念欠席致しますが、御出席の皆様は何卒宜敷く。

貴部の本年度の御活躍を御祈り致します。

。草野 嘉一（昭7学）

御陰様で元気にしております。

東京での凌泳会にはつとめて出席しております。その外に在京の昭和六年十一月卒業の水泳部の連中の有志の会合を時々やっております。

○山田 常雄（昭7学）

健康状態は良好にて毎日忙がしく仕事をしています。当日は先約の会がありますので失礼します。夏のレースには是非応援に出掛けたいと思っています。

○板野亀八郎（昭9学）

もう二十年以上も泳いでいないでしょう。心臓関係の病気の回復後のトレーニングとしては水泳は極めて適当なものと言われていますがこの場合よい医師とよい看護婦とに何時でも相談出来ることが一番大事なことのようなのです。只、最近のプールは非常に繁昌していると聞くと、却って足が遠のきます。

○宮本 伯夫（昭9学）

七十才を迎え、フリーの体になりました。しかし健康上毎日会社には遊びに出ています。晴球雨暮曇雀（ゴルフ・暮・麻雀の日々）とまではいかなくともゴルフはよくやっています。お蔭で至極元気です。九十前後でまわっています。ヘボ暮は一向に上達しない有様、雀はその日の運まかせ余生を楽しく送っています。

○本間孝之助（昭10学）

御陰様で大変元気に過して居ります。小生も今年満六十九才、古稀の年を迎えることになりました。遠隔の事とて欠席致しますが、先輩後輩の皆々様に宜敷く御伝え下さい。

○小池 三郎（昭11学）

總會のご通知ありがとうございました。相変らず延々と高木薬品に勤務中です。特に草野先輩を中心に在京凌泳クラブでお会いしております。

ご盛会を祈る。

○伊藤 英二（昭13学）

老人性白内障の手術のため三月下旬入院予定。生命に関係ないので気が楽です。御出席の各位によりしくお伝え願います。

○太田 正元（昭13学）

三井金属退社後、関係会社の三洋金属、三興金属の方に来ています。場所は両国橋の左もと本印橋の畔です。五日会では白山・小山先輩・山口君と時々御目に掛り懐しい交友を続けております。老境に入ると学生時代特に運動部の思い出が最も懐しいものとなります。

。大内 義仁(昭14学)

同期の山川君が五月中旬に広島に来るといので楽しみにしています。六甲時代のプールサイドを思い出して語るつもりです。当方相変わらず室内プールに出かけて緩泳したりゴルフ場を歩き廻ったりしてお蔭で健康を維持、若さを保っています。やはりゴリゴリでも動くということが健康によいようです。ここまで書いていましたら東京より電話あり明日同期の福永君来広するという。友遠方より来る。亦楽しからずやの心境です。

。満野 公介(昭14学)

丁度差しつかえの為欠席させて頂きます。いよいよシーズンも間近かで皆様の御健闘を祈ります。

。中村 市治(昭15学)

地方都市での生活に退屈しています。四国路を旅行される学生諸氏どうかお立寄り下さい。よい処ですから。

。山口 宗樹(昭16学)

六月二十日に東京泳泳会を開く予定にして居ります。総会の報告、現役の方の本年度の予定等皆様に報告をしたいと存じます。誰か上京して頂くと有難いと存じます。尚新卒業生の東京勤務者の歓迎を兼ねたいと思つて居ります。

。前田 寿(昭16学)

変わらざる生活を続けております。昨年は胆石の手術にて余り泳げませんでした。が来年は近くにプールが出来ますので今から楽しみにしております。

。平井 洋(昭16学)

昭和五十三年十月に高血圧に因る眼底出血を起こし本年(五十五年)四月レザー光線にて光凝固療法を受けました。経過は順調。水泳には二年近くご無沙汰です。皆さんのご健闘をお祈り致します。

広島では昨年熊野泰己君(学13回)に二回ほど会いました。お元気で。

。尾上 信三(昭17学)

東京出張予定ですので欠席させて頂きます。勤務先が東洋紡実業K・Kから東洋紡不動産K・Kに社名変更となりました。

。岡本 忠男(昭17学)

公用出張中のため返事が遅れました。八日迄関西にいたので早く知っておれば時間の都合ができたのですが残念です。再々関西に行きますので(自宅六甲)プールに顔を出すように努力します。部員の御健闘をお祈りします。

。上田 宇一 (昭16学)

元気で活躍しております。地方自治体の行政も多事多端の折柄  
鋭意努力いたしたい所存です。現役、OBの諸兄によりしくお伝  
え下さい。

。富中 暁 (昭18学)

昨今一寸忙しく「サウナ」水泳も四、五日に一度と、とぎれ勝  
ちで遺憾です。本状も遅れてしまいましたが御挨拶申し上げます。  
相認めました。併し泳いだあとの身体の軽く快調なること、こた  
えられません。皆様によりしく。

。井上 清 (昭19学)

いつも欠席で済みません。御出席の皆様によりしく。新年度の御  
健斗御祈りします。

。三宅 林 (昭22学)

都合により欠席させて頂きます。御出席の皆様によりしく。相  
不変元気に勤務致して居ります。

。石井 義章 (昭27学)

昨秋バツティングセンターに商売替えしてから事々に新しい経  
験で毎日忙しく、でも元気にやっております。

。今井 政一 (昭24専)

何日も連絡を頂き乍ら失礼ばかり致しております。今回も中々  
都合がつきそうにありません。御出席の皆様によりしくお伝え頂  
くと共に、若い皆様の御健斗をお祈り致します。

。村田 邦夫 (昭30J)

三菱重工の関連会社、東菱機器工業へ五十五年一月より出向し  
ております。皆様によりしく。

。堂本 直正 (昭30T)

五十二年十月四国より大阪へ参りまして早や二年半たちました。  
何とかあえぎあえぎ前へ進んでおります。石井先輩、小原先輩に  
ときどきお目にかかっております。

同級田淵兄、橋本刀兄に先般逢えました。本日は勝手ながら欠  
席、先生先輩その他皆様によりしく。

部の本年の健闘を祈ります。

。前田 宗雄 (昭32T)

公私共種々多忙で残念ながら欠席致します。山口様によりしくお目  
にかかりたく思っております。よろしくお伝え下さい。

。岡見 晴児 (昭33E)

八回の永野君（三菱商事）がルーマニアに転勤となり、六月赴任の予定です。五月七日に有志で送別会を予定して居ります。総会御出席の皆様によりしくお伝え下さい。

○山本 哲弘（昭34B）

只今ニューヨーク在勤中、六月初旬に帰国の予定

○黒田 英雄（昭35B）

裏面の住所に転居しましたので、通知のハガキ転送のため遅くなり、ご返事間にあわず、すみませんでした。今後は新住所でお願い致します。  
（名簿参照）

○宇賀 史郎（昭35E）

前略 御出席の先輩の皆様方によりしく御伝え下さい。小生四月中旬急に広島県府中市の中小企業に外向を命じられバタバタして居ります。落着き次第新住所御連絡致します。

本年も現役諸兄の御活躍を祈って居ります。

○野田 浩志（昭36B）

住所変更通知

655 神戸市垂水区塩屋北町四丁目三〇番地の六六

〇七八一七五三一六三六三

勤務先

東京都港区浜松町二丁目四番一号

世界貿易センタービル

〇三一四三五一六八四一

○萩原 武（昭37T）

事、志に反し、毎日仕事に引き廻されています。仕事に関する一切の事から離れて三日間程過してみたいとつくづく思うこの頃です。肉体だけでなく精神的にも強くなければ世の中暮して行けませんね。……

○高岡 保宏（昭37P）

拝復

今年こそ是非出席したいと思っていたのですが、今年も勤務校の育友会総会とかち合ってしまった、誠に残念ですが申し訳ございません。

姫路も最近かわってきました。今年の十月頃には、スイミングクラブが七つ程になりそうで金もうけ主義の水泳が横行しています。

日本体育協会競技力向上委員長の福山信義氏の郷里が福崎で私の家の近くで懇意にして戴いているのですが、氏の肝煎で地域に密着した水泳というところから福崎の水泳を強くすべく頑張っています。

います。

。山田 貴彦 (昭37 E)

(1) 六月二十日(金)頃、東京地区における新入会員歓迎会を計画しておりますので、今年三月卒業された方の動向が解りましたら、ご一報頂き度くお願いいたします。

(2) 住所不明会員の調査が遅れており申訳ありません。判明あり次第、ご連絡致します。

(3) 現役諸君のご健闘を祈ります。

。米田 啓祐 (昭37 B)

一度参加させてもらわなければと思いながら果せません。

今は但馬の小学校で十六人の五年生を担任しています。七月になれば小さなプールですが、それでも二十五米はあるプールで毎日泳がせます。雨の激しい日も泳がせています。教室でのことを忘れるくらい夏はプールで子どもと過しています。

本年のご活躍をお祈りします。

。丸山 卓也 (昭38 B)

元気で週一回インドアプールで泳いでいます。

夏には東西対抗泳水泳大会ぐらいやりたいです。皆様によろしく。

。藤岡 治男 (昭38 P)

四月一日より下記の勤務先に変更、五月十一日は行事がありますので欠席させていただきます。

先輩諸氏によろしく

東大阪市荒川三丁目二五

東大阪市教育委員会社会体育課

○六一七二八―五五二一 内線五九

。林 莊人郎 (昭38 E)

兄莊八郎は現在もおブラジルにおります。

留守中の連絡先が岡山市から下記のとおり変更いたしました。

二六一七

京都市長岡京市一文橋二一九―十二

林 秀起 方

。武政 英幸 (昭39 L)

多忙な年代なのでしょう。一緒に泳いだ仲間とのふれ合いもこのところ少ないようです。いや、ものぐさのせいかも知れませんが。

現役諸君の精一杯の御活躍を祈ります。

五五―五―五

。鈴木 正弥 (昭39 E)

五月三連休、両方の親の家に(共に横浜)帰って安上りの休日  
を過しました。天気予報とは逆に、三日とも快晴で、久し振りに  
子供三人(娘達)を相手に潮干狩りや森林探険やヘビ退治など親  
子仲良く過ごした結果、疲れ果てて、風呂上りの一時にこの返信  
を書いていきます。

今年も盛大な総会でありますように。

。手嶋 忠之 (昭41 S)

本年もシーズンが始まりましたが、皆様頑張って下さい。一番  
上の子が泳げるようになったので一緒に泳げるようになる日を楽  
しみにしております。末筆ながら皆様によりしくお伝え下さい。

。小越 信昭 (昭43 T)

永らくごぶさたしております。小生、労組の役員をしていたた  
め種々ご案内を頂きながら欠席ばかりで申しわけありません。問  
もなくお役ご免になりそうです。週に一度近くのスイミングスク  
ールに通って手足を動かしています。先輩諸兄によりしく

小越 拜

。木内 資雄 (昭44 E)

。渡泳会の御案内有難度ございました。徳島県板野郡北島町鯛浜

字川久保の住所より現住所の社宅に住んでおります。勤務先

〒二一〇 川崎市殿町三丁目二五番一号 いすゞ自動車株式会社  
本部長室です。渡泳会益々の御発展をお祈りしています。御出席  
の皆様によりしくお伝え下さい。

。井上与志男 (昭47 J)

毎日忙しく元気にやって居ます。学校の近くに引っ越して来な  
がらあまり顔も出さず申し訳なく思っています。

今年はプールへも度々顔を出したいと思えます。少々運動不足  
で小太りになって来ました。

。藤井 元洋 (昭48 P)

元洋(本人)二十九才、四十人の子供達と毎日悪戦苦闘してい  
ます。職場では学校運営の改革と主任制度化阻止のために奮闘し  
ています。皆様も主任制がひかれれば教師の意欲がなくなり、教  
師の目は上ばかり見て子供の方にはむかなくなってしまうことを  
理解していただき、主任制阻止の御支援をおねがいいたします。  
真理(妻)、信洋(長男)、絵美(長女)三人目がほしいと思っ  
ております。

。佐敷 定雄 (昭49 A)

御無沙汰しております。当日友人の結婚式があり欠席させてい

たできます。今シーズンは出来る丈プールの方へ行きますので一緒に遊んで下さい。

。長谷川 健 (昭49 E)

当日は会社の運動会にてどうしてもそちらの方にゆかねばならない理由があり残念乍ら欠席させていただきます。

。植西 勝 (昭53 S)

游泳總會欠席します。教師生活三年目を迎え四十人の子供たちを相手に一人身の気楽な生活を送っています。毎年五月になると六甲台の冷たい水と温かいそして不衛生だった風呂を思い出します。夏には子供たちの水泳指導をしますが、自分自身の泳力はガタ落ちで小学生を引っぱるのが精一杯というところです。

。家本 博一 (昭49 E)

大学近くのマンションで静かな日々を送っています。一月以来健康を害していま、たが、ほぼ回復いたしましたゆえご安心下さい。游泳会のみな様によりしくお伝え下さい。

。松山 文彦 (昭51 E)

四月二十一日東京転勤を命じられ残念ながら当日出席出来ません。出席の方々に宜しくお伝え下さい。なお新勤務先は

〒100-1 東京都千代田区神田小川町一五

中央信託銀行事務管理部電子計算一課

TEL 二九二二二〇七一

ですので宜敷く。

。野田 叔子 (昭51 P)

勤め先を幼稚園から小学校に変え、あわたらしい日々を送っております。総会には出席できませんが、皆様によりしくお伝え下さい。

。丸末 一之 (昭52 E)

この度、銀座支店より東神奈川支店へ転動になりました。三井銀行東神奈川支店、横浜市神奈川区富家町一十三 一二二二  
TEL 〇四五―四三四―三三三

。平石 康 (昭53 P)

教職生活三年目、そろそろ慣れてきてもいいはずだが、子供が変わるたびに緊張し、新鮮な気持ちになる。一日一日がとても疲れる毎日だ。でも結構楽しんでやっております。今年もできる限りプールへ顔を出すつもりですからよろしく。

。酒井 正人 (昭53 A)

五月二日に大学のプールへ泳ぎに行きましたが、水温十六℃で大へん寒かったです。その日は部員は最初六人だけだったけれど松陰のマネージャーはカワユイかったです。また近々遊びに行きます。

。村田 邦夫（昭53J）

みなさんお元気ですか。急に松山に用事（私にとり、人生で大事故なこと）ができました、誠に申し訳ないと思ってます。多分上田さん、太田さんはもう「狼がでた」なんて信用してくれないでしょう。しかし今年は私まんばるつもりでいたのですよ。それが来春○○○○することになり、というよりもそれを決めるために帰松したのですが、めでたくその通りになりました。私のわがままお許し下さい。がんばってベストをつくして下さい。新入生のみなさんも神大水泳部に自分のもてるものを与えて下さい。

。杉山 和弘（昭55A）

毎日試験、試験で「ヒーヒー」言いながらも何とか楽しく過ごしています。勤務先も大阪支店に決まり、うれしいやら悲しいやら。日曜日は休みなので、できるだけ試合を見学させていたかどうかと思っていますので、連絡だけはしっかりお願いいたします。御出席の先輩諸兄によりしくお伝え下さい。

。館谷 彰司（昭55T）

同期の杉山君や中尾君、土井君達はどうしているでしょうか。こちらに来てやっと一ヶ月ですが、神戸の町が恋しく早く帰りたいのですが忙がしくて当分無理なようです。寮にはプールがあるので夏がくるのが楽しみです。

では現役の皆さん今期も頑張って良い戦績を残して下さい。

。中尾 稔（昭55J）

毎日、仕事と酒にあけておられます。来月から近くにあるスイミングスクールにいつて泳ぎすこしやせようと思っています。（今でも充分やせていますが…）

総会は都合が悪くていけません。皆様によりしくお伝え下さい。月見の宴は行くつもりです。

。土井 祐二（昭55J）

毎回やる思いをしているわりに全くやせません。同期の人も同じではないでしょうか。試合に応援に行けそうもないですが頑張って慈幸、油谷、杉山の三人にたかって下さい。

今年もよい戦績でありますようはるか東京の空の下で祈っております。

白子君へ東京へくる時おみやげはジョニ黒ぐらいでまけとったわ。

## 月見の宴案内状返信より

と思っています。

○白山源三郎（大10高）

余生を楽んで居ます。

○白井 儀三（昭3高）

水泳は小堀流をこれ又楽しみにして時々泳ぎます。お蔭で八十

御厚意により同窓故作田耕三君の追悼文を掲載して頂いた処方々より、よく出来たと感謝され汗顔の到りです。

才を過ぎたが比較的的健康です。

○溝口 卓郎（大13高）

本年は稍々健康状態を取戻し時々散歩そして偶に雀と云う生活です。

○北條 貞夫（昭6高）

皆様元気で御活躍の事御慶び申し上げます。

○川北 正喜（大13高）

毎々御報告書をお送り頂き恐縮しております。

○植木 實就（昭6高）

いつも御案内いたゞき有難うございます。

○木村 芳雄（大15高）

水泳部で親しかった先輩の榊原、山村、鈴木、同輩の三輪、高田、後輩の大谷（旧井関）大島、中村の諸君が物故会員の列にならび、今度は作田君までその列に加った。そゞろむなしさを感じます。

○三吉 吉郎（昭6高）

古稀を迎えましたが体調は頗る良好です。今年冷夏で海に一度だけでもぐりに行きました。今でも十米位はもぐれます。昼休みにバレーを屋上で楽しんで居ります。全真会バレークラブ員として対外試合にも出ています。皆様に宜しく。

プールで一緒に泳いだ連中で、残っているのは溝口、高森、三井の三君だけになりました。

折角健康に留意しながら好きなゴルフで若さを保っていききたい

○香山 孝一（昭6高）

リウマチにかかり討病に専念しております。

○小山賢之助（昭7学）

神戸インカレ優勝おめでとう、関西インカレ二部降格残念です  
今後ガンバッテ下さい。

九月十五日は老人の日でいつも老人ゴルフがあるので神戸へは  
行きません。何卒お許しを、来会の各位によりしく。

○草野 嘉一（昭7学）

今年の夏は娘や孫達と伊豆下田の海で四日間泳ぎました。お蔭  
様で元気で消光しております。

○山田 常雄（昭7学）

本年の三商大も仕事のため応援に行けなくて残念でした。年老  
いてから仕事や役職が増えて来てどうにもなりません。

○板野亀八郎（昭9学）

シーズン終了の挨拶いただきました。戦績報告を拝見すると中  
々に好成績の様子、ご同慶のいたりです。但しゆの項があるが一  
瞬アレアレとトマドイを感じさせます。老いでしょうか。

○宮本 伯夫（昭9学）

会社には毎日出ていますが、現役を退いて至極元気に又気儘な  
生活をしています。月に五、六回 golf に出掛けるのが楽しみ  
です。又おそまきながら囲碁の勉強を始めていますが、何故学生  
時代からやらなかったかと悔むこともあります。でも武段にはな  
りました。雀の方は学生時代からやっているのでこれも亦頭の体  
操になりますし実益もあり楽しいものです。

○本間孝之助（昭10学）

数え年で七十才（満六十九才）で古稀を迎えました。水泳で裸  
で太陽のエネルギーを沢山吸収した御陰で兎に角元気に過して居  
ります。

○池谷 俊一（昭10学）

元気に過して居ります。  
月末と月初は浜松に出張して居ります。

○小池 三郎（昭11学）

ご案内ありがとうございます。  
小生相変らず現職に従事中にて当日は残念ながら出席できませ  
ん。

永らくご無沙汰していて恐縮です。健康で元気にしております。  
今シーズンの戦績はなかなか立派なものです。特に関学を制した

など夢の様です。ご盛會を祈る。

。伊藤 英二(昭13学)

五月老人性白内障の手術をやり近眼でなくなりました。新しい眼鏡にも慣れてきたので八月から努めてゴルフをやっています。

今後はHDCP(13)をめざして精進するつもり。さてどこまで行けるか。

御出席の各位に何卒よろしく。十八日に裁判があり心かず欠席致します。

。富岡喜一郎(昭13学)

一年前(五四・九・三〇)最後の会社を退職し、余生を送っています。

。福永 拓造(昭14学)

約四年半群馬県高崎市のデパートに勤務、東京を離れて居ましたが去る四月から東京の自宅へ帰り裏面の会社(住友建設株式会社)へ勤めることになりました。

神戸には昨年十月卒業後四〇周年の同期会に出席して訪れ母校のプールサイドにも立ち大変懐しく感慨無量でした。

。大内 義仁(昭14学)

水泳、ゴルフ、バドミントンを適当に配合して若さを保っています。人口過剰の大都市に比べるとのんびり楽しめます。五月に同期の福永、山川両兄とここ広島の地でお会いする機会ありお互いの健康に乾盃しました。

。満野 公介(昭14学)

毎日無事過しております。九月十五日月見の宴は都合により欠席させて頂きます。

。中村 市治(昭15学)

残念ながら月見の宴出席出来ません。  
一万円同送しますから当日のビール代にでもお使い下されば幸いです。

。大西 真博(昭15学)

拜啓 好成绩のお便り有難うございます。益々御健斗をお祈り申し上げます。皆様によろしくお伝え下さい。  
右御返事申し上げます。

。吉野 栄(昭15学)

すこぶる元気です。三商大戦には是非見に行きたかったのですが、生憎信州に行っておりまして。月見の宴には晴天であればと

祈っております。

。山口 宗樹（昭16学）

本年度の御活躍おめでとう。当方元気にやっております。月見の宴は欠席しますが皆様によろしく。

。前田 寿（昭16学）

昨年の今頃は病院生活をしていましたが、今年はすっかり元気になりました。近所にスポーツセンターができたので会員となり時々泳ぎに行っておりますが、一気に泳げるのは五十米までです。

。平井 洋（昭16学）

四半世紀ぶりに神戸に帰って参りました。二年近くわづらった眼底出血もようやくおさまり、体重も十キロ減量（現在五十七キロ）して体調も大分よくなりました。もう少し元気になったら月見の宴にも出かけましょう。皆さん頑張って下さい。

。岡本 忠男（昭17学）

中国に福岡県議会議長の団長として視察して十七日に日本に帰りました。十五日は敬老の日で各地を廻りお祝のあいさつをします。部員の方々にはお会いする機会がなくて残念です。神戸の自宅に帰った際に幹部の方々をおまねきして色々とお話を聞くこ

とにするつもりです。

。尾上 信三（昭17学）

競泳は立派な成績にておめでとうございます。皆さんによろしく。水球はこれからも宿題ですね。競泳の個人の力を結集して来年こそは優勝を期待しております。

リュウマチがあり出席できず残念です。

。上田 宇一（昭18学）

市議会開会中につき欠席致します。悪しからずよろしくお願ひ申します。

。荻野 茂希（昭18学）

皆様のご活躍はうれしいことです。このところ社業に多忙を極め平日には休めませんので休日テレビで水泳の放映をビールを飲みながら愉んでいます。みんな仲良く愉しくやって下さい。

。富中 一暁（昭18学）

一昨日シンガポールから帰って来まして本誌拜見しました。正月をすませたら又シンガポールに行くかも知れませんが取急ぎごあいさつ申し上げる相認めました。皆様によろしく。

。山内 利男（昭22学）

インド駐在二十五年の後帰国して四年余、やっと落ち着きました。インドの生活では忙しくない日は毎夕泳いでいたが、東京ではほとんど泳げない。

。三宅 林（昭22学）

相不変元気で務めています。月見会には是非にと思っておりますが、行事のため出席できません。御出席の皆様は何卒よろしく。山陽電鉄のスイミングスクールに入っています。月に一回泳いだら良い方です。

。岡 庄一郎（昭23学）

今年のはなばなしき御活躍お慶び申し上げます。所用で出席できませんが盛大な宴になります様お祈り申し上げます。諸先輩はじめ現役の皆様方によろしく。

。佐脇 鷹平（昭25学）

岡山中心の活動ですから仲々行事に参加できません。皆様のご活躍とご健闘を祈ります。よろしく

。鈴木 富夫（昭25学）

呑み過ぎて肝臓を患ったが、最近快調でゴルフに精を出して

います。海運市況活発で仕事の方は順調です。先輩の方々始め皆様に宜敷く御伝え下さい。

。石井 義章（昭27学）

ゴルフ屋から野球屋に商売替へして早や一周年が近づいて来ました。新しい仕事に試行錯誤を繰返えし乍ら文字通り年中無休で頑張っています。お陰で病気になる暇も無く至って元気です。

。山本 幸雄（昭27学）

マニラに来て二年たちました。相変わらず体だけは丈夫で長もちしております。常夏の国のことと一年中泳げますが、マニラ近辺の海は、ご他聞にもれず汚くなって来ており、ときどき遠出で海水浴をたのしんでおります。月見の宴のご盛会と競泳会皆様のご健祥を祈ります。

。中井 三郎（昭27学）

独立して十年、元気でやっております。そろそろ健康の為遊泳をたのしみたいと思っております。皆様によろしく御伝え下さい。

。今井 政一（昭24専）

吾々戦後空腹を訴え乍ら、泳いでみた時の事を考えると皆さん

誠に良い成績を残して居られますね。慶賀に存じます。

大いに頑張ってください。

。堂本 直正 (昭30T)

七月十五日より単身赴任で広島へ来ております。

九月十五日当月は大阪留守宅より子供達が当地に遊びに来ます

ので勝手ながら欠席させていただきます。

当地にて熊野、今井先輩へは早速訪問いたし、親しくお話しも

させていただきます。

当日御参集の先生、先輩、現役の皆様によりしく。

。丹治 隆一 (昭30S)

県立星陵高校勤務。相変らず河童のもりをしています。三回生

の橋平力さん (県立御影高校勤務) 増井幸三さん (県立伊川谷高

校) とはとき時お逢いしています。

来年は勤務校の変る可能性が大きくなりました。

出席の諸兄によりしくお伝え下さい。

。松田 司朗 (昭32J)

今年四月二年振りでカナダのバンクーのSPRING HOTEL

で二月滞在シカナディアアンロッキーを見ながら、温水プールで泳

いで来ました。毎月十回以上プールへ行き必ず一〇〇〇米以上泳

いでいます。皆様に宜敷く。

。岡見 晴児 (昭33J)

報告遅れ申し訳ございません。先般先輩 (三回卒) より電話い

たゞき近々在京メンバーで一杯やります。

。高橋 靖周 (昭33E)

すっかり御無沙汰しておりますが、皆様ますますのご活躍で何

よりです。人事課が五年になるのに後輩がなかなか来てくれない

ので残念に思っていたところ、昨年三名、今年二名入社し非常に

心強くないまで水泳の方は子供相手に年数回泳ぐ程度で六甲台の

プールで毎日泳いだ時代が懐しいこの頃です。

。柴川 泰介 (昭34E)

年中雑用に追われ、例会に欠席続きで申訳なく御出席の諸先輩

によりしく。

。山本 哲弘 (昭34B)

小生二度目の海外勤務 (NEW YORK) より此の六月に帰

国しましたが、海外在中御無沙汰ばかりで申訳ありません。残念

ながら九月十五日には参加出来ませんが、皆様によりしく。

。永野 一彦 (昭35 E)

水泳部よりのお集りのお便り戴き有難う存じましたが、本人はこの六月ルーマニア勤務となり、家族ともども外地に参つて居りまして、連絡の取りようもなく名簿記入要項も解り兼ねます有様で御了解下さいませ。同封致しました葉書が本人の宛名でございまして、何とぞよろしくおとりはからい下さいませ。せっかくのお集り申し訳なく存じます。皆様は何とぞよろしくおたのみ申します。

留守宅 母

。柳本 正雄 (昭37 B)

元気に多忙な日々を送っております。神戸には仕事でよく出かけますが、六甲台には長年の御無沙汰で申し訳なく思います。子供連れで今年の夏はプールによく通いました。益々の御活躍を祈っております。

。萩原 武 (昭37 T)

今年が多忙に紛れ水泳部の皆さんにも凌泳会に対しても十分な事が出来ず、申し訳なく思っています。自由になる時間が年々少なくなつて来る様です。

。竹元 忠彬 (昭37 B)

前略、小生、丸善石油㈱に勤務して以来、早や十八年五ヶ月が

経過致しましたが、此度円満退職し、石油資源開発㈱に入社、海外室に着任致しました。月見の宴は欠席させて頂きますが、皆様によろしく。

。岡田 重義 (昭37 B)

御招待有難うございました。只今ヨーロッパ出張中で、十六日には出社することとございました。未だ会社も家庭にも連絡がなく、出席不可能と存じます。次のチャンスに皆様におめもじ出来る様願っております。(岡田重義内)

。米田 啓祐 (昭37 B)

卒業して二・三年目に参加したようにも思うのですが、とにか今年にはひさしぶりに六甲台プールに行かせてもらいます。二年前私の三十代の終わる記念に記録会に出でから毎年五十米自由挑戦しています。今年三回目でふしぎなことに毎年〇・四秒ほどずつよくなって、今回は三一・八秒でした。この分では四十代のうちに三〇秒台が出せるかもしれないと楽しみにしています。

。丸山 卓也 (昭38 T)

仕事が多忙であまり泳げなかったのですが、皆様はいかがですか。東京勢も近い中に大挙して月見の宴に出席したいと思っております。皆様によろしく。

。平岡 昭朗 (昭38 P)

三商大戦みせていただきました。兵庫工Cに初優勝しただけあって競泳は殆んど一位・二位独占で圧倒的な強さでした。素晴らしいものです。でも水球は泳力にあれだけの差がありながら大きく得点差をあげられたのは残念です。頑張ってください。

。藤岡 治男 (昭38 P)

前略、競泳部門の活躍おめでとうございます。応援に行きたかったのですが、日曜がほとんど公務のためふさがり残念でした。今年の見聞の宴も仕事が入ってしまい失礼いたします。ご出席の皆様によろしく。

。安茂 弘 (昭39 T)

おと年 (S53年)、試しに枚方市水泳選手権大会にでてみました。中学生、高校生、大学生等にまじって五十米平泳で九位タイ (抽選で決勝に残れなかった) でした。タイムは三九秒〇。現在は、三人の子供をプールにつれていっておよぐ程度です。皆様の御健斗をお祈りします。

。武政 英幸 (昭39 B)

台風十三号の余波で東京では珍しい豪雨でした。相変りなく靴屋稼業に勢出しています。月見の宴出席出来ず残念です。

。鈴木 正弥 (昭39 E)

東京にきて四年たちました。その間一度も六甲台プールに行かず残念です。今年はやや戦果が悪かったようですね。オフシーズンには体力を鍛えて来シーズンに備えて下さい。

。堤 莊祐 (昭39 P)

現役諸君の健斗ご苦勞様です。今年渡泳で記録を拝見しますがレベルのアップに驚くばかりです。小生昨年・本年と春先に体調を崩し、本年は数日ですが入院治療の浮目にあいました。水泳との縁も少しづつ遠くなって行く様です。子どもをつれて近くのプールへ二度程行ったくらいです。仕事の方は卒業以来相変らずの状態です。昨年は国際児童年、来年は国際障害年と福祉が叫ばれており、その現場の最先端にいるわけですが、日々の仕事に追われ、いろんな問題を持った子どもとの取っ組み合いに明け暮れています。出席の皆様によろしくお伝下さい。

。丸山 昱也 (昭40 T)

従来に増す好成績をあげられ、格別におめでとうございます。オフのトレーニングをしっかりとやって来シーズンに備えて下さい。

。前田 和秀 (昭40 J)

九月八日より二十一日までヨーロッパへ行くことになりました。

足運びたいと思います。来年も皆さん頑張ってください。

。手嶋 忠之 (昭41S)

今年もなかなかの御活躍御苦勞様でした。

。大橋 進 (昭46P)

当方週に一、二度プールに行っておりますが、年のせいかタイムは下る一方です。今年も月見の宴には欠席しますが悪しからず。皆様によりしく御伝え下さい。

毎年夏は泳いでいるのですが、今年は泳ぎ方が足りなかったようです。今年も水泳教室で子供に教えたのですが、今年も平泳ぎ初心者の指導法のコツを少しつかみました。近いうちにまとめます。それに神大水泳部の美人が手伝いに来てくれたので、とってもしっかりもよかったです。いけなくてごめんなさい。

。宮部 高博 (昭42L)

元気にやっています。今年も泳ぎの記録は余り伸びず五十米フリー三〇秒五でした。諸兄の御健闘を祈ります。

。藤井 元洋 (昭47P)

軍靴の響きのする今日此頃、戦争の恐しさや、軍隊が強力になることの危険性や、不経済なことについて、私は微力ながら今までもより声に大にして訴えています。今は大変なときです。皆さんも力をあわせてそれぞれの社会で頑張ってください。

。阿部 洋三 (昭42T)

週四回(距離は週五〜六千米)規則正しく泳いでいます。最近の記録では二〇〇バタ二一五二一〇というのがあります。三十代も後半に入りややスタミナ不足の感じですが、一緒に泳いでいる連中ががんばっているのとつられて泳いでいるという状態です。

。長谷川 健 (昭49E)

明石支店開設準備委員に任ぜられ城東支店より転勤致しました。明石支店は十月十七日オープンですので月見の宴当日もおそらく明石にて休日出勤となっていると思います。もし休めたら是非出席したいのですが……。とりあえず欠席としておいて下さい。

。井上与志男 (昭47J)

長らく御無沙恢して申し訳なく思っています。今年の素晴らしい戦績を見て心からうれしく、又誇らしく思っています。このところ公私にわたり多忙でもありますが、ヒマを見つけてプールへ

。家本 博一 (昭49E)

ソ連東欧の経済体制を専攻している関係で最近の状況には注目しています。言語との悪戦苦闘の毎日ですが、部員には久しく御無沙汰していますが、又一緒にやりましょう。

。野田 叔子 (昭51P)

今年から小学校に勤務しています。毎日、一年生を相手に大騒ぎしておりまして、精神的にはちょっと成長できません。月見の宴で皆様にお目にかかれるのを楽しみにしております。

。川本 典子 (昭51T)

今、ほしいものは夜十二時までオープンしているおいしいものを売っているマーケット、日曜日に開いている役所、銀行、病院——と書けば近況は想像がつくかと思えます。

。丸末 一之 (昭52E)

本日 (九月七日)、三菱銀行プールにて、東京銀行団水上競技大会が開かれ参加致しました。タイムの方は体力の衰えを感じるばかりでダメでしたが大会役員として来られていた山口さん (学10) に久しぶりで楽しいお話しを伺い、充実した一日でした。

。小林 正文 (昭52E)

七月より広島に転動しましたので新住所をご連絡します。  
(名簿参照)

。平石 康 (昭53P)

教師になってからもう三年、何事にも新鮮さが薄れいささか意欲喪失がみ。目標にむかって必死に泳いでいた現役時代がなつかしい。十傑表から名前が消えていくのも時間の問題。今泳いだら何秒が出るだろう。

。後藤 信人 (昭54B)

四回生諸君、ごくろうさま、今シーズンは期待していたよりバツとした戦績ではありませんでしたが、兵庫インカレ初優勝に關してのみ心より祝福させて頂きました。月見の宴は残念ながらラグビー部の合宿と重なりますので欠席させて頂いています。現在週二回泳いでますが、百ブレでは現役時代の記録を縮めております。限界なんぞないのだぞ、御中我々のレベルでは。ガンバレ、カッパたち。

。酒井 正人 (昭53A)

今は学校の教師を目指して頑張るかたわら水泳のコーチをしています。みんなもからだには注意してベストを出すよう頑張ってください。

。塩浜 英二 (昭53T)

九月一日から九月二十六日まで営業実習で米子に来ております。

九月十五日は松江で展示会があり「月見の宴」には残念ですが出ることができません。皆さんによりしくお伝え下さい。

。平野 輝雄 (昭53P)

このたび六年生を受持ちがんばっています。男子の身長にまけないようにこの頃体力作りにはげんでいます。おかげで〇・一ミリ伸びました。

。館谷 彰司 (昭55T)

皆さん元気。神戸に帰る暇が以前みたいになくなって、出張や遊びで東京に出る機会が多くて東京の人間になりそうじゃ。いやじゃ。

。中尾 稔 (昭55J)

毎日会社のために一心不乱にビールを飲んでいきます。そのためかどうか心ならずも私のスリムな体にも肉がついてきたようで、反省しつつやはり飲んでおります。＊わかっているとは思いますが、ビールはキリンやで(月見の宴は)

## 現 役 部 員 寄 稿

### クラブに対する一つの視点

主 将 富 岡 洋 三

(初めに、私のクラブ観を知ってもらうために少々堅苦しい文章になることをお許しいただきたい。)

わが神戸大学水泳部に限らず、クラブというのは何かしら問題があり、各クラブの上級生は毎年同じような悩みをくり返すのである。私は何かの参考になるかもしれぬと、過去二十年間の雑誌をひもといてみたが、時代の移り変わりを感ずると同時にクラブの問題点というのは時間・空間をこえて共通したものであることを痛感した。いわく、「上級生は傲慢だ、封建的だ」、「下級生はさぼりすぎだ、自覚が足りぬ」等々。ただここでクラブを「意思決定 (decision-making)」という視点から促えた場合、これを「戦略的 strategic) 意思決定」と「業務的日常的 (operating) 意思決定」に分けることは重要である。つまり前者に関しては、試合での勝利という目標についてはコンセンサスが得られているのに対し、後者においてこそクラブの問題の中心点となるのである。したがってまずこれについての私の考えを述べておこう。

日常の活動としてのクラブを考えた場合、それに対する部員の考え方は各人各様であろう。そもそも自我が確立され、ある程度の個人主義が身についた大学生の考え方が多様化するのには致し方なかる

う。ある者は「自分はクラブにしばらくは入れたくない、クラブは生活の一面にすぎぬ」といい別の者は「自分が毎日練習に耐えているのに他人がさぼるのは許せない」といい、こうしてかんかんがくがくの議論が行われる場合は多い。ここで強調しておきたいのは、そうした議論の中から真実を見つけ出すのはきわめて困難というより一歩進んでみれば絶対的な真実はないのであり、すべては相対的なものだけということである。したがって人間の本性として自己の存在証明（これについては後に述べる）をするために必ず自己の正当化が行われ、このために各種各様の理論武装をするのである。たとえば生々しい話になるが、社会から落ちこぼれた者はやはり存在証明のためにマルクス主義その他の理論を抛り所とするし、卑近な例では水泳のシーズンオフトレーニングについて、ランニングのきらいな者はランニングの水泳に対する悪影響をなるべく客観的に主張しようとする。大事なものは、このような作業は潜在意識の中で行われ、自己の正当化を自分で気づかない場合がきわめて多いということである。そしてこのような正当化は道徳的倫理的に見れば「甘え」であることが多いのであり、これを水泳部の存在意義（後に述べる）に照らし合わせてみれば許されないことである。以上より私は水泳部には、いく分不本意ながらも半独裁制を導入せざるを得ないと考えるのである。このことは何も私が部員の意志力・認識能力を見くびっているのではなく、私が少しでも長くこのことを経験しており、又人間というものは誰しもそのような力に限界があるということか

ら、こういう方式をとるのである。なお、ここで一つ加えるなら、私のこのような理論武装自体が強引な正当化にすぎないという逆説的反論も可能であり、私がすべてが相対的なものだとしたのもこの点にある。（以上において正当化ということばが悪い意味で使われたり中立的に使われたりしているので注意）

さて、クラブの「戦略的意思決定」の面ではコンセンサスが得られていると述べたが、これについても説明を要する。そしてこの説明こそが私のクラブ観の全貌である。

前述のように人間が自己の存在証明をするように、組織である水泳部もまた自己の存在証明を求めて活動する。わかりやすくいうなら、神戸大水泳部というものが大学内に、水泳界内に存在し、何らかの機能を果たしているということをもみんなに認めてもらうために我々は活動するのである。その存在証明は体育会としてアマチュア集団としての厳しい練習と精神鍛練、それに試合における成績、記録に他ならないのである。この二つはちようど過程と結果を構成している。プロフェッショナルであれば結果のみがすべてであり、単なる同好会では過程、すなわち判別的な活動でしかない。我々が神戸大学体育会水泳部として存在し続ける（*survive*）には、この過程と結果が重要なのでその点、数ある集団の中でもユニークな部類にはいるといえよう。

以上のような活動を通じて我々はクラブの存在意義を満たすことによって社会的な認知を受けるのである。なお、こういう書き方を

すれば「自分は他人を意識して他人のためにするのではない。自身のためにするのだ」という反論がありうるが、それに対しては、そういう生き方自体が自己の存在証明であると指摘しうる。

以上が私のクラブ観である。実はこの話には、数多くの盲点があるのだがそれをいちいち書き出すといくら枚数があっても足りないし、何よりも読者が混乱してしまうので二、三指摘するにとどめた。私の考え方を理解し、受け入れていただければ幸いである。

## アメリカ ザ ビッグ

副将 後 藤 芳 光

「六時にモーニングコールの電話の音で起床し、軽く食事をした後荷物をかたづけホテルをチェックアウトすると、グランドキャニオンの地底への旅に出かけた。七時二〇分地上は雪と氷の世界である。最初は全く氷の上を歩くのと同じである。かじかむ手に息をかけたがらしばらく歩き、一〇〇米ほど下ると自然の暖かさでだんだん寒さを感じなくなる。初め周囲が銀世界だったのに緑が多いのに気づく。上から見た時はさほど立体的に感じなかった渓谷がやがて立体的に見えてくる。空の碧さはまるで、カリフォルニアの青い空」という形容がびったりくる。但しここはアリゾナ州であるが……。」これは私が米国に旅行して三日目にグランドキャニオンを訪れた時

の日記の一部である。

一九八〇年三月五日ホノルル經由ロス行で生れて初めて海外旅行をした。私は日本を発つ時家族に「ひょっとしたら死ぬかもしれん」と遺書めいたことを言っておいたのでロスに着いた時は喜びよりは不安の方が強かった。その日はバスで宿泊ホテルへそのまま直行したが、途中現地の駐在員から、米国には一一〇番一一九番といった警察消防署への電話サービスがないこと、警官でも信じるな、ロスとシカゴとNYが世界で最も治安が悪い 等の諸注意を聞かされ、さらに不安がつのる。正に異国へ来たとき改めて実感させられる。

しかし一夜明けると各個人に二十九日間という与えられた自由行動が始まるのである。私はこの旅に関して一切の計画というものを立てず行ったらどうにかなるだろうと考えていたので先ずバスでダウンタウンに行ってみた。ちなみにバスは前から乗り運賃は一律であるが少しお金を出してトランスファアという時間の書いた紙をもらうとその時間内はその路線以外は乗り降り自由という便利さである。ここで何をしてみてもいいのかわからずまたバスでハリウッドへ行ってみた。というよりも通りかかったバスが偶々ハリウッド行だったのである。ここでも前と同じ何をしていいかわからない。なにせ全くの自由行動だからその日の泊まる所もないのである。人間は困った時ほどいい知恵が浮かぶものである。

衆知のように米国は車と飛行機が最大の輸送機関である。こと車に関しては道幅は広く左折専用のレーンが設けてあり駐車場の設備

もよい。パークングメーターの多いことに気づく。高速道路では料金を取ることはまずなくUターンも自由である。また標識が非常にわかりやすくNorths, southsと国道五号北行、同八号南行と示してある。国土は日本の二十六倍加州だけで日本がすっぽりはいるから地名で示されても特に外国人にはわかるはずがない。空港に關してはダラスフォートワース空港を見れば説明はいらないであろう。私は日本で国際免許証を取得していたのでレンタカーを借りることにした。これから八日間五四〇Kmを走る旅が始まったのである。最初の目的地はダランドキャンピオンである。途中何度か休憩しながら翌日の昼まで走りっぱなしである。当時ガソリンは日本の半額よりちょっと高かったくらいだから正に湯水のごとく使えるのである。私はこの旅行期間中半分以上は車、バスの中で泊った。ホテル等に泊まるなんてもつたないが私の信条である。ダランドキャンピオンではテレビ映画でお馴染みのあの平原まで歩いてみた。途中馬に乗った一団と擦れ違う。馬とは切り離せない生活もあるのだなあと関心する。平原の先端からかなり下にきたないがすごい轟音を立てて流れるコロラド川が見えた。私はこの旅行期間中平均して一〇Km以上歩いたと思うがここでは往復で一七Kmも歩いてきた。ここで日本と違う国立公園の現象を記しておこう。私は平原への道すがらたばこの吸殻をついぞ一本も見かけなかった。またくずかごが途中にはもちろんキャンプ地にさえ置いていなかったのである。日本ではさしずめ展望台、自動販売機の乱立がすぐ目立つであろう。

ひどい所では私利私欲にかられたホテル、別荘地ができるであろうが。彼らは持って来たものはすべて持って帰るのである。

次の目的地はヨセミテ国立公園である。私には、この景色が一番印象に残っている。雪に被われた絶壁、壮大な滝、下に見える森林、見上げると青い空、また野生というものがある。ハネムーンにはもってこいの所である。次は巨木の生い茂るセコイア国立公園を訪れた。直径五mくらいの木がざらであるが、見上げるとさほど高くないのにびっくりする。さすがに車で通りぬけでいる巨木までは行きつけなかった。なんと雪積が三m以上だからである。次の目的地はデス・バレー。砂漠と塩と暑さしかない。夏はアスファルトが溶けるから交通を遮断するそうである。ここでの最大の喜びは直線で一七Kmの道をひたすらぶっ飛ばすことであった。後で地図を見て気づいたのだが、その近くに約三七Kmの直線コースがあるので後輩の諸君誰か試してみてはいかがかな。

これでレンタカーでの活動に終止符を打ち、輸送機関はバスへと移って二〇日余りを過ごしたのであるが、行った旅程を米国の拡大地図でたどってみると西海岸をちょこちょこ見て回った程度にすぎない。(途中ダラスに行っただけでも)またたかが一ヶ月あまりでアメリカを見られるはずがない。正にアメリカ・ザ・ビッグである。

残念ながら私もいわゆる観光地しか行かなかったけれども、黒人を含む少数民族一見華々しい軍事基地、その影にサン・ジェゴで見

た不具の退役軍人、性犯罪、強盗、ボルノ（アメリカで見たら日本のは子供だましにすぎない）失業者（確かに日本車の多いのに気づいた）等の問題の一端でも垣間見たつもりである。

少くも物価が高かろうと家が狭かろうと貧富の差のない治安のいい日本は最高である。

最後にロサンジェルス大和銀行の佐藤一夫先輩が「皆様方によるしく」とのことでしたのでここに記しておきます。

さて来年はヨーロッパからの手記を書きたい……

## 第十六回全国身体障害者

### スポーツ大会に参加して

二回生 呉 竹 正 人

私事で恐縮ですが、主務氏の御好意に甘えて、又、身体障害者について考えて頂く契機になればと思います、報告させて頂きます。

この大会、別名「身障国体」は毎年、国体終了後、二日間にわたって国体会場で行われます。肢体不自由者、視覚障害者、聴覚障害者（前二者は競技に不公平のないよう、その障害程度によって、さらに前者は三十四部門、後者は三部門に分けられる。）が、それぞれの障害部門で競い、陸上競技、水泳競技、アーチェリー、卓球、車いすバスケットボール、盲人野球が行われます。出場選手は各都道府県（市）の代表であり、その遠征費は代表する地の税金で、全

額賄われます。又、できるだけ多くの身体障害者に出場機会を与えたいという趣旨から、一生に一度しか出場できません。

六月頃、京都市役所より身障国体京都市派遣候補選手選考会の通知が来る。私のような障害が比較的軽く、又、現役水泳部員でスポーツの機会にいくらでも恵まれている者が、と思ひ辞退させて頂くと思うが、いろいろな人に貴重な体験になる、と言われ、単なるスポーツ大会参加に終わらせず、学び取れる物はすべて学び取って将来の糧にすることを条件に参加させて頂くことにする。

京都市は他府県と異なり、完全な実力主義ではなく、十九歳以上の者で、しかも合同練習会の出欠、態度などにより選考される。

七月の第一次選考会後、水泳一〇〇Frと陸上走巾跳に種目決定。十月の大会まで毎月二回、日曜日の陸上合同練習を経た後、肢体不自由者二名、視覚障害者三名、それに、私を含む聴覚障害者二名が最終選考された。私が最年少である。結団式などで、団長や監督から、京都市の税金で参加すること、つまり市民や関係者のバックを忘れないこと、又、京都市代表に誇りを持って、勝敗に固執せず全力を尽くすように、と聞かされる。

ところで私が出場する一〇〇Fr、レベルはそう高くないが、毎年、傑出した人が一人はいるそうで、大会記録は一分一秒であった。安泰とは聞かされていたが、勝負はやってみないとわからないので、月見の宴終了後も、大会まで、三万五千米、泳ぎこんだ。酒井正さん、山本隆、上田剛弘先輩などが、練習につき合っ

た御陰である。

十月二十三日朝、京都を立ち、昼に栃木県に到着。宇都宮駅では、さっそくコンパニオンや県民の大歓迎を受け、身障団体にかける栃木県民の意気込みがひしひしと感じられた。

二十四日、練習日で、水泳会場で適当に泳ぎ込んでおく。片腕又は片足切断、さらには両腕と片足切断の選手が泳いでいるのを見ると、甘ったれた自身が恥ずかしくなった。更衣室では、義手、義足、コルセットの着脱と、皆忙しそうであった。

二十五日、早朝からの激しい冷え込みと、時折雨の降る中、栃木県総合運動公園陸上競技場で開会式が行われ、皇太子・妃殿下御到着後各都道府県選手団の入場が始まった。悪天にもかかわらず、スタンドを埋めつくす人々、任務を尽くす役員の方々を見てみると、頭張らねばと思われてきた。開会式終了後、競技開始され、一日目の種目、走巾跳に出場。河童の出る幕ではなく、ベストの五米十四空しく四位に終わる。「ふん、明日を見ておれ」と内心思い、聴覚障害者K嬢の「呉竹君、悔しそうでない」の世話にも、悔しさをグツとこらえて、「男は後悔せず」と無理にエエ格好をする。

大会第二日目、水泳会場へ。開会式直後、しかも四コースとは、いやがうえにもファイブがわく。他選手のお粗末なフライングが二度あり、三度目のスタート、栃木まできて失格にはなれんわい、と思いつつも、スターターだって同じ心境だろうから、間は小さいだろうと推測する。案の定、であった。後半、少し乱れたが必死で泳

ぐ。一分四秒五。大会記録に三秒四、自己ベストに〇秒六及ばずながら優勝。初めて表彰台に立ち、金メダルを受ける。ヤレヤレ、七年目の水泳部である私と神大水泳部のメンツを保てました。

午後、閉会式、快晴。スタンドの大歓声の中、コンパニオンと役員が作る花道を退場、あちこちで涙、握手、擁抱である。旗手の私は、強風にはためく旗を必死で抑え、それどころではありませんでした。

二十八日夕、帰京。小さい頃から今日まで、難聴ということ、いろいろと悩んだ。これからも悩み続けるであろうが、この大会を通じて私の精神は一層、固くなったようである。私よりはるかに困難な人生を生きている人々の見事な技、健闘が今も目に浮かぶ。一般人にとって、身体障害者など何の関係もないだろう。しかし、明日、あなた自身が、あるいは知人がそうならぬ、という保障はない。身体障害者も人間なのである。彼らが奇異に見える時、自身のことを忘れてはいないか。彼らは好き好んで、そうなっているのではない。彼らなりに闘っているのである。

先日の朝日新聞「論壇」に、こう書いてある。「政府の障害者年事業予算二十一億円はすべて記念セミナー等の費用であり、車イス用エレベーターを国電の駅の一つにつける計画さえない。そして世間に負担をかける障害者などは無用の存在である、との渡部教授式論法の風潮が何を意味し、それが拡大していく時、どういう事態が起こってくるか。……障害者の多くはまだ怠惰である。主体的に自

昭和55年10月28日

京都新聞

立の意思を持った障害者は数えるほどである。これでは障害者不在の障害者年に終わってしまうのみでなく、その結果、差別が強まる社会が現出するかも知れない。一九八一国際障害者年は、それほど危機的なものを深部にはらんでおり、今何よりも問われているのは、障害者自身の決意と自覚である。」  
今年には私にとっても試練の年である。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

身障者スポーツ大会

5選手が上位入賞

京都市選手団

第十六回全国身障者スポーツ大会

会が、二十五、六の両日、栃木県

で開催されたが、京都市選手団

(谷口氏以下、二十一人)は選手

の金銀銅賞状を、また水泳自由

由形の奥竹丈人選手(心)が優勝す

るなど出場八選手のうち五人が三

位までに入賞した。選手団は十

八日午後五時、京都駅前の新幹

線へ帰る。入賞者の成績次の通

り。

(敬称略)

金銀銅賞状(五種競技選手)

卓球一位、車いすラケット三

位、奥竹丈人(神戸大)一週生、水

鉄道員自由形一位、中村知明(府立身障センター) 二、藤沢投三 位、松井洋子(大妻学院) 三、立上 野三、小林由忠(京都銀 行) 四、水越五十嵐自由形三位

現役部員紹介

——二回生部員が捕えた先輩・同輩の偽らざる真の姿

。富岡 洋三(B30)主将

親子二代、頭は経営学、体は水泳へと向った生粋の凌泳っ子。入部当時はスイミングスクール出のプレストの新星として、華々しいデビューをしたのであるが、その後、記録が伸び悩み昨年は長崎、山野の進出で影が薄くスランプに陥っている。然し、過去の実績は大きく主将に就いて采配を振っている。今年度は主将として、水泳、水球そしてコンバでの活躍に大いに期待できるといろう。

。後藤 芳光(E30)副将

副主将である彼について言えることは、とにかく酒が強いということである。彼の年季の入った顔には日本酒が非常によく似合う。気前の良さは水泳部一で、我々後輩にとってはまことに頼もしい存在である。また彼は無類の旅行好きで海外へも足を運んでいる。そしてその資金をかせぐために日夜バイトにはげんでおられる。人柄は温厚である。副将としての彼の活躍を期待したい。

。白子 靖則 (B 30)

人間は外見で判断できないものです。元主務だけあって、一見真面目を顔にしたタイプ。その実は正に反対。ニタリと笑った時の、スケベー以外何者でもないというあの顔。あなおそろしや。一旦服を脱ぐと、そこはハード・ゲイの世界。まさにクルーシング。重量あげの三宅か、マッチョマンかというところ。水球で、コーナに決める弾丸ライナー級のシュートは、見事の一言。今年、これで関ボロも優勝じゃ。主務ゴク로우サマでした。

。辻 陽子 (P 30)

さしずめ女子部の「あねさん」というところ。強じんな精神力が、この方の泳ぎをささえている。合宿のくそしんどい時に、百米十本をバツタで泳破、兵庫インカレ二百バタでもただ一人、「ヨイショ、ヨイショ」の声援をうけ堂々優勝されたのである。又初泳ぎにそなえての減量作戦は努力家としての彼女を語る隠れた逸話である。キョトンとした時の大きい目、笑うとなくなる、目のかわいいツッコ先輩である。

。森田 恵 (A 30)

実質三年生現役部員中で紅一点の存在です。しかし、一方では農学部という理系学部のためか練習参加も思うようにならず、いつも七コースで苦しうに泳いでいました。しかし根からの真面

目さが苦しいのにもかかわらず六甲台プールへと足を向わせたのでしょう。ふだんはおとなしいお姉さんタイプの方ですが、最近何やら身辺があわたましいような……

。寺尾 紀子 (P 30)

彼女の専門種目はフリーである。それがまた速いところ。ですね、授業が忙しく六甲台の25M非公認の、あの緑色の水をたえたプールにはあまり出沒されません。しかしながら後輩部員には、お姉様の存在として君臨したはります。最後には是非次の事を付け足しておかねばなりません。それは我が部の中から将来を供にする、おむこさんを見つけたことはったことです。(土井さん、赤い顔せんといて下さい)

。高城 俊介 (T 31)

先輩として、いや一人の男としてみると、あの人はかっこいいナァーと思うところがある。センス一つにしてもそれがいえるのではなからうか。

水泳においては、あの肩のやわらかさが何とも言えないのではなからうか。それに何か俺は今、「青春の下真中にいるんだゾー」と感じさせる何かを持った人である。

。太田 雅彦 (A 31)

人材難の背泳陣を支えるべく必死に頑張っておられるのが、この人である。水泳部の巢「甲楠荘」二階に在住。かつて、毎日、朝昼晩、王将の餃子をお食べになることで有名であった。もっとも最近では違うそうです。いつも、ひょうひょうとして「我が道を進ん」でおられる。下級生には非常に親切である。

。酒井 康司 (T31)

昨年の夏、彼女と別れ、遂に暗い三回生の仲間入りかと思いきや、すぐに年上の美人の彼女をお持ちになって、その手の早さ、いや行動力には、脱帽なのであります。二人の仲のよさを見せつけられてしまうのですが、そちらの方と同様に、今シーズンも、活躍を大へん期待しております。

。酒井 潤 (E31) 主務

人は皆彼のことを「生駒」と呼ぶ。我々も入部当初は「イコマ」と「サカイ」のいっただちら本名か迷ったものだった。フリーロングを泳ぐが、その土踏まずのない足をいかしてのビートの驚異的速さには定評がある。練習中は「小さくまとまっている」が、いったん合コンや麻雀等水から離れると一躍主専権を握る。その交渉能力やおおじしな性格は主務として大いに発揮されるであろう。

。田伏 正佳 (S31)

唯一の理学部生、そして初心者として大学で水泳を始めた異色の存在。和歌山出身らしい土と汗で鍛え上げられた顔も笑うと一変し親しみ易い人となる。プレストと個々を専門とするが、大学までは水泳をしなかったというハンデは大きく苦勞も人一倍、然しその成果が実って昨年は記録が大きく更新し、大学以前から水泳をやっていた部員に追いつき、追い越そうとしている。今年度は専門に上がり出席も減るがそこは努力の虫、まだまだ期待は寄せれるでしょう。

。長谷川 泰造 (T31)

一分二〇秒への壁は厚かった。神大プレスト陣のきびしい練習によってこの二年間、切磋琢磨してきた彼。「二回プレ陣低迷」というわざも聞こえたがとにかく頑張ってもらいたい。こんなことはどうでもよい。神大水泳部が誇るプレスト大軍団の中で昨シーズン、新入り一回生に押されつつも彼はついに十傑入りを果たしたのであります。来シーズンも彼は燃えるでしょう。逆境に生きる男、長谷川をヨロシク。

。山本 徹 (T31)

通称サンマ。彼の性格を知るには、下宿に行くのが一番。自らの手による習字が貼ってあり、「凌泳」、麻雀の本などの大事なこと

ろには、赤い線が引いてある。借り物も自分の物として堂々と置いてある。一時期双眼鏡もあつた。(窓からは、女子大ぐらいしか見えないのに。)似てもいまい馬場の真似が得意。そう、彼の性格は極めて温厚、律義、真面目、努力家なのだ。今年、リッパな体格をいかした、ダイナミックな泳ぎを期待したい。

。杉野 誓 (T 31)

ほりの深い目から高い鼻スジへかけてのラインの酷似から、今全世界の注目を集める男イランの総師ホメイニ師と部員の間であだ名されている。これほど崇高なあだ名をもつ人も少ないだろう。その練習態度たるや、多くを言わず、その日の課せられたメニューを黙々とこなしていられる。まさに不言実行型の典型的な先輩である。しかしこんな崇高なはずの方の口から、人のうわさ話の意外なことを耳にすることもあるのである。

。田中 俊哉 (T 31)

我水泳部の短距離部門の中心の一人です。やさしいかんじの方ですが喋るとちょっぴりトゲのあるお言葉が……。少々気分を左右されるところがありますが、気分が乗りに乗っている時の記録会や試合は毎回自己最高記録を塗りかえ、記録の伸び悩んでいる者にとっては正に羨望的。学部の上ってしまい、本年度の活躍が危まっていますが、是非頑張ってもらいたいものです。

。金 一波 (E II 31)

自称、硬派。酒を飲むと水泳論の大演説をはじめ。そして彼の欲するものは、F A M E と V I C T O R Y である。多くのスイミングスクールでコーチ業にはげんでおり、これまた自称(あくまでも自称)であるが競泳主任という肩書を持っている。試合となると声を張り上げ闘志を盛りたててくれる彼であるが、性格は幼児性も含んでいる。そして今そつとまぶたを閉じるとゲイタレイド片手に熱くなっている彼の姿が浮んでくる。金一波、THE FIGHTER!

。小井戸路代 (P 31)

一人の女性としては、男に 負けないぐらいしっかりした何かを持った人である。

印象的な事が一つある。それは(クラブ内においてもであるが)記録を計るときにいつも「アーベスターク」の音が、そのつど聞こえた事である。うらやましいというよりも「アレ?」と回りにいる連中に思わせたからである。

。国本 温代 (P 31)

女性でありながら、時には男勝りの度胸を発揮し、パッパバのように見えて、そうでないような……。自動車免許所持。先日エンスト一回、スタートすべてワントンが遅れる、というボ

ソコツ車にしては、すばらしい腕前を見せて頂きました。最後に、セールスポイントは宮崎美子同様の太め、とパワーだそうです。

。石本日和子 (P 31)

軽音にも所属してらして、オフの間は、そちらの方がお忙しかったようですが、シーズン中の活躍を、みんな期待しているのです。プールに入られた日には、男子部員の意欲が変わってくるのです。だってあの迫力ですもの……。本当に、羨ましい限りなのであります。

。久保田勝己 (E 32)

フリーロング陣のエース。昨シーズンは「神大に久保田あり」と全関西や全国にその名を轟かしたのである。(もともと水泳面だけでは限らないが……) その泳ぎはフリーだけでなく他の泳法も誰もがギョッとするとはいえない泳ぎである。が、そのわりにはなぜかスピードは出るから不思議である。鷹揚とした性格だが、いったん酒が入ると狂乱の極至になり、いつも我々の目を楽しませてくれる。

。鈴木 利一 (T 32)

浪人生活の後遺症で腹がでて、足が太ったためかどうかは不明だが、記録が伸び悩み水泳では注目すべき所が少なかった。が、

コンバとなると俄然その強さを発揮、いつも最後まで笑顔で先輩について行くのである。酒が入ると世の中が変わって見えてくるのだが、合コンでは女にも男にももてた実績がある。今年度はコンバだけでなく、水泳、水球においても強さを発揮してもらいたいものである。

。野村 俊彰 (J 32)

普段目立たない存在なのに、お酒が入ると、とたんに変身してしまうのです。コンバにまつわる裏話も、数多く提供してくれました。でも、何をしても、憎めないのですよね。先輩だけでなく、きつと後輩からも、可愛いがられることでしょうね。たった一つだけ、心配な事があるのです。彼にバイクを与えるという事は、久保田君にお酒を与えるという事に匹敵する程、危険な事と違うかなって。

。長崎 真人 (B 32)

すらりとした体格で、いつも我々を見下ろしている。昨シーズンは大活躍をし、ボロでも、亀井御大に代わり、神大ゴールを必死で守った。文字通り、ブレスト陣の屋台骨である。勝利の時、ビール瓶又はトロフィーの酒を飲み干した時、あの長い手でガツッポーズを示してくれる。今日も、名古屋弁は衰えずあの「イッヒッヒ」とも「エヘヘー」ともつかぬ独特の笑いを見せてくれる。

。吉岡 宏之（J32）

何を泳がせても彼は速い。（二蝶は例外）蝶泳の、大胆、華麗かつ余裕ある泳ぎは、一際光っている。また見ている者の心を掴んで放さない。だが、それも噂の新入生の登場により、過去の栄光となってしまうかの危機に曝されている。ヒッヒッヒッ。（筆者の性格が、もろに出てますなッ。）今年も、課題とも言える二蝶をいかに克服するかにかかっているようだ。ガンバレ吉岡。瘦せる吉岡。

。山野 和則（A32）

神大ブレ陣「第二の男」。昨年後半の活躍は目ざましかった。常に練習には全力で挑み、何度もトライアルする彼の反骨精神こそが彼の記録をのばす誘因となったのであろう。が反面、その繊細でか細い体つきは、見かけ通りにもろくよく体に欠陥をもつというすばらしい矛盾の持主である。いいかげんなことときらいな彼、コンバの時にも、酒が入ってくるとまじに話し出す所にもその矛盾が見出される。

。谷水 利行（J32）

もう一人のバタフライの吉岡の陰に隠れてめだたない存在でしたが、頑張り屋で記録会ではいつも二百米を泳いでいます。そのかいあって遂に二百米バタフライにおいて十傑入りを果し、今で

ではバタフライの二本の柱の一本を担うまでに成長しました。おっとりした性格ですが、なかなか愉快な面をもっています。来年度の活躍が大いに期待されます。

。池田 裕二（T32）

彼は膝の故障のため去年一年間を棒にふった。しかしながら彼のパワーは素晴らしく、今年はやってくれる、と期待されています。彼の性格を一言で表すなら世話好きというところではないでしょう。うか。そんな池田君です。端正なマスク、柔軟性に乏しい体、高い身長、長い足、熊みたいな手、これだけの条件を完備している彼は女の子にもよくもてるようです。

。呉竹 正人（J32）

少しのハンデーキャップを持ちながらも、まるでそれに苦しんでいないかのように回りの人々にふるまう。頭が下がる思いである。シーズンの初めごろ、水温が低いといって、「さむい」or「足がつる」とかいてプールの入る事のためらいを持っていた事がとても印象的であった。ガンバレヨク

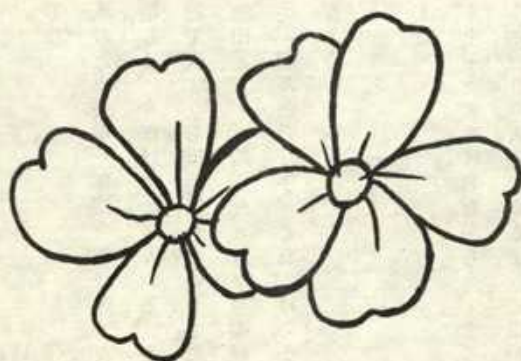
。松野 圭吾（B32）

山口市下松市出身の彼は春に一時水泳部に籍を置いていたのだが、家庭の事情と俗にいう五月病で水泳から離れていた。以下本

人の言うところによると——怠惰で無意味な大学生活を送ってきたが、自分でも驚くほど体力も衰え病気がちになってしまった。そこで一念発起して再入部することに決めた。——  
ということ、この一月再び入部した。彼の入部でフリーロング陣は一段と層が厚くなりそうである。

。中坪 朋子（松蔭女短大）

昨年、六甲台の西側になにやらえらくモダンな学校が出来ました。それが松蔭女子短大でした。そしてそこから、なにやらえらく化粧の濃い女の子が水泳部のマネージャーにやってきました。それが彼女でした。女性の少ない水泳部一同（男子）は大歓迎。彼女はシーズン中よく働いてくれました。短大ということ、来年までしかいられないけれど、貴重なマネージャーである。来シーズンもよろしくたのみます。



## 昭和55年度 活動報告

### ○新しいメンバーを迎える

今年度の練習は、四月初めの鳥取県浜村温泉に於る春期合宿で幕があげた。これに備えて、四日間にわたるスイミングスクール(佃S.S)での練習を積み、四泊五日のかなり内容の濃い練習となった。(陸トレも組み入れ、一日七千~八千米泳ぎこみ)

新学期より六甲台での陸トレ開始、今年も早くから多くの新人を迎え、最終的には男子十名と、女子マネージャー一名(松蔭女子短大)が新メンバーとなった。四月下旬より徐々に水中トレーニングへ移行。水陸併用しながら、今年は早いうちから距離を増やし、五月中旬には既に三千米、下旬には五千米に達し、新入生にとっては、特にきつい練習になったようだ。

また、五月中旬からは、二部練習をとり入れ、午前の部では水球を始めた。下旬には、武庫工高、阪急S.S.等と練習試合を行い、実戦形式の練習に重点がおかれた。

こうして、六月十五日に恒例の京阪神三大学戦、シーズン初の公式試合を迎えた。

### ○「第29回京阪神三大学戦」 6月15日(日) 於関西大学プール(50m)

#### ——— 拍手抜けだった京阪神三大学戦

#### ・100m 自由型

金 一 波	1-02-4	2位
田 中 俊 哉	1-04-2	3位
高 城 俊 介	1-09-7	6位

#### ・400m 自由型

久保田 勝 己	5-04-3	1位
上 田 剛 弘	5-17-1	2位
酒 井 康 司	5-25-7	3位

#### ・800m 自由型

久保田 勝 己	10-17-5	1位
上 田 剛 弘	11-01-0	3位
酒 井 潤	12-25-4	

#### ・200m 平泳

長 崎 真 人	2-52-5	2位
山 本 徹	3-10-6	5位
長谷川 泰 造	3-20-2	

#### ・200m バタフライ

吉 岡 宏 之	3-02-5	2位
谷 水 利 行	3-26-0	6位

#### ・200m 背泳

太 田 雅 彦	2-45-8	1位
酒 井 康 司	2-52-2	3位
野 村 俊 彰	3-29-3	

・200 m 個人メドレー

富岡洋三	2-43-4	2位
芝暢彦	2-45-9	3位
吉岡忠之	2-52-1	5位

・400 m 個人メドレー

富岡洋三	5-59-8	1位
芝暢彦	6-08-4	2位

・400 m メドレーリレー

太田・長崎・吉岡・金	4-49-8	2位
------------	--------	----

・800 m リレー

金・田中・上田・久保田	9-42-3	3位
-------------	--------	----

総合

1位	神戸大学	103点
2位	大阪大学	80点
3位	京都大学	24点

例年戦力の探り合いだけに終わってしまうこの試合であるが、今年は、特に部員の増えた京大が主力を全員引っ込めてしまったため、全く拍子抜けの試合になった。来年以降、こういうことのないよう、特に要望しておきたい。

○夏合宿（第1次） 6月23日（月）～6月28日（土） 六甲台

——— 今年によく晴れた夏合宿

6月16日より強化練習。午前の水球練習をさらに強化。午後の競泳も6000 mに届くようになった。そして6月23日より第1次夏期合宿に突入。目標は兵庫インカレの優勝と関西国公立戦の3位入賞である。今年も早期練習はなかったが、1日の練習量は最高で14,000 mに達した。メインは3日目の50 m×100、あるいは100 m×60（ロングメンのみ）。充実感並びに疲労感あふれる合宿であった。昨年度とちがい、合宿期間を通して天気良かったのは、特に寒がりの者にとっては、幸いであった。（筆者がその一人）

○「関西ポロリーグ戦」 6月29日 於 大阪市立大学

—— 最悪を免れたポロリーグ戦

・第1試合

神戸大	Q	立命館大
0	I	2
1	II	2
3	III	4
1	IV	1
5	計	9

(メンバー)

- 1 亀井 尚之
- 2 土井 和幸 ①
- 3 芝 暢彦
- 4 酒井 康司
- 5 富岡 洋三 ①
- 6 上田 剛弘 ①
- 7 太田 雅彦 ②

・第2試合

神戸大	Q	大市大
3	I	2
0	II	1
3	III	0
1	IV	0
7	計	3

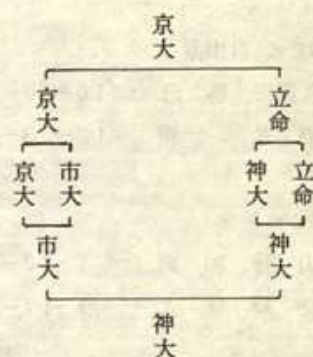
(メンバー)

- 1 亀井 尚之
- 2 土井 和幸
- 3 芝 暢彦
- 4 酒井 康司
- 5 富岡 洋三 ③
- 6 上田 剛弘 ②
- 7 太田 雅彦 ②

○内の数字は得点を示す。

組み合わせ

総合		
1位	京都大学	2勝
2位	立命館大学	1勝1敗
3位	神戸大学	1勝1敗
4位	大阪市立大学	2敗



合宿の疲れがまだ抜けないままに臨んだ試合であるが、3位決定戦での市大とのゲームはともかく、対立命館戦はぶざまであった。相手側のたび重なる退水(キーパーの退水までであった)のチャンスに得点できなかったのは、痛恨であった。

○「第50回兵庫県学生選手権」 7月6日(日) 於 西代市民プール(50m)

—— やったあゝ 完勝の兵庫インカレ

〔男子〕

・100m自由型

金 一 波	1-01-5	1位
田 中 俊 哉	1-02-9	3位

・200m自由型

上 田 剛 弘	2-21-2	2位
金 一 波	2-26-7	4位

・400m自由型

久保田 勝 己	4-51-8	2位
上 田 剛 弘	5-08-8	3位

・800m自由型

久保田 勝 己	10-00-8	1位
酒 井 潤	12-00-4	4位

・100m平泳

山 野 和 則	1-20-9	4位
長 崎 真 人	1-17-1	(失格)

・200m平泳

長 崎 真 人	2-50-7	2位
山 野 和 則	3-00-9	6位

・100mバタフライ

吉 岡 安 之	1-11-7	3位
---------	--------	----

・200mバタフライ

吉 岡 安 之	2-56-1	4位
谷 水 利 行	3-14-7	

・100m背泳

太 田 雅 彦	1-14-2	2位
酒 井 康 司	1-18-9	5位

・200m背泳

太 田 雅 彦	2-45-6	2位
酒 井 康 司	2-48-1	3位

・200m個人メドレー

富 岡 洋 三	2-43-4	2位
芝 暢 彦	2-45-2	3位

・400m個人メドレー

富 岡 洋 三	5-53-7	2位
芝 暢 彦	6-09-9	3位

・400mメドレーリレー

太田・長崎・吉岡・金	4-43-1	2位
------------	--------	----

・800mリレー

上田・田中・金・久保田	9-28-0	1位
-------------	--------	----

— 総 合 —

1位	神 戸 大 学	100点
2位	関西学院大学	64点
3位	甲 南 大 学	57点
4位	神 戸 商 科 大 学	55点
5位	神 戸 商 船 大 学	28点

完勝であった。優勝の自信は十分あったが、いざふたを開けてみるとこれをさらに上回る試合展開となり、各選手とも好記録をマーク、上位を占めた。中でも800m自由型における久保田の記録は特筆に値すべきものであった。もっとも彼は後の試合で、これ以上の記録を次々に出していくことになるが。

実は我々も気づかなかったのだが、これが50回にわたる兵庫インカレの中での、初の我が大学の優勝であった。これについては別項にゆずりたい。

〔女子〕

・100m自由型

小井戸 路代 1-20-6 3位

・200m自由型

小井戸 路代 3-00-7 3位

・100m平泳

国本 温代 1-38-6 2位

森田 恵 1-43-5 4位

・200m平泳

森田 恵 3-40-7 3位

・100mバタフライ

国本 温代 1-59-3 3位

・200mバタフライ

辻 陽子 3-32-4 1位

・100m背泳

石本 日和子 1-30-7 3位

・200m背泳

石本 日和子 3-19-8 3位

・200m個人メドレー

辻 陽子 3-22-3 3位

総 合

1位 武庫川女子大学 134点

2位 神戸大学 53点

女子の皆様、御苦勞様でした。なお、辻嬢の200mバタフライは、まさに独泳の優勝でした。

(参加者1名) 女子の盛り上りはもうひとつのようでした。

○「第31回関西国公立戦」 7月12・13日 於京都大学プール(50m)

——— 嗚呼、痛恨の関西国公立ノ どうして負けた?ノ

〔男子〕

・100m自由型

金 一 波	1-00-4	3位
田 中 俊 哉	1-02-6	6位
高 城 俊 介	1-09-0	

・200m自由型

田 中 俊 哉	2-20-5	5位
金 一 波	2-23-4	
高 城 俊 介	2-36-7	

・400m自由型

久保田 勝 己	4-51-3	3位
上 田 剛 弘	5-02-8	6位
酒 井 康 司	5-09-6	(8位)

・1500m自由型

久保田 勝 己	19-28-9	2位
上 田 剛 弘	20-40-0	4位
酒 井 康 司	20-59-6	6位

・100m平泳

長 崎 真 人	1-18-6	(8位)
山 野 和 則	1-22-5	
長谷川 泰 造	1-26-3	

・200m平泳

長 崎 真 人	2-51-5	5位
田 伏 正 佳	3-09-9	
山 本 徹	3-13-3	

・100mバタフライ

吉 岡 宏 之	1-10-5	6位
谷 水 利 行	1-17-8	
池 田 裕 二	1-37-9	

・200mバタフライ

谷 水 利 行	3-07-0	
---------	--------	--

・100m背泳

太 田 雅 彦	1-12-3	3位
野 村 俊 彰	1-25-6	
呉 竹 正 人	1-27-8	

・200m背泳

太 田 雅 彦	2-41-5	5位
野 村 俊 彰	3-12-5	
池 田 裕 二	3-38-3	

・200m個人メドレー

富 岡 洋 三	2-39-7	5位
芝 暢 彦	2-43-5	(7位)
田 伏 正 佳	3-15-5	

・400m個人メドレー

吉 岡 宏 之	5-53-1	5位
芝 暢 彦	5-55-3	6位
富 岡 洋 三	5-58-3	(7位)

・400mメドレーリレー

太田・長崎・吉岡・金	4-43-6	4位
------------	--------	----

・400mリレー

上田・田中・久保田・金	4-10-1	4位
-------------	--------	----

・800mリレー

上田・田中・金・久保田	9-21-5	4位
-------------	--------	----

総 合

1位	京 都 大 学	112点	4位	神 戸 大 学	44点
2位	大 阪 府 立 大 学	74点	5位	神 戸 商 科 大 学	
3位	大 阪 大 学	47点	6位	大 阪 市 立 大 学	9点

何ともいえない結果である。我々には自信があった。兵庫インカレの勢いをもってすれば、当面の敵である。阪大も目ではない。全国国公立戦行きの切符は自動的に手に入ってくるはずだ。第一、ここ数年我校は常に3位以内にはいるではないか……。甘かった。少数精鋭の阪大に対し、我校は数では押せなかった。十人の入賞者を出しながら、勝てなかったのは悔やしかった。上田前主将も最後のメインイベントを飾れなかったのは無念であつたらう。

しかし、我々はここで冷静にふり返ってみなければならない。敗因は何か。油断、過信、甘え、委縮、どれも当たっているような……。要するに精神面での弱さを露呈してしまったといえよう。そしてこれは我がクラブの最大の弱点といえるのではないか。逆にこれが新しいシーズンに向けての課題(challenge)であり、戦略ポイントとなるのである。

個人的には、いくつかの目立つ点があった。自由型長距離における久保田の神大新記録、短距離における田中の子想外の活躍、金、太田の3位入賞、いずれも、みごとな成績である。逆に冨岡の不調は全体的にも、個人的にも残念であった。特に本人には次年度奮起してもらいたい。

〔女 子〕

・400m自由型

小井戸 路 代 6-19-0 5位

・100m平泳

国 本 温 代 1-39-3 4位

森 田 恵 1-43-7

・200m平泳

国 本 温 代 3-38-9 5位

・100m背泳

石 本 日 和 子 1-29-3 1位

・200m背泳

石 本 日 和 子 3-16-0 3位

・200m個人メドレー

辻 陽 子 3-19-0 4位

・400m個人メドレー

辻 陽子 7-08-5 2位

小井戸 路代 7-14-0 3位

・400mメドレーリレー

石本・国本・辻・小井戸 6-08-0 3位

・200mリレー

小井戸・石本・辻・森田 2-25-7 5位

・400mリレー

小井戸・石本・辻・森田 5-40-9 6位

— 総 合 —

1位	京都教育大学	82点	4位	京都大学	37点
2位	奈良教育大学	69点	5位	神戸大学	37点
3位	大阪教育大学	45点	6位	大阪大学	15点

昨年は堂々2位入賞を果たした女子も、今年は総勢5名では駒不足であった。総合では、5位だったが、記録的には、各選手とも向上がみられた。

今シーズンのひとつのやまを越えた後は、六甲台での“第二次夏合宿”——市大戦、三商大戦へ向けての水球特訓である。3年生以下が主体の練習であったが、やみくもに突き進んだだけで、効果の方はといえば、心もとなかった。

○「第61回 対市大戦」 7月20日 於大阪市立大学プール(50m)

——水球で惜敗、市大戦

〔競泳の部〕

・100m自由型

田中俊哉	1-03-8	1位
呉竹正人	1-06-1	2位
白子靖則	1-11-0	6位

・400m自由型

金一波	5-16-6	1位
酒井潤	5-43-8	4位
高城俊介	5-57-4	6位

・800m自由型

久保田勝己	10-32-8	1位
鈴木利一	12-58-2	4位
池田裕二	13-06-6	5位

・200m平泳

長崎真人	2-51-8	1位
山野和則	3-10-0	5位
杉野誓	3-16-5	6位

・200mバタフライ

吉岡宏之	2-53-4	2位
谷水利行	3-09-4	3位
太田雅彦	3-30-6	4位

・200m背泳

酒井康司	2-48-6	1位
野村俊彰	3-14-3	5位
長谷川泰造	4-01-7	6位

・200m個人メドレー

富岡洋三	2-43-0	1位
田伏正佳	3-09-6	5位
後藤芳光	3-17-1	6位

・400mメドレーリレー

吉岡・山本・久保田・田中 5-05-3 1位

・800mリレー

酒井(潤)・酒井(康)・10-11-2 1位  
田中・久保田

総合

1位	神戸大学	92点
2位	大阪市立大学	86点

〔水球の部〕

神戸大	Q	大市大
1	I	2
0	II	4
2	III	2
0	IV	2
3	計	10

(メンバー)

1 亀井尚之	5 富岡洋三
2 酒井康司	6 白子靖則 ①
3 長谷川泰造	7 太田雅彦 ②
4 後藤芳光	

○内の数字は得点を示す。

競泳では、なるべく多くの選手を出すという方針ではあったが、市大も主将泉谷氏が完成するのに三日三晩かかったとか、かからなかったとかという苦心の競技順序とエントリーによって善戦、終わってみると意外な僅差であった。

さて、問題は水球であった。又我々の主たる関心事もこちら方にあった。ただ我々にとって痛かったのは、この日が公務員試験の日にあっており、主将、副将を欠いてのゲームだということであった(市大も何人か抜けてしまったが)。弱気も手伝って、まさに屈辱的な敗戦を喫してしまった。ここ十年ほど市大戦では負けたことはなかっただけに、わざわざ応援にかけつけて下さったOBの方には申し訳のしようもなかった。とにかく基礎練習の不足、攻撃の単調さを改めて認識させられた試合であった。

○「第48回旧三商大戦」 7月26日 於六甲台プール(25m)

——競泳の圧勝と水球の惨敗

〔競泳の部〕

・100m自由型

金	一波	58-6	1位
	田中俊哉	1-02-0	2位

・400m自由型

	久保田勝己	4-41-3	1位
	上田剛弘	4-54-3	2位

・800m自由型

	久保田勝己	9-56-6	1位
	酒井康司	10-54-6	2位

・200m平泳

	長崎真人	2-48-6	1位
	山野和則	2-57-0	2位

・200mバタフライ

	吉岡宏之	2-42-1	1位
	谷水利行	3-00-4	3位

・200m背泳

	太田雅彦	2-43-4	2位
	野村俊彰	3-13-5	5位

・200m個人メドレー

	富岡洋三	2-38-4	1位
	芝暢彦	2-44-1	2位

・400mメドレーリレー

	太田・長崎・吉岡・金	4-52-1	1位
--	------------	--------	----

・800mリレー

	金・上田・田中・久保田	9-10-9	1位
--	-------------	--------	----

(神大新)

総合（競泳）

1位	神戸大学	91点	3位	一橋大学	42点
2位	大阪市立大学	48点			

〔水球の部〕

対市大戦

神戸大	Q	大市大
0	I	1
2	II	1
0	III	1
2	IV	2
4	計	5

（メンバー）

- 1 亀井 尚之
- 2 土井 和幸
- 3 芝 暢彦
- 4 酒井 康司 ①
- 5 富岡 洋三 ②
- 6 上田 剛弘
- 7 太田 雅彦
- 8 白子 靖則 ①

対一橋大

神戸大	Q	一橋大
0	I	3
0	II	4
0	III	1
0	IV	2
0	Q	10

（メンバー）

- 1 亀井 尚之
- 2 土井 和幸
- 3 芝 暢彦
- 4 酒井 康司
- 5 富岡 洋三
- 6 上田 剛弘
- 7 太田 雅彦
- 8 白子 靖則
- 9 後藤 芳光
- 10 山本 隆

○内の数字は得点を示す。

総合（水球）

1位	一橋大学	二勝〇敗	3位	神戸大学	〇勝二敗
2位	大阪市立大学	一勝一敗			

東京から一橋を迎えての三商大戦。我々の目標は、上田・芝・土井を戦列に加えて、いかに市大に対して水球の借りを返すか、そして一橋に、どこまで食い下されるかにあった。一橋もここ二、三年で戦力が低下し、現在の部員は十人に、満たないようであった。事実、競泳の部では、神戸大が一、二位をほぼ独占したのに対し、例年二位であった一橋は今年三位になった。なおこの試合は今年度における唯一の短水路プールにおける試合であり、部員も順位よりは記録の方に賭けていたようである。なかでも100m自由型の金、400m、800m自由型の久保田、800mリレーの神大新記録は、みごとという他はない。これに対し水球では、市大戦以下の結果になってしまった。

一橋には零敗、手も足も出なかった。一方、市大とは、一進一退の大熱戦。最終クォーターに2点加えて逆転した時は、勝利を確信したが、土壇場になって敵の大将、バックシュートを決める……。がっくり、コンバは毎度おなじみの狂乱狂宴。わが大学の一年生、他校を圧倒するも、昼の部のうさ晴らしとはならなかった。

さて、三商大戦より幹部交代。気分一新して次の目標、関西インカレ。全国国公立戦へ向けて強化練習が行われた。8月3日には、府立市岡高との合同記録会も行う。女子高生とデットヒートを繰り広げたあげくに負けて罵声を浴びた者もいた。

○「第52回関西学生選手権」 8月4日～6日 於大阪プール(50m)

——— 遠かった一部残留への道のり関西インカレ

・100m自由型

金 一 波	59-8	(8位)
田 中 俊 哉	1-02-5	
呉 竹 正 人	1-05-0	

・200m自由型

田 中 俊 哉	2-23-5
呉 竹 正 人	2-30-3
高 城 俊 介	2-31-8

・400m自由型

久保田 勝 己	4-43-2	5位
酒 井 康 司	5-20-5	
酒 井 潤	5-44-9	

・1500m自由型

久保田 勝 己	18-58-4	6位
酒 井 康 司	20-55-0	
酒 井 潤	22-36-9	

・100m平泳

長 崎 真 人	1-17-6
山 野 和 則	1-21-6
長谷川 泰 造	1-25-0

・200m平泳

長 崎 真 人	2-46-8
山 野 和 則	2-58-3
山 本 徹	3-03-0

・100mバタフライ

谷 水 利 行	1-18-4
野 村 俊 彰	1-28-8

・200mバタフライ

吉 岡 宏 之	2-47-8
谷 水 利 行	3-11-6

・100m背泳

太 田 雅 彦	1-15-9
野 村 俊 彰	1-24-7

・200m背泳

太 田 雅 彦	2-45-6
---------	--------

・200m個人メドレー

富 岡 洋 三	2-41-3
吉 岡 宏 之	2-41-6
白 子 靖 則	3-03-7

- 400m個人メドレー  
富岡 洋三 5-55-8  
田伏 正佳 6-46-9
- 400mメドレーリレー  
太田・長崎・吉岡・金 4-40-8
- 400mリレー  
金・久保田・吉岡・田中 4-06-6
- 800mリレー  
田中・金・上田・久保田 9-19-1

— 總 合 —		
1位	同志社大学	124点
2位	天理大学	74点
3位	関西大学	71点
4位	近畿大学	26点
5位	大阪体育大学	22点
6位	大阪府立大学	14点
7位	京都大学	3点
8位	大阪商業大学	3点
9位	神戸大学	3点

o「第14回関西女子学生選手権」

- 100m自由型  
小井戸 路代 1-19-1
- 200m自由型  
小井戸 路代 2-56-1
- 100m平泳  
国本 温代 1-40-0  
森田 恵 1-43-1
- 200m平泳  
国本 温代 3-35-5  
森田 恵 3-35-5
- 100mバタフライ  
辻 陽子 1-38-7
- 200m個人メドレー  
辻 陽子 3-23-8

- 400mメドレーリレー  
石本・国本・辻・小井戸 6-03-2 5位
- 200mリレー  
小井戸・森田・国本・辻 2-31-9
- 400mリレー  
小井戸・石本・辻・森田 5-25-8 6位

— 總 合 —		
1位	天理大学	159点
2位	大阪体育大学	75点
3位	武庫川女子大学	41点
4位	京都教育大学	18点
5位	近畿大学	14点
6位	大阪教育大学	6点
8位	神戸大学	2点

今年から関西インカレの制度が一部変わり、一部から二部への転落組は二校のみとなった。そしてわが大学も金・久保田という得点可能な選手を擁し、一部残留もいけるのではないかという期待をもっていたのである。事実、金は着外だったものの、久保田は5位、6位と入賞し、この時点では、最下位を争う京大、大商大より上に立っていたのである。これはいける、一部残留も夢ではない。試合が終れば、ピアガーデンで……とそこまで考えが進んでいたのだが、その後両校とも加点し800mリレーを前にして、3校は一線に並び、このリレー結果がそのまま順位となり、残留をかけるレースとなったが、さすがに総合力で勝る京大が同じ国公立である府大とともに一部残留し、我校は最下位に甘んじ、大商大とともに二部転落と相成ったのである。

ただこの試合で一つ強調しておきたいことは、久保田の1500m自由型における5位入賞である。実際、冗長なレースになりがちで、1500mにおいてこれほど、興奮したことはなく、終盤に敵をぶっちぎって、そのままゴールインしたときは、わが神大サイドはまさに興奮のつぼと化したのである。個人的な感慨になるが、私が今こうしてその時を思い出すだけでも、思わず武者ぶるいをするのである。又100m自由型の金も健闘したのだが、今一步及ばなかった。

女子の方も、上位は、天理、大体、武庫川が独占し、我が女子チームは軽うじて2つのリレーで得点できたのである。

○「第27回全国国公立戦」 8月13日・14日

於 名古屋瑞穂プール(50m)

————— 寂しや、個人参加の全国国公立

〔男子〕

・100m自由型

金 一 波 59-8

・400m自由型

久保田 勝 己 4-45-8 5位

上 田 剛 弘 5-09-3

・1500m自由型

久保田 勝 己 19-21-3 4位

上 田 剛 弘 21-27-6

・800mリレー

田中・上田・金・久保田 9-28-3 (8位)

— 総 合 —

1位	筑波大学	137点
2位	大阪府立大学	41点
3位	京都大学	23点
4位	名古屋大学	22点
5位	山口大学	15点
6位	愛知教育大学	14点

〔女子〕

・100m背泳

石本日和子 1-30-3

・200m背泳

石本日和子 3-19-0

・200m個人メドレー

辻陽子 3-19-1

・400m個人メドレー

辻陽子 7-05-5 (8位)

小井戸路代 7-22-3

・400mメドレーリレー

石本・国本・辻・小井戸 6-07-3

— 総 合 —

1位	筑波大学	103点
2位	東京学芸大学	45点
3位	名古屋大学	38点
4位	京都教育大学	33点
5位	広島大学	10点
6位	静岡大学	9点

関西国公立で団体三位を果たせなかった我々は、標準記録突破者と個人三位入賞者の選抜メンバーのみで名古屋へ遠征した。今年度の全国国公立はかなり大がかりで行われ、当番校名大諸氏の苦勞がうかがわれた。又試合前日にはレセプションも行われ、ここで参加した富岡・酒井(潤)強引にも、これに出席されていた、古橋広之進氏のサインを求め、富岡に至りては握手まで求め、いずれも成功したのである。(尚、この色紙は額に入れて部室に飾っております)さて肝心の競泳なのであるが、久保田の4、5位入賞以外はリレーが決勝に残ったのみで、全国国公立に関しては、昨年度の筑波での試合に続く惨敗であった。

一方、女子も今年は個人参加。辻が予選で7分0秒という好記録をマークしたが、決勝では、8位に沈んでしまった。この時の6位の記録が7分3秒ただけに惜まれる。

それにしても、ここ2、3年のレベル上昇には、おそれいる。いずれも筑波大のセミプロ選手が、その原動力であるが、男子の場合だと、関西インカレの一部を上回るレベルの種目がいくつあるほどだ。例えば100m自由型の決勝などは、見ても壮観で57.0秒から58.1秒まで6名がひしめきあうレースであり、結果も、ゴールセンサーを通してやっとわかるほどである。しかしその中で、関西国公立の長距離陣は上位を占めているのは誇るべしである。また平泳の赤沢(大府大)個人メドレーの良知(神商大)の優勝も同じ関西勢としてうれしかった。こうして全国の趨勢を見てくると、我々もこのまま手をこまねいているわけにはいなくなる。我々の進歩以上に全国のレベルは上がっており、このままではとり残されてしまう。そのためには優秀な選手の補強はむろんだが、それと同時に現役部員もより厳しいトレーニングと向上心が、これま

で以上に必要となる。そのためには、部員の練習に対するひたむきな態度と心がまえ、それに科学的トレーニングの導入が絶対不可欠である。各部員の水泳部に対する接し方には、個人差があろうが、それとは別の次元で、情勢はいよいよ厳しくなっていることを全員が認識しなければならない。ここではこれ以上言及することは避けておく。

○「第18回 近畿地区国立大学大会」

8月25・26日 京都大学プール(50m)

————— 収獲も失格も多かった近国体

〔男子〕

・100m自由型

金 一 波	1-00-5	2位
田 中 俊 哉	1-02-8	
呉 竹 正 人	1-05-1	

・200m自由型

金 一 波	2-20-1	(4位)
田 中 俊 哉	2-23-0	(7位)
高 城 俊 介	2-34-9	

・400m自由型

久保田 勝 己	4-42-0	1位(大会新)
酒 井 康 司	5-29-6	
酒 井 潤	5-41-1	

・800m自由型

久保田 勝 己	10-15-3	1位
酒 井 康 司	11-00-9	6位
酒 井 潤	11-51-3	

・100m平泳

長 崎 真 人	1-16-4	3位
山 野 和 則	1-17-4	4位
山 本 徹	1-26-2	

・200m平泳

長 崎 真 人	2-45-3	1位(大会新)
山 野 和 則	3-08-8	(失格)
杉 野 誓	3-13-0	(失格)

・100mバタフライ

吉 岡 宏 之	1-06-8	2位
谷 水 利 行	1-15-9	
白 子 靖 則	1-29-0	

・200mバタフライ

吉 岡 宏 之	2-46-7	6位
谷 水 利 行	3-01-9	
鈴 木 利 一	3-45-3	

・100m背泳

太 田 雅 彦	1-15-1	5位
野 村 俊 彰	1-24-6	
鈴 木 利 一	1-40-8	

・200m背泳

太 田 雅 彦	2-42-0	3位
野 村 俊 彰	3-09-2	

• 200m個人メドレー

富岡洋三 2-46-4 (失格)  
田伏正佳 3-08-0

• 400m個人メドレー

富岡洋三 5-45-2 3位  
白子靖則 6-44-5  
田伏正佳 6-50-8

• 200mリレー

田中・富岡・久保田・金 1-50-9 2位

• 400mメドレーリレー

太田・長崎・吉岡・金 4-37-2 2位

• 800mリレー

酒井(康)・金・田中・久保田 9-32-0 2位

総合

1位	京都大学	124点
2位	神戸大学	68点
3位	大阪大学	34点
4位	滋賀大学	29点
5位	和歌山大学	17点
6位	大阪教育大学	14点

〔女子〕

• 100m自由型

小井戸路代 1-20-2 6位

• 100m平泳

国本温代 1-38-0 3位

• 200m平泳

国本温代 3-31-3 3位  
森本恵 3-43-1 (失格)

• 50m背泳

石本日和子 39-1 1位

• 100m背泳

石本日和子 1-27-9 2位

• 100mバタフライ

辻陽子 1-38-2 6位

• 200m個人メドレー

小井戸路代 3-21-1  
辻陽子 3-23-1

• 200mメドレーリレー

石本・国本・辻・小井戸 2-44-9 3位

• 200mリレー

小井戸・辻・森田・石本 2-24-4 5位

• 400mリレー

石本・森田・辻・小井戸 5-27-0 5位

総合

1位	京都教育大学	71点
2位	奈良教育大学	62点
3位	大阪教育大学	43点
4位	神戸大学	28点
5位	京都大学	26点
6位	大阪大学	15点

毎年最後の試合となるこの近国体は、通常4年生の過半数は出場せず、また1年生が、この時期になって自己記録を伸ばすケースが多いことより、次年度の戦力を占うという点で、意外に重要な試合である。したがって我々の主たる関心はチームの成績はもちろんのことだが、一年生の記録向上にあった。結果は表のとおりだが、ここで述べておきたいのは、審査員の不手際である、学生である我々が、審判の方々に対し文句をいうのは許されないかもしれぬが、筆者自信が冷静に見ても、たとえば着順判定を明らかに誤っていたのがいくつかあった。(我校の場合、いずれもそれで救われたのだが)それはともかくとして内容はなかなか充実したもので、ベスト記録が続出した。久保田・長崎の大会新並びに神大新、吉岡の二位入賞と一年生の期待以上の活躍により、試合も大いに盛り上がった。ただ京大にダブルスコアで敗れたのは、実力差が歴然としていたという他はない。京大の一年生の層の厚なには、目を見張るばかりで、我校の一年生もこれに張り合うまでに練習を積み重ねなければならない。

女子の方は、結局、層の薄さが、最後迄たまった。個人の上位入賞は石本のみで、リレーもメドレーが、3位入賞するにとどまった。ただ国本の200m平泳のベスト記録はみごとであると同時にさらに伸びる余地があると思われる。

### ○「関西学生水球リーグJr・戦」 9月7日 於大阪市立大学プール

——— 来年への明るい見通しを開くポロリーグJr戦

#### 対京都大戦

神戸大	Q	京都大
0	I	1
1	II	0
1	III	1
0	IV	1
2	計	3

- 1 長崎 真人
- 2 長谷川泰造
- 3 後藤 芳光
- 4 酒井 康司
- 5 富岡 洋三 ①
- 6 太田 雅彦 ①
- 7 白子 靖則

#### 対立命館戦

神戸大	Q	立命館
2	I	0
2	II	0
1	III	3
0	IV	1
5	計	4

- 1 長崎 真人
- 2 長谷川泰造
- 3 後藤 芳光
- 4 酒井 康司
- 5 太田 雅彦 ①
- 6 富岡 洋三 ②
- 7 白子 靖則 ②
- 8 高城 俊介
- 9 吉岡 宏之

新チームによる初の試合である。この試合では、名キーパー 亀井氏の後を継いだ長崎の健闘が光った。特に決勝戦では、次々に打たれた23本のシュートを3点に抑えるというものであった。これに対し、フォワード陣は、幾分軽量級すぎるようだ。富岡・白子・太田では技術、泳力はともかくとして、迫力に欠ける。これが来年の課題である。

## ～ 戦いすんで

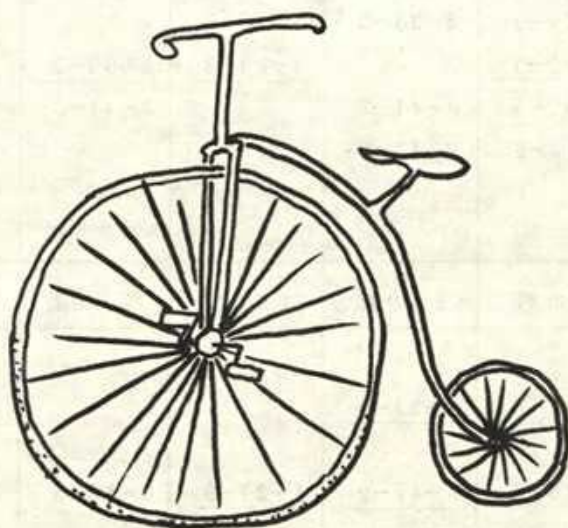
シーズンが終わると、来年へ向けての闘志もわくが、何はともあれ、ほっとする。9月2日には、阪大プールで京阪神 Jr. 戦が行なわれ、ここでもレースは行なわれるが、我々としては、とにかくほっとした気分になるのである。3大学の交流を深めるためにも、これは必要な催おしだろう。数年前の日本の外交方針は「等距離外交」と云われ、さんざん悪口をたたかれたが、我々こそは、「等距離外交」が必要であり、交流の据野を広げていくべきである。

9月15日は月見の宴。主務の白子君、本当に御苦労様でした。彼はよく働いてくれました。何しろ昨年度の「凌泳」編集のために、その期の単位をほとんど犠牲にしてしまったぐらいですから。

## 若干の回顧と展望

現在、六甲台プールには六甲おろしが吹きつけ、まわりには人影もない。ここで、にぎやかに練習が、試合が、コンパが行なわれたことなど夢のようである。1980年度が我々にとって満足すべき年だったとは思わないが、次年度へ向けての期待を多く残しているという点では実りある年であった。問題点、目標を部員全員が把握し、一丸となってそれに突進していこうではないか。

(富 岡)



1980年9月現在

・は10傑にはいる記録

—は長水路記録

泳	蝶 泳		背 泳		個 々	
200m	100m	200m	100m	200m	200m	400m
2-51-9・ 3-13-5	1-10-5・ <u>1-25-5</u> 1-11-1・ 1-15-9	3-03-0	1-18-4  <u>1-18-5</u>		2-38-4・  3-01-9  2-46-5 <u>2-49-0</u>	<u>5-45-2・</u>  6-44-5
2-57-5 3-10-2 <u>3-03-0</u> 3-15-4	1-26-9	2-50-8	<u>1-12-3・</u>  <u>1-37-9</u>	<u>2-41-5・</u>  3-37-8	3-03-2 3-11-9	<u>6-46-9</u>
2-57-6	<u>1-09-3・</u> <u>1-06-8・</u>	2-35-6・ 2-42-1・	<u>1-24-9</u> 1-40-8 <u>1-24-2</u>		2-38-6・	5-38-4・ 5-44-8・
2-45-3・ 2-54-5・	1-29-9 <u>1-27-5</u> <u>1-37-5</u> 1-13-8	3-33-2 3-41-2 2-47-0・		<u>3-09-2</u> 3-41-2		
200平	100蝶	200蝶	100背	200背	200個々	400個々
3-34-8 3-33-9 3-31-3	1-32-8 1-26-6	<u>3-32-4</u> <u>3-45-9</u>	<u>1-27-9</u>	3-10-6	3-12-7 <u>3-18-4</u> 3-07-5 3-20-3	<u>7-00-9</u> <u>6-52-5</u> <u>7-14-0</u>

## 現役部員自己最高記録一覽

(男子)		自由型				平
		100m	200m	400m	800m	100m
富岡洋三	4	1-03-8	2-27-8			1-17-4・
後藤芳光	4					1-24-4
白子靖則	4	1-08-5	2-35-9	5-52-7		1-31-4
金一波	3	58-6・	2-16-5・	<u>5-16-6</u>		
田中俊哉	3	1-02-0・	<u>2-20-2・</u>	<u>5-31-8</u>		
酒井康司	3	1-03-3	2-22-6	<u>5-09-6</u>	10-40-5	<u>1-23-9</u>
高城俊介	3	1-05-6	<u>2-31-7</u>	5-33-6		
太田雅彦	3	1-06-9	2-23-7	<u>5-30-7</u>		
酒井潤	3	1-08-6		5-34-6	11-32-0	
田伏正佳	3					1-22-2
長谷川泰造	3					1-20-5
山本徹	3					1-24-2
杉野誓	3					1-24-5
久保田勝己	2	1-00-2・	2-10-9・	4-38-0・	9-56-6・	
吉岡宏之	2	1-03-6	2-25-7			1-20-3
呉竹正人	2	1-03-9	2-27-1	5-23-0	11-16-1	
鈴木利一	2	1-09-5		<u>6-09-9</u>	<u>12-58-2</u>	1-30-2
野村俊影	2	1-11-0				
池田裕二	2	<u>1-12-6</u>				
谷水利行	2			5-35-4		
長崎真人	2					1-16-1・
山野和則	2					1-17-1・
(女子)		50自	100自	200自	400自	100平
寺尾紀子	4	<u>32-5</u>	<u>1-13-8</u>	2-41-5	5-45-0	
辻陽子	4					1-37-3
森田恵	4		1-32-7			<u>1-38-9</u>
石本日和子	3	33-1	1-15-1			
小井戸路代	3	35-1	1-17-1	<u>2-56-1</u>	<u>6-19-0</u>	
国本温代	3					<u>1-33-9</u>

## 歴代 10 傑表 ( 男子 )

(L)は長水路、(S)は短水路の記録を示す。

無記入は、データ不明

百米自由型

1	金 一 波	EII31	58-6 (S)	S.55	旧三商大 (六甲台)
2	浜 川 広 海	学22	58-8	S.26	
2	杉 山 和 弘	A28	58-8 (S)	S.53	兵庫インカレ(商船大)
4	久保田勝己	E32	1-00-6 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
5	村 田 邦 夫	J26	1-00-7 (S)	S.51	近国体 (大教大)
			1-01-9 (L)	S.51	関西インカレ(大府大)
6	山 本 隆	EII29	1-01-7 (L)	S.54	関西インカレ(皇子山P)
7	田 中 俊 哉	T31	1-02-0 (S)	S.55	旧三商大 (六甲台)
			1-02-5 (L)	S.55	関西インカレ(大阪P)
8	丸 末 一 之	E25	1-02-8	S.51	
9	上 田 剛 弘	B29	1-03-0 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
10	佐 敷 定 雄	A22	1-03-1	S.47	
	☆ 長水最高記録				
	金 一 波		59-1	S.55	関西インカレ(大阪P)

二百米自由型

1	浜 川 広 海	学22	2-09-0	S.26	
2	久保田勝己	E32	2-10-9 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
3	杉 山 和 弘	A28	2-14-0 (S)	S.52	近国体 (六甲台)
4	金 一 波	EII31	2-16-5 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
			2-20-1 (L)	S.55	近国体 (京大)
5	山 本 隆	EII29	2-17-0 (S)	S.52	記録会 (六甲台)
6	上 田 剛 弘	B29	2-17-1 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
			2-21-2 (L)	S.55	兵庫インカレ(西代市民P)
7	村 田 邦 夫	J26	2-17-5 (S)	S.51	近国体 (大教大)
8	丸 末 一 之	E25	2-19-9	S.51	
9	酒 井 康 司	T31	2-22-6 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
			2-23-4 (L)	S.55	関西国公立 (京大)
10	佐 敷 定 雄	A22	2-23-0	S.48	

## 四百米自由型

1	久保田 勝 己	E 3 2	4-38-0 (S)	S. 55	記録会	(六甲台)
2	上 田 剛 弘	B 2 9	4-54-3 (S)	S. 55	旧三商大	(六甲台)
			5-02-8 (L)	S. 55	関西国公立	(京 大)
3	山 本 隆	EII29	4-55-1 (L)	S. 53	記録会	(大市大)
4	杉 山 和 弘	A 2 8	4-55-2 (S)	S. 52	記録会	(六甲台)
5	丸 末 一 之	E 2 5	5-01-5 (S)	S. 51	近国体	(大教大)
6	慈 幸 弘 樹	P 2 8	5-07-8 (S)	S. 53	記録会	(六甲台)
7	大 林 良 和	M 1 3	5-08-9 (S)	S. 49	市大戦	(六甲台)
8	酒 井 康 司	T 3 1	5-09-6 (L)	S. 55	関西国公立	(京 大)
9	村 田 邦 夫	J 2 6	5-12-2	S. 51		
10	玉 置 明	E 1 8	5-14-7	S. 43		
☆	長水最高記録					
	久保田 勝 己		4-42-0	S. 55	近国体	(京 大)

## 八百米自由型

1	久保田 勝 己	E 3 2	9-56-2 (S)	S. 55	旧三商大	(六甲台)
2	山 本 隆	EII29	10-22-1 (S)	S. 53	記録会	(六甲台)
3	丸 末 一 之	E 2 5	10-36-3	S. 51		
4	酒 井 康 司	T 3 1	10-40-5 (S)	S. 55	記録会	(六甲台)
			11-00-7 (L)	S. 55	近国体	(京 大)
5	杉 山 和 弘	A 2 8	10-46-1 (S)	S. 52	旧三商大	(六甲台)
6	大 林 良 和	M 1 3	10-48-4 (S)	S. 49	記録会	(六甲台)
7	慈 幸 弘 樹	P 2 8	10-52-6 (S)	S. 53	記録会	(六甲台)
8	上 田 剛 弘	B 2 9	10-58-1 (L)	S. 54	全国国公立	(筑波大)
9	玉 置 明	E 1 8	11-00-4 (S)	S. 43	近国体	(京教大)
10	木 村 多加緒	J 1 8	11-04-1	S. 42		
☆	長水路最高記録					
	久保田 勝 己		10-00-8	S. 55	兵庫インカレ	(西代市民P)

## 千五百米自由型

1	久保田 勝 己	E 3 2	18-58-4 (L)	S. 55	関西インカレ	(大阪P)
2	上 田 剛 弘	B 2 9	20-40-0 (L)	S. 55	関西国公立	(京 大)
3	酒 井 康 司	T 3 1	20-55-0 (L)	S. 55	関西インカレ	(大阪P)
4	玉 置 明	E 1 8	22-04-0 (L)	S. 43	全国国公立	(大府大)
5	酒 井 潤	E 3 1	22-36-9 (L)	S. 55	関西インカレ	(大阪P)

百  
米  
平  
泳

1	鈴木俊彦	M17	1-14-3	S.42	
2	慈幸弘樹	P28	1-15-3 (S)	S.53	兵庫インカレ(商船大)
			1-16-8 (L)	S.53	近国体(和歌山大新P)
3	長崎真人	B32	1-16-1 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
			1-16-4 (L)	S.55	近国体 (京大)
4	山野和則	A32	1-17-1 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
			1-17-4 (L)	S.55	近国体 (京大)
5	富岡洋三	B30	1-17-4 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
			1-18-5 (L)	S.53	近国体(和歌山大新P)
6	平石康	P26	1-17-5 (S)	S.51	近国体 (大教大)
			1-19-1 (L)	S.52	関西国公立 (大府大)
7	菊田修三	T18	1-19-0	S.44	
8	後藤信人	B26	1-19-7 (S)	S.52	兵庫インカレ(甲南高)
9	吉岡宏之	J32	1-20-3 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
10	長谷川泰造	T31	1-20-5 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
☆	長水路最高記録				
	鈴木俊彦		1-14-7	S.42	関西インカレ(大阪P)

二  
百  
米  
平  
泳

1	平石康	P26	2-45-1 (S)	S.52	兵庫インカレ(甲南高)
2	長崎真人	B32	2-45-3 (L)	S.55	近国体 (京大)
	(長水路最高記録)				
3	鈴木俊彦	M13	2-45-5	S.43	
4	慈幸弘樹	P28	2-49-2 (S)	S.53	兵庫インカレ(商船大)
			2-52-5 (L)	S.53	近国体(和歌山大新P)
5	富岡洋三	B30	2-51-9 (L)	S.53	近国体(和歌山大新P)
6	山野和則	A32	2-54-3 (L)	S.55	記録会 (京大)
7	後藤信人	B26	2-55-0 (S)	S.52	兵庫インカレ(甲南高)
8	阿部洋三	T15	2-55-5	S.39	
9	菊田修三	T18	2-55-6 (S)	S.43	旧三商大 (六甲台)
10	萩原武	T10	2-57-0 (S)	S.36	旧三商大 (大阪P)

百  
米  
蝶  
泳

1	佐敷定雄	A22	1-05-2 (S)	S.46	近国体	(商船大)
2	吉岡宏之	J32	1-06-8 (L)	S.55	近国体	(京大)
3	山本隆	EII29	1-07-4 (S)	S.54	兵庫インカレ	(商船大)
			1-08-4 (L)	S.53	関西国公立	(京大)
4	大橋進	P19	1-09-1 (S)	S.44	近国体	(大教大)
5	久保田勝己	E32	1-09-3 (L)	S.55	記録会	(京大)
6	杉山和弘	A28	1-09-6 (S)	S.52	記録会	(六甲台)
7	阿部洋三	P15	1-10-0	S.41		
8	冨岡洋三	B30	1-10-5 (S)	S.55	記録会	(六甲台)
9	由佐禎男	T15	1-11-0	S.41		
10	慈幸弘樹	P28	1-11-1	S.51		
10	金一波	EII31	1-11-1 (S)	S.55	記録会	(六甲台)
☆	長水路最高記録					
	佐敷定雄		1-06-2	S.46	関西国公立	(大府大)

二  
百  
米  
蝶  
泳

1	佐敷定雄	A22	2-29-6	S.48		
2	山本隆	EII29	2-35-2 (S)	S.53	兵庫インカレ	(商船大)
			2-36-9 (L)	S.53	全国国公立	(広島大)
3	久保田勝己	E32	2-35-6 (S)	S.55	記録会	(六甲台)
4	阿部洋三	T15	2-40-1 (L)	S.41	関西国公立	(大府大)
5	吉岡宏之	J32	2-42-1 (S)	S.55	記録会	(六甲台)
6	谷水利之	J32	2-47-0 (S)	S.55	記録会	(六甲台)
7	大橋進	P19	2-48-1 (S)	S.43	近国体	(京教大)
8	太田雅彦	A31	2-50-8 (S)	S.55	記録会	(六甲台)
9	村田邦夫	J26	2-52-5	S.51		
10	藤森一男	T23	2-53-1	S.49		

百  
米  
背  
泳

1	杉山和弘	A28	1-07-7 (S)	S.53	兵庫インカレ(商船大)
2	田淵五郎	B3	1-11-8 (S)	S.27	兵庫インカレ(灘高)
3	太田雅彦	A31	1-12-5 (I)	S.55	関西国公立(京大)
4	酒井正人	A26	1-12-5 (S)	S.51	
5	木村多加緒	J18	1-13-6 (I)	S.52	全国国公立(京大)
			1-12-7 (S)	S.43	近国体(京教大)
			1-13-9 (I)	S.43	全国国公立(京大)
6	井上隆史	B10	1-14-0 ( )	S.36	
7	玉木喜代明	19	1-14-6 (S)	S.44	近国体(大教大)
8	岡村司	J7	1-16-0 (S)	S.33	市大戦(六甲台)
9	印南修三	A22	1-16-7 (S)	S.46	近国体(商船大)
10	岡見晴児	J6	1-17-0	S.31	
☆	長水路最高記録				
	杉山和弘		1-08-4	S.53	全国国公立(広島大)

二  
百  
米  
背  
泳

1	杉山和弘	A28	2-34-1 (S)	S.54	兵庫インカレ(商船大)
2	木村多加緒	J18	2-34-8 (S)	S.43	近国体(京教大)
			2-37-0 (I)	S.43	関西インカレ(大阪P)
3	酒井正人	A26	2-35-2 (S)	S.52	
4	太田雅彦	A32	2-41-5 (I)	S.55	関西国公立(京大)
5	玉木喜代明	19	2-43-6 (S)	S.43	近国体(京教大)
6	慈幸弘樹	P28	2-46-5 (I)	S.53	旧三商大(大市大)
7	印南修三	A22	2-47-7 (S)	S.46	近国体(商船大)
8	酒井康司	T31	2-48-1 (I)	S.55	兵庫インカレ(西代市民P)
9	山本隆	E129	2-49-0 (S)	S.54	記録会(六甲台)
10	瓜生誠二郎	E23	2-49-4	S.47	
☆	長水路最高記録				
	杉山和弘		1-34-2	S.53	全国国公立(広島大)

## 二百米個メ

1	慈幸弘樹	P28	2-33-0 (S)	S.52	近国体 (六甲台)
2	富岡洋三	B30	2-38-4 (S)	S.55	旧三商大 (六甲台)
			2-39-7 (I)	S.55	関西国公立 (京大)
3	吉岡宏之	J32	2-38-6 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
			2-41-6 (I)	S.55	関西インカレ (大阪P)
4	平石康	P26	2-39-0 (S)	S.52	兵庫インカレ (甲南高)
5	山本隆	EII29	2-39-1 (I)	S.54	関西インカレ (皇子山P)
6	鈴木俊彦	M17	2-40-5 (I)	S.42	旧三商大 (一橋大)
7	芝暢彦	E29	2-40-8 (I)	S.54	関西国公立 (大府大)
8	酒井正人	A26	2-41-9 (S)	S.52	旧三商大 (六甲台)
9	小越信昭	T14	2-44-5	S.38	
10	佐敷定雄	S48	2-45-6	S.48	
	☆ 長水路最高記録				
	慈幸弘樹		2-35-6	S.53	全国国公立 (広島大)

## 四百米個メ

1	山本隆	EII29	5-25-9 (S)	S.53	記録会 (六甲台)
2	久保田勝己	E32	5-38-4 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
3	慈幸弘樹	P28	5-44-2 (S)	S.51	
4	吉岡宏之	J32	5-44-8 (S)	S.55	記録会 (六甲台)
5	富岡洋三	B30	5-45-2 (I)	S.55	近国体 (京大)
6	芝暢彦	E29	5-52-8 (I)	S.54	関西インカレ (皇子山P)
7	平石康	P26	5-56-2	S.51	
8	木村多加緒	J18	5-58-2	S.43	
9	鈴木俊彦	M17	5-58-5 (I)	S.42	近国体 (和歌山県営P)
10	酒井正人	A26	6-06-0	S.52	
	☆ 長水路最高記録				
	山本隆		5-43-6	S.53	全国国公立 (広島大)

二  
百  
米  
継  
泳

1	中尾・慈幸・山本・杉山	1-50-1 (L)	S.53 近国体(和歌山大新P)
2	田中・冨岡・久保田・金	1-50-9 (L)	S.55 近国体 (京大)
3	田中・冨岡・呉竹・金	1-52-1 (L)	S.55 近国体 (京大)
4	中尾・山本・酒井・杉山	1-53-5 (S)	S.52 近国体 (大教大)
5	田中・上田・慈幸・金	1-54-4 (L)	S.54 近国体 (彦根SC)

四  
百  
米  
混  
継

1	杉山・冨岡・山本・金	4-35-2 (S)	S.54 兵庫インカレ(商船大)
		4-37-7 (L)	S.54 関西インカレ(皇子山P)
2	太田・長崎・吉岡・金 (長水路最高記録)	4-37-2 (L)	S.55 近国体 (京大)
3	杉山・慈幸・山本・中尾	4-37-2 (S)	S.53 兵庫インカレ(商船大)
		4-39-7 (L)	S.53 近国体(和歌山大新P)
4	酒井・慈幸・山本・杉山	4-37-6 (S)	S.52 近国体 (六甲台)
5	酒井・平石・慈幸・杉山	4-42-4 (S)	S.52 旧三商大 (六甲台)
6	酒井・平石・杉山・村田	4-43-9 (L)	S.52 関西国公立 (大府大)
7	酒井・後藤・村田・杉山	4-44-7 (S)	S.52 兵庫インカレ(甲南高)
8	杉山・冨岡・山本・中尾	4-45-2 (L)	S.53 全国国公立 (広島大)
9	酒井・平石・慈幸・村田	4-45-7 (S)	S.51 近国体 (大教大)
10	木村・鈴木・大橋・以西	4-48-5	S.43

四  
百  
米  
継  
泳

1	田中・金・杉山・山本	4-06-2 (L)	S.54 関西国公立 (大府大)
2	金・久保田・田中・吉岡	4-06-6 (L)	S.55 関西インカレ(大阪P)
3	田中・上田・久保田・金	4-10-1 (L)	S.55 関西国公立 (京大)
4	冨岡・久保田・田中・金	4-11-3 (L)	S.55 関西国公立 (京大)
5	中尾・慈幸・山本・杉山	4-13-0 (L)	S.53 全国国公立 (広島大)
6	村田・慈幸・平石・杉山	4-13-1 (L)	S.52 関西国公立 (大府大)
7	酒井・平石・慈幸・杉山	4-19-5 (L)	S.52 全国国公立 (京大)
8	丸末・慈幸・酒井・村田	4-19-9 (S)	S.51 兵庫国公立 (神商大)
9	上田・田中・酒井康・中尾	4-20-6 (L)	S.54 全国国公立 (筑波大)
10	慈幸・伊藤・村田・丸末	4-21-3 (L)	S.51 関西国公立 (京大)

## 八百米継泳

1	田中・金・上田・久保田	9-10-9 (S)	S.55 旧三商大 (六甲台)
2	中尾・慈幸・杉山・山本	9-11-9 (S)	S.53 兵庫インカレ(商船大)
3	金・上田・杉山・山本	9-33-0 (L)	S.53 関西国公立 (京大)
		9-17-2 (S)	S.54 兵庫インカレ(商船大)
4	杉山・平石・上田・山本	9-28-4 (L)	S.54 関西国公立 (大府大)
		9-25-8 (S)	S.52 近国体 (六甲台)
5	酒井(康)・金・田中・久保田	9-32-0 (L)	S.55 近国体 (京大)
6	丸末・伊藤・慈幸・村田	9-33-0 (S)	S.51 近国体 (大教大)
7	慈幸・酒井・村田・杉山	9-44-9 (S)	S.52 兵庫インカレ(甲南高)
8	上田・金・酒井(康)・田中	9-45-9 (L)	S.54 関西インカレ(皇子山P)
9	酒井(康)・呉竹・上田・久保田	9-46-0 (L)	S.55 関西国公立 (京大)
10	丸末・酒井・慈幸・村田	9-48-3 (S)	S.51 兵庫インカレ(商船大)
☆	長水路最高記録		
	田中・金・上田・久保田	9-19-1 (L)	S.55 関西インカレ(大阪P)

昨年度より10傑表のデータを詳細に記しておりますが、今年度はさらに長水と短水の記録の区別をより明確にしました。というのは、わが六甲台プールが短水路であるにもかかわらず、最近の試合は長水路のものがほとんど占め、55年度にしても短水路における記録は六甲台プールのものしかなく、長水と短水のハンディ(通常100mにつき2秒といわれる)を考慮する必要があると考えたからです。

たとえば100m自由型歴代1位の金君の場合、短水路における58-6よりは、あの絵舞台の大阪プールにおける59-1の方が価値ある記録だといえますし、自由型長距離における久保田君の記録も、事実上は長水路での記録の方がよいといえましょう。

したがって今年度より、同一種目同一個人の記録で短水路の記録の方がよくても、長水路の記録も捨てがたい場合はこれも記載しております。

お気づきの点があれば、お知らせ下さい。

尚、本年号より、千五百米自由型の記録をまず五傑の形で載せ始めました。

(富一岡)

## 歴代 5 傑 表 ( 女 子 )

百米自由型	1	寺尾紀子	P30	1-13-6 (L)	S.54 近国体	(彦根)
	2	石本日和子	P31	1-15-1 (S)	S.55 記録会	(六甲台)
	3	有本智恵	P27	1-15-3		
	4	浜西美智子	P25	1-15-9		
	5	清水万里	P28	1-16-2		

百米背泳	1	石本日和子	P31	1-25-5 (S)	S.55 記録会	(六甲台)
	2	竹島信子	A10	1-27-9		
	3	清水万里	P28	1-29-6		
	4	浜西美智子	P25	1-29-9		
	5	松本克江	P28	1-45-0 (S)	S.52 近国体	(六甲台)

百米平泳	1	山田玲子	P25	1-30-3		
	2	国本温代	P31	1-33-9		
	3	石本日和子	P31	1-35-8 (S)	S.55 記録会	(六甲台)
	4	辻陽子	P30	1-37-3 (S)	" "	
	5	清水万里	P28	1-38-0 (L)	S.52 関西インカレ(さつき公園)	

百米蝶泳	1	有本智恵	P27	1-25-6 (S)	S.52 近国体	(六甲台)
	2	石本日和子	P31	1-26-6 (S)	S.55 記録会	(六甲台)
	3	辻陽子	P30	1-32-8		
	4	小井戸路代	P31	1-37-7 (S)	S.55 記録会	(六甲台)
	5	清水万里	P28	1-42-3		

二百米個人	1	石本日和子	P31	3-07-5 (S)	S.55 記録会	(六甲台)
	2	清水万里	P28	3-09-7 (S)	S.52 近国体	(六甲台)
	3	寺尾紀子	P30	3-12-7 (S)	S.53 兵庫インカレ	(商船大)
	4	辻陽子	P30	3-18-4 (L)		
	5	高木史子	A9	3-18-7		

水泳部に初めて女子部員が入部してから10年余りがたちます。そこで今までの一つの区切りとして、又今後の女子部員の発展の刺激のもと、本年より女子五傑表を載せました。正確は期したつもりですが、不備の点も数あると思いますので、記載漏れ、その他お気付きの点がございましたら、お知らせ下さい。

## 昭和五十五年度凌泳会総会報告

昭27学 石井義章

五月十一日(日)午後一時より、小山会長をお迎えして、例年の通り、六甲台学舎教官食堂に於て開催した。社用で関西に滞在中の田淵OB(昭30)も同期の橋本OBを誘って久し振りに顔を見せてくれた。

小山会長はこの後十三日に水泳連盟の幹部と懇親ゴルフを楽しまれ、更に十四日には神戸凌霜午餐会に出席、桑川OB(昭10)の「最近の国際状況」と題する卓話をお聞きになり、昔の仲間と旧交を温められ、夕刻元気に帰京された。昨年の総会でお話しになった「若い頃に交友を広め、老後を楽しく」を自ら実践しておられる様子に感心した次第。

### 〔議事〕

#### 一、五十四年度会計報告

収入予算六十万に対し、これを上回る七十七万余の収入があった。殊に会費拠出者の割合が六七%と年々向上している事は、現役諸君の努力と、輝かしい戦績に依るものと喜ばしい限りである。

#### 二、五十五年度予算

本年は更に会費納入率を高め、七〇%の大台に乗せるべく一層の努力をする。

#### 三、役員改選

本部役員は従来通り全員再選

支部役員については左記の通り一部変動があった。これ以外は従来通り。

##### (関東支部)

支部長 山口宗樹(昭16)再・富岡道雄(昭31)新・

山田貴彦(昭37)再・樋口周平(昭41)・

丸末一之(昭52)新・

##### (中部支部)

浅間啓介(昭37)新

##### (関西支部)

大阪 玉置 明(昭45)再・井上与志男(昭47)

後藤信人(昭54)新

#### 四、その他

◎五十六年には神戸でポルトビアが開催されるが、これを機会に全国大会を企画しては如何。

##### ◎女子部員の競技会出場について

数年前から女子部員が在籍しているが、国公立戦その他男女別に種目が分れているものは問題ないが、三商大、或は市大戦等その区別のない物について、女子選出が男子に混って出場する事の可否につき論議があった。OBが口を出す筋の物でもないと思われるので、現役部員に於て将来を展望し、関係各校とよ

く協議する様要望

◎水泳部の歴史執筆について

「凌泳」第26号、第27号に小山会長が水泳部の歴史をお書き頂いたが、昭和八年、上筒井より六甲台へ学舎移転を以て終っている。この文章は「凌霜」誌にも「上筒井に於ける水泳部の歴史」として転載され、大変好評であった。ついては、これですべて済ませるのは惜しいので、誰かこの続きを書いて頂けぬものか。三・四年毎にリレー的にも書いて頂ければ有難いが……。

以上で議事終了、引続き懇親会に移り、OBの自己紹介、或は現役の戦績報告、新入部員の紹介等あり、夕刻四時頃終了した。

〔当日の出席者〕

小山会長 (昭7)  
中井三郎 (昭27)  
石井義章 (昭27)  
田淵五郎 (昭30)  
橋本力 (昭30)  
萩原武 (昭37)  
岡田重義 (昭37)  
平石康 (昭53)  
平野輝雄 (昭53)  
後藤信人 (昭54)  
慈幸弘樹 (昭55)

以上



## 昭和55年度決算報告

昨年度迄は、決算報告が、一昨年期、予算が昨年期のものを記載していましたが、本年度より、一年それぞれずらし、より見やすくしました。

そのため、54年度決算を省略しますが、あしからず、ご了承下さい。

### ( 凌 泳 会 )

収 入		支 出	
凌 泳 会 費	684,000	「凌泳」発行費	292,760
寄 付	198,000	交 通 費	46,960
	882,000	会 合 費	81,454
		通 信 費	122,270
		基 金 積 立	20,000
会費納入者 171名		水 泳 部 援 助	318,556
(可納者224名の76%)			882,000

### ( 全 国 凌 泳 会 基 金 )

収 入		支 出	
繰 越 金	130,000	交通費(全国大会準備)	2,290
55年度積立金	20,000	通信費( " )	86,670
寄付(中村市治氏より)	100,000	雑 費	1,300
雑収入(預金利息)	2,174	56年度繰越金	161,914
	252,174		252,174

### ( 水 泳 部 )

収 入		支 出	
繰 越 金	181,152	水 連 登 録 費	45,000
部 員 負 担	1,179,030	試 合 練 習 費	67,300
育 友 会 援 助	89,300	交 通 費	7,510
凌 泳 会 援 助	318,556	通 信 費	9,153
雑収入(預金利息)	1,971	燃 料 費	35,190
	1,770,009	設 備 消 耗 品 費	37,102
		会 合 費	334,286
		衛 生 費	3,285
		合 宿 費	853,385
		体 育 会 費	20,200
		ス ポ ー ツ 傷 害 保 険 費	23,200
		雑 費	7,251
		繰 越 金	327,147
			1,770,009

## 昭和56年度予算

### (凌泳会)

取 入		支 出	
凌泳会費	600,000	「凌泳」発行費	250,000
寄 付	100,000	会 合 費	60,000
	700,000	通 信 費	120,000
		交 通 費	40,000
		基 金 積 立	20,000
		水泳部援助	210,000
			700,000

(4000円×150名)

(150名は可納者224名の約67%)

### (全国凌泳会基金)

取 入		支 出	
繰越金	161,914	雑 費	10,000
56年度積立金	20,000	57年度繰越金	171,914
	181,914		181,914

### (水泳部)

取 入		支 出	
繰越金	308,147	水連登録費	45,000
部員負担	571,853	試合練習費	70,000
育友会援助	80,000	交通・通信費	15,000
凌泳会援助	210,000	燃 料 費	25,000
	1,170,000	設備消耗品費	90,000
		会 合 費	300,000
		合 宿 費	620,000
		雑 費	5,000
			1,170,000

昭和五十五年度凌泳会費寄付金醸出者御芳名 (三月二十五日現在)

(五十五年度会費は、四千元。それ以上の額については、残りを寄付金とさせて頂きました。)

御芳名	醸出額	御芳名	醸出額	御芳名	醸出額	御芳名	醸出額	御芳名	醸出額
三井 栄三郎	五千元	満野 公介	四千元	山崎 健吉	四千元	石井 義章	一万元	前田 弘義	五千元
木村 芳雄	一万元	中村 市治	一万元	三宅 林	五千元	中井 三郎	四千元	前田 宗雄	五千元
白井 儀三	五千元	大西 真博	四千元	石井 喬	四千元	浜川 広海	四千元	石本 茂樹	四千元
小山 賢之助	一万元	吉野 栄	四千元	斉藤 嘉一郎	四千元	今井 政一	四千元	細田 忠雄	四千元
草野 嘉一	二千元	森 芳夫	四千元	吉村 武徳	四千元	関山 道雄	四千元	岡見 晴児	四千元
山田 常雄	一万元	山口 宗樹	八千元	武内 信一郎	四千元	煎塚 昌宏	四千元	阿部 雅	四千元
熊野 利夫	五千元	前田 寿	五千元	山越 重義	四千元	小原 祥男	五千元	岡村 司	五千元
本間 孝之助	五千元	平井 洋	一万元	岡 庄一郎	五千元	岡沢 幹夫	五千元	柴川 泰介	四千元
桑川 義男	四千元	尾上 信三	四千元	小西 信次	五千元	田 湖五郎	四千元	河村 雅彦	六千元
古賀 克己	四千元	岡本 忠男	四千元	牛島 修	四千元	柳原 修造	五千元	山本 哲弘	一万元
小池 三郎	四千元	熊野 泰己	四千元	徳岡 登	四千元	溝口 汪	四千元	前田 修	四千元
以上会費免除者につき き金額寄付金扱い。		荻野 茂希	四千元	中崎 日出男	四千元	村田 邦夫	四千元	村岡 英樹	四千元
		富中 暁	四千元	大西 繁	一万元	堂本 直正	四千元	小郷 譲	一万元
山村 宮男	四千元	石川 七郎	四千元	佐脇 鷹平	四千元	増井 幸藏	四千元	黒田 英雄	四千元
伊藤 英二	四千元	神原 正	四千元	鈴木 富夫	四千元	友繁 忠男	四千元	奥野 吉矩	四千元
太田 正元	四千元	君塚 英男	四千元	北野 誠良	四千元	橋本 力	四千元	原 謙三	四千元
福永 拓造	四千元	稲垣 信夫	四千元	中川 正敏	四千元	富岡 道雄	一万元	宇賀 史郎	五千元
大内 義仁	四千元	山内 利男	四千元	西岡 良宏	四千元	松田 司朗	四千元	上村 久治	四千元

御芳名	醸出額
酒井孝榮	五千元
野田浩志	四千元
柳本正雄	四千元
井上隆史	四千元
萩原武	四千元
竹元忠彬	四千元
岡田重義	五千元
高岡保宏	四千元
山田貴彦	四千元
米田啓祐	四千元
浅間啓介	四千元
丸山卓也	一万元
荒井康之	四千元
鈴木剛弘	四千元
平岡昭朗	四千元
窪田信雄	四千元
藤岡治男	四千元
林 莊八郎	四千元
安茂弘	四千元
鈴木正弥	五千元
山本忠比古	四千元

御芳名	醸出額
堤 莊祐	四千元
滝沢章三	四千元
丸山昱也	五千元
前田和秀	五千元
横田興二	四千元
石原紘三	四千元
山口幸郎	四千元
手嶋忠之	四千元
樋口周平	四千元
木下雅浩	四千元
中畑勝明	四千元
宮本義勝	一万元
宮部高博	四千元
久保佑四郎	四千元
由佐禎男	四千元
阿部洋三	四千元
鈴木俊彦	四千元
熊岡禎二	四千元
木内資雄	四千元
玉置明	四千元
木村多加雄	四千元

御芳名	醸出額
菊田修三	四千元
井上与志男	四千元
井上史朗	四千元
以西吉一	四千元
得丸哲士	四千元
岩切博	四千元
大橋進	五千元
小林育夫	四千元
芳川雄二	四千元
米田章	四千元
藤井元洋	四千元
岡本優	四千元
佐敷定雄	四千元
長谷川健	五千元
印南修三	四千元
植西勝	一万元
家本博一	五千元
瓜生誠二郎	五千元
大曲芳郎	四千元
藤森一男	一万元
上田敏彦	四千元

御芳名	醸出額
天野孝司	四千元
細谷明夫	四千元
野田叔子	四千元
川本典子	四千元
丸末一之	四千元
佐藤弘之	四千元
中西康之	四千元
伊藤良一	五千元
浦本幸二	四千元
山田玲子	二万元
平石康	四千元
後藤信人	四千元
酒井正人	九千元
塩浜英二	四千元
阿部誠次	四千元
平野輝雄	四千元

御芳名	醸出額
木下修一	四千元
村田邦夫	五千元
大林良和	一万元
栗野正子	四千元
有本智恵	四千元
慈幸弘樹	四千元
中尾 稔	四千元
土井祐二	一万元
油谷隆司	四千元
清水万里	四千元
松本克江	四千元
館谷彰司	四千元
武政英幸	五千元
北村 敏	四千元
山口仁郎	一万元

(敬称略させて頂きました。)

以上合計 八八二、〇〇〇円(二八二名)

会費合計 六八四、〇〇〇円(二七二名)

寄付金合計 一九八、〇〇〇円

## 昭和55年度行事報告

### 昭和55年

- 3/28(金)~3/31(月) 春期練習(佃スイミングスクール)
- 4/ 2(水)~4/6(日) 春期合宿(鳥取浜村温泉)
- 5/11(日) 凌泳総会(六甲台教官食堂)
- 5/24(土) 新入生歓迎コンパ(三宮コトブキ)
- 6/15(日) 京阪神三大学戦(関西大)
- 6/16(日)~6/21(土) 強化練習
- 6/23(月)~6/28(土) 第一次合宿(六甲台)
- 6/29(日) 関西ボロリーグ戦(大阪市大)
- 7/ 6(日) 兵庫インカレ(西代プール)
- 7/12(土)・7/13(日) 関西国公立戦(京都大)
- 7/15(火)~7/18(金) 第二次合宿〔水球特訓〕(六甲台)
- 7/20(日) 市大戦(大阪市大)
- 7/26(土) 三商大戦(六甲台)
- 7/30(水) 水球練習試合 対京都大(六甲台)
- 8/ 4(月)~8/6(水) 関西インカレ(大阪プール)
- 8/13(水)・8/14(木) 全国国公立戦(名古屋瑞穂プール)
- 8/25(月)・8/26(火) 近国体(京都大)
- 9/ 3(水) 京阪神三大学Jr.戦(大阪大)
- 9/ 7(日) 関西ボロリーグJr.戦(大阪市大)
- 9/15(月) 月見の宴(六甲台)
- 10/13(月)~10/15(水) 東京地区OB回り
- 11/ 1(土)~11/3(日) 体育祭(ソフトボール準優勝)
- 11/ 7(金)~11/9(日) 六甲祭(焼き鳥屋出店)
- 12/13(土) 追出しコンパ(エクラン)

### 昭和56年

- 1/11(日) 初泳ぎ(かるもプール)
- 3/23(月)~4/4(土) 春季練習(六甲台、佃スイミングスクール)
- 4/ 5(日)~4/9(木) 春季合宿(鳥取浜村温泉)  
〔神商大と合同合宿〕

# 凌 泳 会 会 則

## 第一章 総 則

第一条(名 称)

本会は凌泳会と称する。

第二条(事務所)

本会は事務所を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第三条(目的)

本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第四条(事業)

本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会誌「凌泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例総会及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の爲の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第五条(会則の改廃)

本会則の制定及び変更は総会の決議によって行なう。

## 第二章 会 員

第六条(会 員)

本会の会員を分けて正会員、特別会員、及び在学会員とする。

第七条(正 会 員)

正会員とは、次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学

以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したもの。

第八条(特別会員)

特別会員とは次のものを云う。

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者。

二、その他、総会の決議によって推薦した者。

第九条(在学会員)

在学会員とは次のものを云う。

現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第十条(会 費)

正会員は会費として年額四、〇〇〇円を当会へ納入する。但し卒業後四十四年を経過した者は会費を免除する。

## 第三章 役 員

第十一条(役 員)

本会には左記の役員を置く。

会 長	一 名
副 会 長	二 名
監 事	若 干 名
幹 事 長	一 名
本 部 幹 事	若 干 名
支 部 幹 事	若 干 名

第十二条 (改 選)

役員の改選は總會の決議によつて行なう。

第十三条 (任 期)

役員任期は一年とし再選を妨げない。

第十四条 (会 長)

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五条 (副 会 長)

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六条 (監 事)

監事は本会の会務及び会計を監査する。

第十七条 (幹事長及び本部幹事)

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し總括的会務の執行に当る。

第十八条 (支部幹事)

支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

#### 第四章 総 会

第十九条 (招 集)

總會は少くとも二週間以前に會議の目的を明らかにした通知を以つて会長がこれを招集する。

第二十条 (時 期)

總會は毎年五月に開催するものとし、臨時總會は必要に応じて招集する。

第二十一条 (議 決)

總會の決議は出席正会員の過半数をもって決する。

但し、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

#### 第五章 会 計

第二十二条 (經 理)

本会の經理は、会費・寄付金及びその他の収入によつて賄う。

第二十三条 (決 算)

本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季總會に於て報告しその承認を受ける。

第二十四条 (期 間)

本会の会計年度は、毎年四月一日より翌三月三十一日までとする。

#### 第六章 雜 則

第二十五条

本会則は、昭和五十三年五月十三日より発効する。

# 凌 泳 会 役 員 名 簿

	会 長	小山賢之助(学1)			
	副 会 長	山田常雄(学1)		山口宗樹(学10)	
	監 事	空 席			
	幹 事 長	石井義章(学22)			
	幹 事	萩原 武(新10)		玉置 明(新18)	
	會計担当幹事	長谷川 健(新22)			
	凌泳編集幹事	堤 莊祐(新12)			
	支 部 幹 事				
	〔関東〕	支 部 長	山 口 宗 樹(学10)		
		富岡道雄(新4)	山 口 貴 彦(新10)	樋 口 周 平(新14)	丸 末 一 之(新25)
	〔中部〕	浅間啓介(新10)			
	〔中国〕	大内義仁(学8)			
	〔四国〕	中村市治(学9)			
	〔九州〕	印藤勝美(学13)			
	〔関西〕				
	京都	柳本正雄(新10)			
	大阪	玉置 明(新18)	井 上、与志男(新18)	後 藤 信 人(新26)	
	姫路	山口仁郎(新5)			

凌泳会會員名簿

物故會員

旧大高 三 古 繁 鈴 山 山 榑 岡 野 加 中 小 多 藤 姓 谷 田 輪 林 益 木 下 村 原 本 田 納 村 笠 田 井 (井 親 壽 嘉 喜 繁 不 虎 零 幸 曾 精 房 德 正 関 之 一 治 治 霸 藏 馨 一 一 一 茂 一 穂 雄 太 輔 三 郎 楽 郎 雄 藏 馨 一 一 一 茂 一 穂 雄 郎)	昭 2 15 15 14 14 14 13 12 12 12 11 11 10 10 21 20 20 19 19 19 18 17 17 17 16 16 15 15	大 10 高 特 特 15	年卒 次業
高村 栄 片 小 鍵 土 太 川 東 作 阪 田 茂 中 大 橋 上 口 山 西 本 肥 田 西 光 田 本 川 野 村 島 秀 昌 四 熊 芳 駒 武 武 耕 豊 亮 猛 勝 徹 造 二 郎 雄 次 郎 清 雄 三 三 一 一 雄 毅 利	13 13 12 11 9 8 7 7 7 4 3 3 3 3 2 7 7 6 5 3 2 26 26 26 23 22 22 22 22 21	昭 2 高 21 21	年卒 次業
今中 衣 伊 前 池 山 稻 柏 井 鈴 恩 部 新 松 和 井 島 川 藤 田 田 口 垣 木 上 木 地 坂 原 木 泉 彰 功 昭 郎 之 治 郎 懋 三 幸 介 伍 夫 夫 勇 弘 一 礼 熱 八 慶 正 啓 正 克 拓 真	30 28 24 21 19 18 17 16 16 16 16 16 15 14 新 專 16 14 13 12 11 11 11 10 10 10 9 8 3 1 1 16 14 13 12 11 11 11 10 10 10 9 8	昭 14 学 8 8	年卒 次業

## 商 神

1. 商神彩なす翹をあげて  
靈杖遙に東を指せば  
靈しき果実は雲間を漏りて  
秋津島根に落つとぞ見えし  
所はこそ菊水かおる  
淡河原の近きほとりに  
かく伝わりし天のさとしも  
人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし  
靈果いかで地に朽つべき  
豊栄のぼる朝日のかげに  
八州の外の潮風吹きて  
いつしか催す気運に乗じ  
わが学校ぞ世に生まれたる  
眠る商界夢さますべき  
使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰  
連り亘る山ぶところに  
数の若鷹はぐくまれ居て  
静かにうかぶ雲の行きかい  
朝妙なる琴のひびきは  
敏馬の浜に松を吹く風  
夕やさしき舞の姿は  
茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の  
寄せてはかえず清き渚や  
熱誠もゆる夏の盛りを  
いたわる風の葦合の里  
須磨や明石をかけて照るらん  
月には物のあわれをぞ知る  
冬は廣たる後に嵐  
奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は  
偉人傑士を起たしむとかや  
天の使命を胸に収めて  
清き自然に抱かれながら  
筋骨鍛え智徳を研く  
切磋琢磨の三年の春秋  
養い得たるうつ物の意気  
抱負を語れや千余のおのこ
6. 金歌無欠の三千余年  
かがやく光は劍の誉  
心はおなじ大和男子の  
我等は牙を執って起ちなん  
日出ずる旗を高くかざして  
日入らぬ国と手を携えて  
目ざす平和の戦の場に  
匂う御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて  
野に立出する蒼鷹幾羽  
爪も研ぎぬ力も足りぬ  
尋にも余るつばさを張れば  
枝の百鳥皆おそれ伏す  
扶揺万里の風を起して  
おのが向々東に西に  
雲に突き入る勢見るや

## 商

## 神

しょうしん あやなす つばさをあげて  
 れいじょう はるかに ひがしをさせば  
 くしきこのみは くもまをもりて  
 あきつーしまねに おつとぞみえしと  
 こーろはここぞきくすいかおるみ  
 つなとがわらのちかきほとりに  
 かくつたわりしあめのさとしも  
 ひとはさとらでいくとせかへぬ

# 水 泳 部 歌

作詩 古林 喜楽

作曲 山田 貴彦



1. ま や ろ っ こ う に い だ か れ て こ こ む こ が お か の  
 2. フ リ ー ブ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク リ レ ー に  
 3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ う だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て し ぶ  
 ボ ロ ま で も ぬ り え い け ん じ の い き た か し い ざ  
 ブ ー ル ベ に つ き み の え ん で - お よ ぎ や め く る



き(しぶき) を あ げ る け ん だ ー ん じ  
 や(いざや) - き そ わ ん う て を - ぶ し  
 な(くるな) つ ま っ - て い き り - た つ

一、摩耶六甲に抱かれて

ここ六甲ヶ丘の水清し  
 茅渚の浦曲を見下して  
 しぶきをあげる健男子

二、フリープレスト バタフライ

バックリレーにボロまでも  
 凌泳健児の意気高し  
 いざや競わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部

六甲台のプール辺に  
 月見の宴で泳ぎ止め  
 来る夏待っていきり立つ

# 宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩 古林 喜楽  
作曲 竹内 平吉

勇壮に元気よく



まやろっこうに いだかれーて



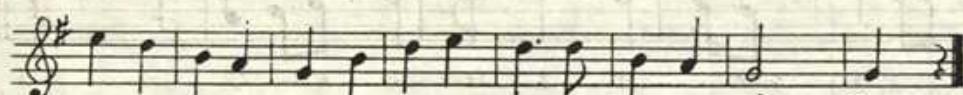
みどりのそのに はなふりかゝる



ここ ~~か~~ の一べの わこらどーが



もゆるおもいを むねにひーめ



まなぶや ゆうひの ときをきし

三

燃ゆる紅葉たそがれて  
宵闇せまる山路を踏めば  
真理に挑む若鷹が  
ネオンの海を見おろして  
いよよ決意をかたむ哉

四

身に沁みわたる峯おろし  
冬来りなば春近し  
巢立つ晴れの日時せまる  
翼ひろげて悠然と  
宇宙を股に羽ばたかん

一

摩耶六甲に抱かれて  
緑の園に花ふりかかる  
ここ丘の上の若人が  
燃ゆる思いを胸に秘め  
学ぶや雄飛の時を期し

二

ヒマラヤ杉を背に受けて  
茅渚の浦ゆ紀伊の山  
右手に四国よ淡路島  
左手にうかぶ金剛山  
大らかにぞ抱負わく

# 栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞 敷島富四雄  
作曲 黒田 浩一  
編曲 土橋 康宏

たて や たー て われらがえらばれ  
しせんし ほこうのたかき ほまれにかけて た  
だ めざす しょうりのかわり  
ふる えいざ ふるーえ ちからのかぎり かがやかんえい  
こうはつーね に われらーにー  
こうべこうべこうべ われらがこうべ だいがーく ゆけ

一、 起てや起て  
われらが選ばれし戦士  
母校の高き蒼にかけて  
ただ目指す勝利の栄冠  
振るえいざ振るえ力の限り  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学

二、 征けや征け  
われらが選ばれし戦士  
若人の大い誇を秘めて  
胸深く制覇の誓  
振るえいざ振るえ雄々しく強く  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学

三、 開けや開け  
われらが選ばれし戦士  
青春の若き血潮たぎらせ  
相和するからどきの歌  
振るえいざ振るえ意気いや高く  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学

編集後記

若葉の緑も清々しい今日この頃、そろそろ練習も本格的になり、活気あふれる毎日です。

兵庫インカレV2はもちろん、関西国公立大会優勝、関西インカレ一部昇格等今年 of 目標を考えると、今年は我々にとって一にも二にも、がんばらねばならない年だと思います。

さて、今年もようやく凌泳発行にこぎつけることができました。本年号は昨年の兵庫インカレ初優勝の記念として、特集を組んだわけですが、その他数多くの原稿が集まり、なかなか充実したものにすることができました。本号に御寄稿下さった方々に厚く御礼を申し上げます。次号にも更に多くの御寄稿を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

最後に、本号について何かお気付きの点がございましたら、何卒お知らせ下さい。

酒井 潤

昭和五十六年五月二〇日発行  
発行所 神戸市灘区六甲台町二

凌 泳 会  
神戸大学水泳部

原稿等郵送宛先

▽六五七  
神戸市灘区六甲台町二  
神戸大学水泳部

会費等振込口座

郵便振替口座番号

神戸一二三一一

加入者名

神戸大学凌泳会

編集 神戸大学水泳部凌泳編集係

発行者 酒井 潤

印刷所 大阪市東住吉区桑津二丁目

進友美術印刷

電話(〇六)七一一四一六五五